

チベット語訳『妙法蓮華註』「序品」和訳(2)

望月 海慧

1. はじめに

本稿は、先行する「チベット語訳『妙法蓮華註』和訳」に続くものである。今回は第1章「序品」の冒頭の衆会を列挙した箇所続く部分の和訳を提示する⁽¹⁾。既出の和訳を提示すると次の通りである。

- ①「チベット語訳『妙法蓮華註』の序文の構成について」『身延山大学仏教学部紀要』13, 2013, pp. 1-22.
- ②「チベット語訳『妙法蓮華註』「序品」和訳(1)」『身延山大学仏教学部紀要』18, 2017, pp. 1-39.
- ③「チベット語訳『妙法蓮華註』「方便品」和訳(1)」『身延論叢』23, 2018, pp. 1-40.
- ④「チベット語訳『妙法蓮華註』「信解品」和訳」『大崎学報』173, 2017, pp. 37-80.
- ⑤「チベット語訳『妙法蓮華註』「藥草喻品」和訳」『身延山大学東洋文化研究所報』19, 2015, pp. 77-103.
- ⑥「チベット語訳『妙法蓮華註』「授記品」和訳」『身延山大学仏教学部紀要』15, 2014, pp. 1-18.
- ⑦「チベット語訳『妙法蓮華註』「化城喻品」和訳」『身延論叢』20, 2015, pp. 1-54.
- ⑧「チベット語訳『妙法蓮華註』「五百弟子受記品」和訳」『身延論叢』19, 2014, pp. 35-58.
- ⑨「チベット語訳『妙法蓮華註』「授学無学人記品」和訳」『日蓮教学教団史の諸問題』山喜房佛書林, 2014, pp. 41-51.
- ⑩「チベット語訳『妙法蓮華註』「法師品」和訳」『法華文化研究』39, 2013, pp. 1-15.
- ⑪「チベット語訳『妙法蓮華註』「見宝塔品」和訳」『日蓮仏教研究』6, 2014, pp. 7-22.

本稿で「序本」の残りが完了し、第2章「方便品」の後半と第3章「譬喻品」の和訳が未発表である。

2. 『妙法蓮華註』「序品」の構成(承前)

前稿では、「如是我聞」に続いて、靈鷲山において世尊とともに座していた衆会を列挙した部分までの和訳を提示した。この後半は、世尊が無量義処三昧に入られた際の奇瑞の描写と、

マイトレーヤが奇瑞の因縁をマンジュシュリーに尋ねた部分と、マンジュシュリーが返答した部分により構成されている。この問答部分は、それぞれ散文と偈頌から成り立っている。この箇所に対する本論の構成は、次の通りである。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| [29] 四衆 | [30] 如来による法の解説 |
| [31] 円満な行道たる正法 | [32] 花が降ること |
| [33] 国土の振動 | [34] 衆生世間 |
| [35] 円満な原因 | [36] 境を現すこと |
| [37] 7 境 | [38] 三宝の生起 |
| [39] 菩薩のサンガ | [40] 涅槃後の行 |
| [41] マイトレーヤの質問の開始 | [42] マンジュシュリーに対する質問 |
| [43] マンジュシュリーに善があること | [44] 奇瑞と神変に関する質問 |
| [45] 質問のまとめ | [46] マイトレーヤの偈の導入 |
| [47] 光明による導入 | [48] 行道の意味 |
| [49] 衆会の歓喜 | [50] 対象を明らかにすること |
| [51] 明らかにされるべきもの | [52] 世尊の顕現 |
| [53] 法の聴聞 | [54] 三乗の次第 |
| [55] 四衆を明らかにすること | [56] 菩薩行 |
| [57] 布施の特徴 | [58] 持戒の特徴 |
| [58] 忍の特徴 | [60] 精進の特徴 |
| [61] 禪定の特徴 | [62] 智慧の特徴 |
| [63] 智慧と三昧をともなうこと | [64] 世間の 8 風に揺れないこと |
| [65] 心で導くこと | [66] 精進行 |
| [67] 持戒行 | [68] 忍行 |
| [69] 禪定行 | [70] 布施行 |
| [71] 智慧行 | [72] 舍利の供養 |
| [73] 塔の建立 | [74] 八衆による供養 |
| [75] 世間の莊嚴 | [76] 請願の意味 |
| [77] 自他の願望を満たすこと | [78] 質問への返答 |
| [79] 返答と授記と大義 | [80] 実際の質問 |
| [81] マンジュシュリーが返答する理由 | [82] 質問への返答 |
| [83] 甚深なる意味の原因 | [84] 教義のままに入ること |
| [85] 8 因 | [86] 日月灯明の意味 |

- | | |
|----------------------|---------------------|
| [87] 特別な法 | [88] 有情利益 |
| [89] 特別な生まれ | [90] 同じ意味からの質問 |
| [91] 八王子の名称 | [92] 八王子の威徳 |
| [93] 出家 | [94] 同時に成立すること |
| [95] 三昧に入ること | [96] 器世間 |
| [97] 衆生世間 | [98] 同じ説法の理由 |
| [99] 聴聞の歓喜と過去の説法の理由 | [100] 明らかになる衆会 |
| [101] 経典と時間の長短と大衆の安楽 | [102] 奇瑞の理趣 |
| [103] 善根が熟する授記 | [104] 仏が世間に生まれた理由 |
| [105] 法を受持する理由 | [106] 進入の理由 |
| [107] 憶念と説法と清浄の理由 | [108] 証因の理由 |
| [109] 返答のまとめ | [110] マンジュシュリーの偈の導入 |
| [111] 円満な衆会 | [112] 円満な時 |
| [113] 円満な行道 | [114] 器世間と衆生世間 |
| [115] 円満な原因 | [116] 六趣 |
| [117] 仏を見ること | [118] 八衆による供養 |
| [119] 法を聞くこと | [120] 菩薩による波羅蜜行 |
| [121] 円満な返答 | [122] 法の受持と善因に入ること |
| [123] 菩提に入る因縁 | [124] 如来の説法の因縁 |
| [125] 過去の記憶の因縁 | [126] 求名の煩惱の因縁 |
| [127] 浄化の因縁 | [128] 過去世物語との結合 |
| [129] 返答のまとめ | |

これらのうち、[29] から [40] が、世尊が無量義処三昧に入られた際の描写であり、[41] から [45] がマイトレーヤの質問で、[47] から [80] まだが偈頌による繰り返しであり、[81] から [109] がマンジュシュリーによる返答で、[110] から [129] まだが偈頌による繰り返しである。

これらの構成に基づいて、チベット語訳と漢文との構成上の相違について見てみる。まず、チベット語訳の [42] において、漢文の【53】と【54】が1つにまとめられている。そのうち、【53】はマイトレーヤが、奇瑞の意味を誰に尋ねたらいいのかを自問するものであり、【54】は彼がそれをマンジュシュリーに尋ねようという決意である。チベット語訳は、これらの2項の引用句を1つにまとめているものの、【53】に対する翻訳は行われていない。

[46] の偈の導入部の語句については、対応箇所を漢文に確認できるものの、漢文では経典

の引用句としての項目立てを行っておらず、チベット語訳の [45] と [46] が漢文の [57] に相当する。漢文の複数の項目をチベット語訳で1つにまとめる事例は多く見られるが、その反対に、漢文の1つの説明箇所をチベット語訳で2つに分ける事例は、本論では稀である。

続くマイトレーヤの偈は、玄賛が依拠する『妙法蓮華經』では62偈、サンスクリットでは56偈であるのに対して、チベット語訳では55偈である。漢文がチベット語訳より7偈多くなっているわけだが、新たな偈が加えられたわけではなく、翻訳上の都合で多くなっている。それ故に、本論の引用文でも漢文とチベット語訳の引用文にはほとんど違いはないのだが、それぞれの『法華經』においてパーダの位置にずれが生じている。それを踏まえて、両者の構造を比較してみると、漢文は、この62偈を [58] から [91] の33項に分けているのに対し、チベット語訳は55偈を [47] から [80] 同じ33項目に分けている。項目が一致しているのに対して、チベット語訳では偈の数が少ないために、漢文と整合性を満たすことができなくなっている。すなわち、チベット語訳は、漢文に偈の数字に従って翻訳するものの、実際の偈の総数と合わなくなり、途中で偈の数に関する記述の翻訳を省略する箇所も見られる⁽²⁾。

後半のマンジュシュリーによる返答の箇所では、[83] において漢文の [94] と [95] が1つにまとめられている。これらは、[94] の末尾の「文中に3有り」以下の漢文の翻訳が省略されており、[95] がこの省略された第2項目に相応するために、チベット語訳は翻訳を省略したのであろう。[89] においても、漢文の [101] と [102] が1つにまとめられており、[93] においても、漢文の [106] と [107] と [108] が1つにまとめられているが、これも前項と同じように、[101] の「2有り」の後半が [102] であり、[106] の「3有り」の後半の2項が [107] と [108] であり、チベット語訳では各項目の見出ししか翻訳していないために、1つにまとめられている。さらに [99] では、[114] と [115] の見出しのみが翻訳され、漢文にない「他は理解し易いので解説しない」という句を挿入し、省略の理由が述べられている。[101] においても、[117] [118] [119] の下部項目の見出しのみが翻訳され、解説文は「他は理解し易いので解説しない」として省略されている。

しかしながら、[104] は [122] に相当するものの、続く [123] と [124] は上記のような下部項ではない。チベット語訳の經文の引用文も漢文とは異なるだけでなく、続く [105] と同一なので、經文の特定ができていなかったのかもしれない。[107] は、經典の引用文も含めて [127] [128] [129] を1つにまとめている。

最後の、マンジュシュリーの偈についても、漢文は45偈であるのに対して、チベット語訳は44偈である。漢文では、これを長行の重偈にあたる43偈と残りの2偈とに区別する。このうち、[120] は漢文の [142] [143] [144] に相応しており、科文の構造では [142] と [143] は並列関係にあるものの、[144] は2つ上の上部構造に位置するものである。さらに、続く [122] においても、[146] [147] [148] [149] [150] [151] [152] [153] の8項を1つにまとめている。

るが、漢文の科文に従うと、【146】、【147】【148】【149】、【150】【151】、【152】、【153】 5つに分けられ、【146】は続く6つより1つ下の構造に属し、【153】は1つ上の構造に属するものである。これらのことから、チベット語訳者は漢文の科文構造を理解していなかったことがわかる。さらに、末尾の[128]では、【159】と【160】が1つに、[129]では、【161】【162】【163】が1つにされているが、漢文の科文では、【159】【160】【161】が重偈の末尾3偈に相応し、【162】【163】が散文に現れない偈であり、チベット語訳者は、この区別も理解していなかったことがわかる。このことは、偈頌の総数がチベット語訳では漢文より1偈少ないことに起因しているのかもしれない。

また、本注釈書は世親の『妙法蓮華經憂婆提舍（＝法華論）』に依拠しながら著されており、チベット語訳者もそれを認識していることから、『法華論』の引用は省略せずに、「註釈より（'grel pa）」として翻訳している。この語はチベット語訳に50例を確認でき、このうち40例が『法華論』に対応し、序文の1例を加えた最初の20例が「序品」に現れている。『法華論』自身が最初の「序品」の解説を詳細に行っているからであるが、『法華玄賛』の著者だけでなく、チベット語訳者もそのことを理解して「序品」を読んでいたことがわかる⁽³⁾。

3. チベット語訳テキストの和訳

[29] 経に、「また、その時、世尊は四衆により囲まれ、供養され、尊敬され」と言うまでには⁽⁴⁾、円満な衆会を4つに分け、3つはすでに説いており、これは第4である。四衆について「魔と梵天と比丘とバラモンの衆会」とも解説される。また衆会は4種で、声聞の衆会であるシャーリプトラと菩薩のマイトレヤのような法を述べる衆会と、根が熟して法を理解した衆会と、善因などの衆会と、未来に入るであろう衆会である。また四衆は、比丘と比丘尼と優婆塞と優婆夷の衆会である⁽⁵⁾。

[30] 経に、「『疑いのない大いなる説法』と言うとても広大な法の經典で、菩薩たちに対する教誡で、すべての仏が保持したものの解説をお願いします」とは⁽⁶⁾、如来が法を解説したその時にも3種あり、先に菩薩たちに「無量の大乗による疑いのない説法」と言う法門を説き、次に声聞たちのために一乗を説いたものと、利他として聖教と論理により菩薩に一乗を説き、その次に自利として行と結果を説いたものと、第3に先に法の特徴を説き、後に法の力を説いたもので、疑いのないとされるのでこの經典が説かれている。「大乗」とは、意味が6つで、二乗を越えたものと、仏地にこれにより至ることと、仏の乗り物より大きな乗り物であることと、大苦を寂靜にして大樂を与えることと、聖觀自在などの偉大の人の乗り物であることと、諸法の究極となすことなので『攝大乘論』にも、

乗でもあり、大でもあるので、大乘である。これにより乗せるので乗である。大とは、七相をとまうので大であり、行境と、心と、知恵と、精進と、方便と、得と、業が大きい

ので大である⁽⁷⁾。

と言われる。「無量の疑いのない説法」と言うのは、この經典の異門の名称で、この注釈に⁽⁸⁾、經典の名称の異門が17存在し、この經典は、菩薩である大乘の行者に解説したので無量の疑いのない意味である。菩薩たちに説かれ、如来により把握され、如来の秘密と、如来たちの功德の所作と、如来たちの教誡の場所と、如来たちの生起と、如来たちの界と、如来たちの舍利を説くことと、善巧方便により一乗を示し、無上の場所が「妙法蓮華」と言われる正法である。注釈に⁽⁹⁾、「無量の疑いのない説法」とは、円満な言葉と意味の名称の異門が17で、この法門により他の甚深なる法門も示している。説く聖典と解説する結果のどちらも無量であるから。衆生たちの自性は無限なので諸法も無限である。法が無限なので意味も無限である。意味の無限は一法が起こしたものである。一法は、無相の法で、菩薩たちはとどまるべきである。それ自身が真実で、慈愛と悲心を持ち、衆生を苦の地から引き出し、楽の場に入れる。善男子である菩薩たちは無限のその1つの法門を成就することで速やかに無上の菩提を得る。すなわち、例えば、1つの種子が生じれば、数百千が生じるようになる。数百千からもそのように生じて、無限になるように、この經典もその如くで、一法により無量百千の意味が起こされる。その意味からもそのように多くが生じるので、無限の意味になるのでこの經典も「無量の疑いのない説法」と言われる。また、「この經典は最高であり、あるいは尊大である」と述べられる。三蔵の中からこの蔵は正しいものであるから。また、この經典は、広大な大乘の疑いのない門であり、衆生たちの根に依じて受持するので円満な受持である。また、これは菩薩たちに対する教誡の法である。根が熟した者たちに対して器のままに法を説くので、二乗とならないから。また、これは如来たちにより受持される。他の場所にないから。また、これは如来の教えの法である。この法はとても深いので、仏だけが知るもので、秘密は「蔵」という意味である。また、これは如来たちの功德の所作で、福德と三昧などの所作であるから。

『妙法蓮華註』第2巻。

また、これは如来の秘密の場である。根がまだ熟さず、器になっていない者に与えられるものではない。また、これは如来たちが生じて、この法門を聞くので変化身と報身を獲得するから。また、これは如来の界である。この法により無上の菩提を成就するが、他の經典によりなされないの、如来の法身と知恵を示しているから。また、これは如来の法身である。法により障碍を浄化するから。また、これは三時の如来たちの舍利を説いている。それも、如来の功德と法身をこの中に説いているから。また、善巧方便である。この法の意味に依ること、正等覚を得る。仏も天と人などの衆生たちに対して乗である5種の法により菩提を得る知恵と方便を示しているから。また、これは一乗を示すので無上の菩提の本質を示すものであるが、声聞と独覺の地は正しい辺際ではない。また、これは勝義の場所で、この法は如来の法身の真実の場であり、法身自身が正しいので「正しい場所」と言われる。また、この「妙法蓮華」とは、

注釈より⁽¹⁰⁾ 2種である。水から生じる意味と、花が咲く意味である。水から生じる意味も2種である。二乗が汚れを伴う水から生じることで、「すぐに理解する菩薩自身は、蓮華のように汚れを離れて、堅固な法性の在り方である一乗の教義を理解している」と言う意味を説いている。また、二乗が汚れた水の中から生じて、如来の大衆に入ることは、「菩薩が蓮華座に入り、無量の疑いのない清浄な知恵の行境である如来の秘密の蔵を理解するように、声聞たちも次第に正しい聖教と教義と行と結果に入る」と言う意味である。また、これは無上の法門である。一切の円満が集まるから。集まるとは、無限の名称と言葉と文字の一切の資糧が集まるので無上である。解説するものと解説されるものの一切法がここに収められているから。この17の異門から、これは一般的言葉である。他は、区別する言葉である。この經典自身の異門が3つ生じている。「無量の疑いのない」とは、加持の殊勝が説かれている。菩薩に対する教誡は、根が熟した者たちのために説かれた意味である。一切の仏が保持しているとは、「仏自身に依る」と言う意味であり、この3つが最高であるので述べられている。無量に2種があり、無量の意味と無量の言葉である。無量の言葉は、説く法である。意味は、説かれるべき法である⁽¹¹⁾。

[31] 経に、「世尊はその法座で足を組んでから『無量の疑いのない説法』と言う三昧に入定して、身体を動かさずに座し、心が動かないようになる」と言うことは⁽¹²⁾、円満な行道の正法を示しており、この甚深なる法を説き、正しい行道に入って、法を説くのに相応しいので足を組んで坐っている。座も2種で、魔を調伏する座と、吉祥の在り方の座で、これは最初⁽¹³⁾の在り方での座である。正しい行道も3種で、円満な三昧に入ることによって身体と心が動かないようになっている。また、器世間に天の華が降り、国土が振動するところに座している。また、衆生世間におり、四衆と八衆に囲まれ、三昧に入り、甚深なる法を理解させることで衆会は喜び、顔を見て、座している。「入定する」とは、「無量の甚深なる意味に心を入定させる」と言う意味である。注釈より⁽¹⁴⁾、三昧に2種あり、心と身体に精通し、円満なので、この甚深を解説し、三昧に入らなければ、動くことと考察が生じるので三昧に入り、一切の障碍を離れることが精通することで、「三昧に入る者が三昧により一切の障碍を取り除いているので説法に精通している」と言う意味である。注釈より⁽¹⁵⁾、精通も2種で、衆生のそれぞれの根に応じて説かれるので菩提の方向に入り、それぞれの方便と対治を合わせることで無漏の道を示し、2つに無始の時から煩惱によりきつく縛られた衆生たちはその対治として分別と動くことと怒りの心などの業が寂滅されるので、その三昧に入り、力で制御している。注釈より⁽¹⁶⁾、「三昧に入ったので大地が動き、過去の無量劫を超えた意味」と言うのも、三昧に入ってから生じるが、他のものによらないことである。「世尊には、三昧に入らない心と行はなく、一切時に三昧の行をともなっている」と出ていおり、「何故ならば世尊が三昧に入る」と言われる。意味は10種なので、三昧に入り、三昧から起きることで有情を利益するためであり、世尊が法性の三昧に入ってから光を放つなどをなされるので三昧に入らなければそれらの奇瑞も世尊のもの

ではないという疑いを取り除き、また法を説くことは三昧の根を集めることが説かれており、甚深なる法は三昧に入らなければ理解し難く、尊敬が生じることを説いており、「智慧は、三昧に入ることによって始めて生じるが、他のことでは生じない」とは、三昧の修習を把握するためであり、三昧と智慧の円満により法を示すが、円満ではないことでなされないことを説いており、未来に法を示す者たちはその在り方に似た心で説法が同時に説かれており、この在り方を示すことで他の者たちも心を確かなものにすることが聞を受持する特徴であることにより他者も心が確かなることにより説かれており、三昧に入って多くの奇瑞を説くことで聖マイトレーヤなどが法を尋ねようとする考察が生じるが、他の者はなさず、また、3つの秘密が説かれており、すなわち、三昧に入ることによる心の秘密と、光明などの奇瑞による身体秘密と、法を示すことによる語の秘密が示されている。また、分別論者が「妙法蓮華の解説を意図するならば、妙法蓮華の三昧に入ることに対応しいが、無量の意味の三昧に入ることに対応しくない」と言われ、それは、『金剛經』にも、「伸ばした身体を記憶することに専念して法を説く」と出ているように、先に無量で疑いのない三昧に入って、後に妙法の蓮華を説くことも、前者は、菩薩のために説いたもので、後者は声聞のために説いたものであり、また前者は自性が、後者はなすべき行為が説かれており、それぞれの根の次第と合わせており、名称を名付けることに矛盾はない⁽¹⁷⁾。

[32] 經に、「世尊が三昧に入った直後に」と言うものから「花の雨が降り注ぐ」と言うまでには⁽¹⁸⁾、器世間に2種あり、花が降ることと、大地が揺れることで、今ここで花が降ることは、好ましい花と、喜ばせるものなので、この法を聞いた者たちは、心が寂靜になり、歡喜を起こすからである。それらの花の功德も5種で、口を開けたり閉じたりしてもこの法を聞くことで煩惱の垢を離れることを説いたものと、世間の莊嚴をなすことは、この法を聞くことで多くの功德で身体を飾り、口を開くことで一乗の意味を開くことを説いており、花に続いて実が生じるように、この法を聞くことで大菩提の結果を得て、好ましいよい香りは、この法を聞くことで内の円満な功德により十方の世間界が好ましい功德で満たされている。4種の天の花を述べたことは、4種の衆会が聖者の功德の四法である四神足などを得て、束縛などの行の意味を説いたのである⁽¹⁹⁾。

[33] 經に、「すべての仏国土も6種に揺れた」とは⁽²⁰⁾、如来シャーキャムニの国土は、三千大千の世間界で、「震動する」と言う意味である。「一切の国土」とは、その国土が震動させられるが、十方の世間界が揺れるのではない。その震動も3種で、如来の入胎と、出胎と、出家と、成道と、転法輪と、涅槃の時に揺れており、これは転法輪と合わせられる。また、『大般若波羅蜜經』に6種の震動があり、東方が低ければ西方が高く、端が低ければ中央が高いまでの6種である。また、6種の特徴で揺れ、『般若波羅蜜』に、震動は、「あまねく揺れる」というものから「激しく揺れる」までで、「揺れる」とは小さく揺れることである。あまねく揺

れるとは、すべての方向で揺れることで、後のものもそのように合わせられる。それが揺れたことは何を意図しているのか、と言え、意味が7種であるから。すなわち、魔と外道を嫌悪し、心が散乱した衆会たちは心をまとめ、また傲慢にとどまる者たちが法に入るために他のものを投げ捨て、法の特徴に心を入れ、分別の場所が説かれ、成熟した者に解脱を獲得させ、真実の意味を尋ねることが請願されるので、大地の震動が説かれている⁽²¹⁾。

[34] 経に、「また、その時その衆会に如何なる比丘と」と言うものから、「世尊を見て、珍しく希有なものを喜ぶ」と言うまでには⁽²²⁾、これ以後は衆生世間が説かれており、それも四衆にまとめられる。四衆と八衆と、二王と、明らかな歡喜である⁽²³⁾。

[35] 経に、「世尊の眉間の白毫相から1つの光が生じ」と言うのは⁽²⁴⁾、それ以後に解説する円満な原因が説かれており、注釈より⁽²⁵⁾、多くの有情がそのような珍しい奇瑞となることを見れば、その如来も我々に法を語られる、という思いを広げる心が生じる解説の円満なる原因で、その光を放つことで世間界に目的のすべての相を明らかにするのである。また、世尊が法を示すことは、多くの有情の利益のためなので聴衆たちに広げ、聞き難い心が生じるので「解説する原因」と言うことで、それ故に光が遠くまで明るくしている。第2に6種に揺れることを説いてから、その次に、説法をなしたのは、甚深なる法を自証する意味なので前に神変が説かれ、最初にこの法を説いたことで、それ故に「法を解説する原因」と言われる。先に天の花が降り、大地が震動することを説いたのも不可思議なことをなしたのであるが、この光による顕現自身が甚深なる法の自証を説いているが、不可思議な奇瑞をすべてが見るので「解説の原因」と言われている。光を放って、場所を明らかにして見るのであり、これが最初で、眉のような飾りであるように、その大乘の典籍も最高であると説かれており、「間」と説くことで中の意味が解説されており、「白」と述べることですべての色の根本であり、そのように、この經典も三乗の根本であると説かれている。その白毫も、とても難しく、伸びていれば遠く、引っ込めば短い。その光も7種で、偉大な人の部分であることで有情に信が生じるようになり、闇を取り除くことで無明の地を取り除き、その顕現により説明することで世間から導き、内の説法が知恵の光であることを説明し、光が触れた者は苦が寂滅し、光が触れた者は法を聞くことを請願され、境に執着する者は貧困を起こしているので、7つである。1つにして「神力品」で説かれている⁽²⁶⁾。

[36] 経に、「それは東の一万八千の仏国土」と言うものから「光明が悉く遍満して現れた」と言うまでには⁽²⁷⁾、境を現すことが説かれており、国土は1万8千である。「東方」と言うのは、方向の最高であるようにこの説かれたものは乗の最高である。最初にそこに降ることも、譬喩である太陽が高い山に最初に降るように、この經典も最初に根が成熟した者たちに現れている。地獄を顕現させることは、苦を寂滅させることで、天界を顕現させることは大乘を聞くことを請願することであり、「心で満たす」と言う意味である。「無間地獄」とは、苦の領受に

苦しめられる機会がないからである⁽²⁸⁾。

[37] 経に、「それらの仏国土の六趣にいる一切の衆生が残らずに現れた」とは⁽²⁹⁾、これが現す境が説かれており、それも7種である。六趣と仏と法と僧と菩薩と涅槃と塔である。それも、3部に分けられ、輪廻を転じる衆生を明らかにしたものと、三宝を明らかにしたものと、涅槃の行が説かれている。六趣についても、6つに区別され、その名称を説いたものと、生じた原因と、区別とまとめを説いたものと、場所を説いたものと、寿命の円満を説いたものと、原因と結果の特徴を説いたものである。名称を説いたものは、「6」は数である。「趣」とは、「煩惱と業により起こされ五蘊としてさまざまな場所に行く」と言う意味である。自分がなした業を行わずるので天である。また、欲と神通をもつものが天である。心が多いものが人である。飢えの苦により苦しめられるものが餓鬼である。その下に行くので地獄である。切られ、踏まれるなどの基になっているので地獄である。非天は、前に説いたものである。生じた原因は、六趣のすべても異熟識により起こされた自性をもつ無覆無記である。まとめと区別として、「六趣」と言うものがまとめである。それも善を起こしたものと、不善を起こしたものに区別される。また、「輪廻」とはまとめである。三有と四生は区別である。場所は三界である⁽³⁰⁾。

[38] 経に、「それらの仏の国土に仏世尊がおり、世話をしてから結果を得たものと得ていないもののすべても現れる」と言うこれは⁽³¹⁾、三宝の生起が説かれており、仏と法とサンガが現れている。サンガにも2種あり、声聞のサンガと菩薩のサンガである。声聞のサンガにも、聖者の結果を獲得するものと、瑜伽の道にとどまり結果を獲得しないものとの2種である⁽³²⁾。

[39] 経に、「それらの仏の国土に菩薩摩訶薩」と言うものから、「一切の行が現れる」と言うものは⁽³³⁾、菩薩のサンガで、多くの有情を苦の地から引き出すために信と種々の方便により菩提の方向に入れ、行と仏国土を莊嚴するので、四摂事と、波羅蜜などの菩提の種々なる行を行うことが、菩薩の行であり、信は信解による行で、聖者の結果を得ない地である。注釈からも⁽³⁴⁾、四摂事により一切の衆生に方便をまとめて説いたものに入れることが菩薩の行で、布施と、愛語と、利益の行と、同じ目的により導くのである⁽³⁵⁾。

[40] 経に、「それらの仏国土に宝珠から作られた舎利の塔が現れる」と言うのは⁽³⁶⁾、涅槃の次の行が説かれており、涅槃に入ることと塔が説かれている。涅槃も6種で、自性と、名称と、時と、人と、説いたものと、涅槃に入る意味である。自性に4種あり、自性による涅槃と、有余依涅槃と、無余依涅槃と、無住处涅槃である。その4つが一般的に涅槃で、真実としては一義である。世尊が明らかに悟られてからまだ解脱していない衆生を解脱させることである。原因がある者が、涅槃の次に塔を建てることで解脱するようになる原因が説かれている⁽³⁷⁾。

[41] 経に、「それからマイトレーヤ菩薩摩訶薩は、次のように考えた。如来によるこの大神変の所作は何の奇瑞を」と言うことは⁽³⁸⁾、多くの衆会たちの中で、それらの奇瑞を劣根の者たちは如何なる奇瑞として説かれたのかを知らないの、聖者であるマイトレーヤ菩薩が多く

の有情の疑惑を取り除くために質問を始めたのである⁽³⁹⁾。

[42] 経に、「この意味を私は誰に尋ね、誰が答えることができるのか。それも、この如くである」と言うものから「マンジュシュリー法王子にこの意味を尋ねよう」と考えることは⁽⁴⁰⁾、「世尊が不可思議な神変が説いたこれをマンジュシュリー法王子に尋ねよう」と、大きな善がマンジュシュリーにあることが説かれており、以前の王に所作をなしてから法の摂政に灌頂しており、注釈にも⁽⁴¹⁾、「甚深なる意味を1つ尋ね、多くのものが聞くのですべての疑惑を断じるものが、マンジュシュリー法王子である」と出ている。また、注釈にも⁽⁴²⁾、仏と菩薩の意図が同じになることで成就と解説の法の両方が成立しているから、大きな奇瑞が説かれた勝義のこの法自身を解説する導入であるから。この法を疑うことを何故にマンジュシュリー法王子だけに質問するのか、と言え、意味は2種であるから。この法自身をマンジュシュリー法王子だけが明らかにしているからであり、自分の心で理解しており、他者に聞く必要がないからである。また、注釈に⁽⁴³⁾、マンジュシュリー法王子がその問いの授記をできるのは、そのマンジュシュリーが2つの円満をとまなっているからで、福德の円満と知恵の円満である。その2つの原因が円満なのでその法を説くのに相応しい⁽⁴⁴⁾。

[43] 経に、「比丘と比丘尼」から「私たちが誰に質問をしよう」と言うまでは⁽⁴⁵⁾、意味が容易なので解説しない⁽⁴⁶⁾。

[44] それから、また、「マイトレーヤ菩薩摩訶薩がマンジュシュリー法王子に、このような述べている」とは⁽⁴⁷⁾、2種の意味により導入する法を尋ねており、先に長行により解説され、その次に偈頌によりまとめて説かれている⁽⁴⁸⁾。

[45] 経に、「マンジュシュリーに対して、世尊がこのような奇瑞を」と言うものから「これは如何なる理由で、いかなる縁か」と言うまでには⁽⁴⁹⁾、奇瑞と神変の問いがまとめられている。「これらの種々なる国土を見れば、喜ばしく」とは、如来の国土の種々なる相で、国土は清浄なものと清浄ではないものとである。仏が最初に来るのは、菩薩らの導師であるからである⁽⁵⁰⁾。

[46] 経に、「この偈を説く」とは⁽⁵¹⁾、この偈のまとめで、10の部分に分けられる。鋭根と鈍根の両者に対する利益と、前後の2種の衆会を助けることと、正直な者とそうではない者の両者を喜ばせることと、困難と容易の両方のためと、勝義と世俗の両方の意味と、取捨の両方の部分と、明らかなものと明らかなではないものの区別と、知恵と自信の区別と、疑惑と束縛の区別と、解説と行を説いたものである⁽⁵²⁾。

[47] 経に、「マンジュシュリー」と言うものから「顔の白毫」と言うまでには⁽⁵³⁾、これらの偈頌に62偈があり、2つの部分に分けられる。最初の54偈により奇瑞の意味が説かれており、8偈により意味を尋ねている。最初にも3種あり、最初の1偈は、光により明らかにされた導入を示している。その次の3偈により花が降り大地が揺れる行道が説かれている。その次の50偈により諸境を明らかにする導入が説かれており、これは最初である⁽⁵⁴⁾。

[48] 経に、「曼荼羅華の大雨も」と言うものから「何によりそれが飾られているのか」と言うまで⁽⁵⁵⁾、そのうち3偈により3種の行道の意味が説かれており、1偈半により花の雨が降ることが説かれ、半偈により大地の震動が説かれ、1偈により四衆の歡喜が説かれており、これは花の雨が降ることが説かれている。それらの花は栴檀の甘い香りをともない、好ましいものでその国土は飾られている⁽⁵⁶⁾。

[49] 経に、「それらの四衆は歡喜を得て、この一切の国土は普く大きく揺れた」と言うのは⁽⁵⁷⁾、大地の震動でこれらの衆会の歡喜が説かれている⁽⁵⁸⁾。

[50] 経に、「その光は東の方向に」と言うものから「無間地獄から有頂まで」と言うまでには⁽⁵⁹⁾、50偈により境を明らかにすることが説かれており、そのうち半偈により明らかになる境が説かれ、他者が見ることが説かれており、これにより器世間を顯現させることが説かれている。「金色に顯現する」と言うものは、この一乗が宝として説かれている⁽⁶⁰⁾。

[51] 経に、「それらの国土にいる限りの衆生たち」と言うものから「有情の樂と非樂も明らかにする」と言うまでには⁽⁶¹⁾、顯現させられるものが説かれており、6部に分けられる。1偈半により六趣が説かれ、半偈により仏世尊が説かれ、その次に6偈半により法を聞くことが説かれ、また1偈半により四衆が説かれ、その次に31偈により菩薩の行が説かれており、7偈により涅槃と塔が説かれており、これにより最初のものから善と不善により生じた六趣で、業と煩惱により樂と非樂の成熟を領受する者たちが明らかにされている⁽⁶²⁾。

[52] また、経に「よいものと悪いものと、そのように中間のもの」と言うものから「仏はこの法を明らかに示すことは」と言うまでには⁽⁶³⁾、世尊の顯現が説かれており、世尊自身は獅子のように恐れがなく法を説くことに精通している⁽⁶⁴⁾。

[53] 「仏が法を明らかに説くことは」とは⁽⁶⁵⁾、法を聞くことが説かれており、それぞれの自信を正しく理解しているので譬喩と意味が明らかに説かれている⁽⁶⁶⁾。

[54] 経に、「苦に苦しんでいる衆生たち」と言うものから、「彼らに菩提のために賞讃を説いている」と言うまでには⁽⁶⁷⁾、大小の3つの乗の次第が説かれており、経に出ているとおり理解すべきである⁽⁶⁸⁾。

[55] 経に、「とても見たり聞いたりしている。マンジュシュリーよ」と言うものから「部分だけが述べられる」と言うまでには⁽⁶⁹⁾、この偈により四衆を明らかにすることが説かれており、「それらの衆会が道を成就し、結果を得ることも明らかにする」と言う意味であり、上の偈により声聞が、後の偈により菩薩乗が説かれている⁽⁷⁰⁾。

[56] 経に、「見て、多くの相の者たちにも」と言うものから「種々なる精進で菩提を起こした者たち」と言うまでには⁽⁷¹⁾、菩薩行が説かれ、この偈により種々なる精進が説かれ、17偈により事物が説かれている。また、14偈半により信解による種々なる行が説かれている。「ガンガー」とは、大河で、無熱惱池から流れ出る4大河の一つである。その砂が多いので多いこ

との譬喩として説かれている⁽⁷²⁾。

[57] 経に、「ある者は、布施しても、そのように」と言うものから「誓願は如来の知恵を」と言うまでのこれにより⁽⁷³⁾、種々なる布施の特徴が説かれ、ここでも2種に区別される。最初の15偈により六波羅蜜が説かれ、2偈により8風で揺れないことが説かれており、6偈により布施が説かれ、その次の2偈により戒が説かれ、その次の2偈により忍と精進が説かれ、その次の2偈により禪定が説かれ、その次の3偈により智慧が説かれている。布施にも3種あり、4偈により外の財産による利益が設定され、その次の1偈により内の利益が設定され、その次の1偈により内外両方の利益が設定されている。最初の4つにも、七宝の布施と、8つの珍宝の布施と、乗の布施と、種々なる物の布施である。七宝は、金と銀などの7つである。8つの珍宝は、女性の下僕と、車と、「宝石の輿」と言う飾りなどである⁽⁷⁴⁾。

[58] 経に、「マンジュシュリーよ、私は見る。あるところで」と言うものから「褐色の衣を身に着けて」と言うまでのこれは⁽⁷⁵⁾、出家の特徴が説かれており、出家してから律にとどまることがすべての行の基本であるから。その出家の功德も5種で、如来により護られ、臨終の時に歓喜が生じ、戒を護ることによる善知識と、功德の円満と、一切の生における出家の原因などである⁽⁷⁶⁾。

[59] 経に、「私は見る。ある菩薩は」と言うものから「ある者は、聖教を保持し、誦することを喜ぶ」と言うまでのこれにより⁽⁷⁷⁾、經典の難しい意味や、甚深なる經典に対する心の忍をもつことにより忍をもつことが説かれている⁽⁷⁸⁾。

[60] また經典に、「私は見る。ある菩薩は」と言うものから「円満に観想することで近くで考察するようになる」と言うまでのこれは⁽⁷⁹⁾、鎧を着ることと、善を集める精進が説かれ、「5種の精進をもつ」と言う意味である⁽⁸⁰⁾。

[61] また、経に、「ある者は欲をすべて捨てている」と言うものから「千の偈により勝者が王に対してである」と言うまでのこの2つにより⁽⁸¹⁾、禪定にとどまることが説かれている。禪定の神通などを起こすので多くの如来を賞讃する自信が生じている⁽⁸²⁾。

[62] 経に、「念をともない、従順で恐れずに」と言うものから「聞いてからそれらの法を把握するであろう」と言うまでには⁽⁸³⁾、智慧波羅蜜の甚深なる行をともない、聞を受持することである⁽⁸⁴⁾。

[63] 経に、「円満に修習することを勝者の子どもは自分自身で」と言うものから「法の太鼓を打ち鳴らす」と言うまでには⁽⁸⁵⁾、智慧と三昧をとまなうことになる。法を示すことは4種で、喜んで利益をなすために示すことと、菩薩たちのために示すことと、魔を嫌うことと、導いたものと了義により叩くことである⁽⁸⁶⁾。

[64] 経に、「明らかにある者は善逝が説いたものを」と言うものから「驕りなく、寂靜で、安穩に修行する」と言うまでには⁽⁸⁷⁾、世間の8風により揺れない意味で、世間の8法は、賞

讃と非難などである⁽⁸⁸⁾。

[65] 経に、「たくさんの森に住するそのような他の者たちも」と言うものから「彼らも菩提のために入る」と言うまでのこれは⁽⁸⁹⁾、心で導くことを説いたもので、心の光により地獄にいる者たちを寂滅する⁽⁹⁰⁾。

[66] 「ある勝者の子は精進にとどまり」と言うものから「彼らは精進により最高の菩提に入る」と言うまでには⁽⁹¹⁾、衆生が信解行地において六波羅蜜を求める行が説かれているので、これ以後の13偈半により説かれている。そのうち、この最初により精進が説かれ、その次の1偈により戒が説かれ、また、1偈半により忍が説かれ、また2偈により禪定が説かれ、5偈により布施が説かれ、3偈により智慧が説かれており、これは、最初に精進を始めても生じた不善法の罪過を取り除き、生じていない善法を生じさせることなどである⁽⁹²⁾。

[67] 経に、「ある者は護っており、常に清浄で」と言うものから「それから行を完成させるであろう」と言うまでには⁽⁹³⁾、学処にとどまり、三門を行じることにより過失がなくなることである。例えば、宝珠は内外に明るい光があり、すべてに好ましように、戒を損なわないものは過失がなくなる⁽⁹⁴⁾。

[68] 「ある王子は忍の力をもっており」と言うものから「それらの忍により最高の菩提に入る」と言うまでには⁽⁹⁵⁾、打つことと責めることと軽蔑することなどによる種々なる下落させることを受けて、耐えることである。その忍も5種の在り方による忍で、無始より親しくなる想と、法に対する想と、苦に対する想と、無常に対する想と、苦の想による忍である⁽⁹⁶⁾。

[69] 経に、「私は見る。ある菩薩たちは」と言うものから「彼らは禪定により最高の菩提に入る」と言うまでには⁽⁹⁷⁾、禪定にとどまることが説かれ、これらの散乱の過失を求めて、とどまることである。分別と、頂上の歓喜と、下品の凡夫を捨て、悪友と一緒におらず、心を集めることである⁽⁹⁸⁾。

[70] また、経に、「ある者は、そのように布施を与える」と言うものから「布施で彼らは最高の菩提に入る」と言うまでに⁽⁹⁹⁾、種々なる布施が説かれている。それらの布施も、広大な布施と、疲れなない布施と、歓喜の布施と、無執着の布施と、善の原因となる布施とである。それに対して、「食べ物の布施をなせば、飢饉の劫に生まれず、薬を布施すれば、無上の法の薬をもつようになり、衣服を布施すれば、七宝をもち、謙遜と恥じらいがあるようになり、座などを与えることにより福德と知恵の資糧をもつことになり、囲いと庭を布施すれば、陀羅尼の庭をもつようになり、花を与えることで菩提の7支をともなうことになり、果実を布施すれば、聖者の4果をともなうことになり、池と井戸を布施すれば、無垢なる解脱の水をもつようになる」と説かれている⁽¹⁰⁰⁾。

[71] 経に、「彼らは最高の菩提に入る知恵の」と言うものから「彼らは智慧である最高の菩提に入る」と言うまでには⁽¹⁰¹⁾、智慧の特徴が説かれており、無相と不二と虚空と同じである。

有相と無相は、その利他と自利を行じる知恵である⁽¹⁰²⁾。

[72] 経に、「マンジュシュリーよ、さらにまた見る」と言うものから「勝者の舍利に奉仕する」と言うまでには⁽¹⁰³⁾、これ以後は6つの部分で、7偈により塔を建てることが説かれている。それにも2種あり、舍利への供養と、塔への供養である。また、菩薩に対する供養と八衆に対する供養である⁽¹⁰⁴⁾。

[73] 経に、「100億の多くの塔」と言うものから、「鐘と小鐘と鈴を常に鳴らす」と言うまでのこれは⁽¹⁰⁵⁾、塔を建てることが説かれており、「世尊の涅槃後に舍利の塔に供養と奉仕をなせば、多くの劫にわたり悪趣に落ちずに大菩提の資糧も円満になる」と説かれている。「由旬」とは、500弓量を1俱盧舍、8俱盧舍を1由旬とする⁽¹⁰⁶⁾。

[74] 経に、「花の香りと、そのように繞の」と言うものから「この同じ塔は勝者の舍利を」と言うまでには⁽¹⁰⁷⁾、八衆による供養が説かれている⁽¹⁰⁸⁾。

[75] 経に、「十方のそれらが飾っている」と言うものから「天をともなうこの広大な世間」と言うまでには⁽¹⁰⁹⁾、その塔を作ることによって一切の世間を飾ることは、例えば、天の花であるパーリジャータが広がっているように美しいことが説かれている⁽¹¹⁰⁾。

[76] 経に、「勝者がこの1つの光を放ち」と言うものから「数千の国土を示す」と言うまでの8偈により⁽¹¹¹⁾、請願の意味が説かれており、4偈で答えがなされている⁽¹¹²⁾。

[77] 経に、「奇瑞を見てから我々も珍しいことを得る」と言うものから「疑惑を除いて、歓喜を起こしなさい」と言うまでには⁽¹¹³⁾、自他の願望を満たすことが説かれている⁽¹¹⁴⁾。

[78] 経に、「善逝の子よ、あなたは授記して下さい」と言うものから「このような広大な光も放った」と言うまでのこれは⁽¹¹⁵⁾、質問の返答である⁽¹¹⁶⁾。

[79] 経に、「善逝の子よ、あなたは授記を」と言うものから「この原因は小さくないであろう」と言うまでには⁽¹¹⁷⁾、質問の返答と、授記と、大義を説いたものと、この清浄な国土の意味が小さくないことを説いたものである⁽¹¹⁸⁾。

[80] 経に、「何千もの国土を説いたことは」と言うものから「マンジュシュリーはここで何を授記するのか」と言うまでには⁽¹¹⁹⁾、質問の返答が実際になされている⁽¹²⁰⁾。

[81] 経に、「それから」と言うものから「善男子たちよ」と言うまでには⁽¹²¹⁾、マンジュシュリー法王子が返答できるのは、注釈より⁽¹²²⁾、マンジュシュリーは過去を随念する知恵で過去の円満な原因と結果を明らかに見ているので返答できるのであり、随念も推測による返答ではない。マンジュシュリーが自分の身体で多くの仏になすべきことをなしたその原因が現在のこの結果であるので、以前に「ヴァラプラバ（妙光）」と言われる比丘になった際に、如来からこの法を明らかに聞いているので、今多くの有情に説くことができ、これ以後を3つの部分に分けて示している。最初に名前を述べてまとめて説いたものと、質問の返答をなしたものと、後で聴聞たちに教授したものととの3つである⁽¹²³⁾。

[82] 経に、「これは善逝が大法を宣言し、真実を述べられたことを意図している」と言うものは⁽¹²⁴⁾、質問の返答で、これは注釈より⁽¹²⁵⁾、返答に10種の意味があり、大義を明らかに見る原因そのものであることと、善男子たちが自分の過去時に世間の言葉と文章と偈の甚深なる原因を見ることがと、また善男子が無量無数の過去より珍しく希有になる原因を見ることがと、また如来が「チャンドラスーリヤプラディーパ (日月灯明)」と言われてから正しい原因を見ることがと、また如来が内の最後の家から出ずに享受の大因を見ることがと、仏の涅槃の後に妙光菩薩がこの妙法を受持してから如来の法を集めて受持する原因を明らかに見ることがと、また日月灯明如来の8子も妙光に依ってから善堅如来を明らかに見る原因と、それらの王子が無数の供養と奉仕をなすことで入ることができる原因を明らかに見ることがと、如来が内の最後に明らかに悟り灯明になられたことを明らかに記憶する原因を見ることがと、マイトレーヤが「あなたは知るべきです」と言うその時に妙音菩薩が妙光に自分で明らかな行を行ずる原因を見ることがと、因は、理由の意味である。マンジュシュリー法王子がそれらの明らかな証因から推測してから聖マイトレーヤに対して返答したものである。その10因も5義にまとめられ、意味を説いたものと、珍しいことと、解脱と束縛と、精進を説いたものと、自と他を合わせたものである。それらの10因も、奇瑞から推測した返答と、過去と現在のものを合わせた返答と、他の意味から導いた返答と、過去の理趣と合わせた返答とである。それにも最初の2つと、最後の1つが上の順序のままに合わせられ、間の7つは他から導いた返答と合わせられる。これは、奇瑞から推測した返答である。注釈より⁽¹²⁶⁾、大義を見る円満な原因を見ることが8つの奇瑞である。大法の雨を降らすことと、法の太鼓を打ち、螺貝を吹くなどである。注釈より⁽¹²⁷⁾、疑惑をもつ者たちが疑惑を取り除くために大法を解説して疑惑を断てば、知恵の身体が成熟するので法の大雨が降ること善の芽が生じて、聖者の場所を得ることになる。根の成熟は秘密の2種の行境を示すことである。声聞たちには法の太鼓を打つ。菩薩たちに上の上の清浄なる意味が説かれているので法幢を掲げ、菩薩は法の知恵を理解しているので知恵の灯火を明らかにすることで法の灯火を燃やしている。一切の知恵が明らかになっているので文章と意味を述べているので「法螺貝を吹く」と言われる。それらも罪過を捨て、善に入り、未了義より了義を示し、智慧により真実の意味に入り、法を示すことで有情に利益をなす。經典との関係から生じるこれらは、何れかの適当なものと好ましいものと合わせられる⁽¹²⁸⁾。

[83] 経に、「善男子よ、これは如来が大法を解説したことを意図しており」とは⁽¹²⁹⁾、世間の文章の甚深なる意味の原因を示しており、それは過去の理趣から導かれて、「私はこれを見る」と言う意味と合わせられる⁽¹³⁰⁾。

[84] 経に、「善男子たちよ、私はどのように感じ、どのように過去の如来」と言うものから「光を放ち、最初の顕現を見ることが明らかに説かれている」と言うまでには⁽¹³¹⁾、教義のままに入るべきである⁽¹³²⁾。

[85] 経に、「善男子よ、私は記憶を過去時の無数のまた無数の劫」とは⁽¹³³⁾、8つの因を合わせて2つの部分に分け、長行と偈頌によるまとめである。先に相続により他の意味から導いた返答と、一つの原因により過去の理趣から類推した返答とで、最初にも3種あり、珍しいことから賞讃した返答と、後のものが特別なものになってからの返答と、後の5つにより同じ意味から類推した返答で、珍しいものから賞讃した返答は、注釈から⁽¹³⁴⁾、珍しいことの原因と合わせられる。「無数のまた無数」とは、劫の長い時により、「無数劫」とは、52の数の桁の終わりを「無数」と言う。また、「劫」とは、天の寿命と合わせた劫で、「年と時が異なる劫」と言うここで「劫」とは、年と合わせられ、如来の大劫において稀に一度生じるので、マンジュシュリーが聞いた時はとても遠いからである⁽¹³⁵⁾。

[86] 経に、「遥かに遠い無量の不可思議な量られることない無量のその以前の、またさらに以前となるその時のその寿命で」と言うものから「仏世尊が世間に生じて」と言うまでには⁽¹³⁶⁾、日月灯明如来は、日に2種の意味があり、明らかにする意味と、成熟の意味である。月に2種の意味があり、疑惑を取り除く意味と捨てる意味である。灯にも2種あり、闇を取り除くことと、顕現を増す意味である。「如来で阿羅漢」とは、如来の功德の特徴の10種である。如来は、以前の如来の理趣のように入るので如来である。また、如来はどこからも来ず、どこにも行かないので、その如来は法身である。また、真如の諦から生じたので如来である。「阿羅漢」とは、煩惱のすべての敵を制圧するので阿羅漢である。一切の所知障を捨てたので、真実を完成しており、明行足は、以前の場所の記憶を知ることと、死を知ることと、漏尽を知ることの知が明である。説かれたことと行と誓願を浄化することで生活が清浄になることが足で、明行足である。善逝とは、自分と他者に利益をなす大きな功德をもつことで大菩提に赴くから、善逝である。「世間を知る」とは、器世間と衆生世間のすべてを知り、何れかの律をそれぞれ知り、異なる衆生の8万4千の行のそれぞれを知り、器世間の滅と執着を知り、それぞれの衆生の自性と、因縁などをすべて知ることである。無上士は、所化の人の操作に匹敵するものがないので、偉大な無上士のよい特徴をもつことが特別であるから。天人師は、天と人より甚深なる意味に入る福分をもつので「その師」と言われる。一切の障碍を離れて、一切の法を明らかにしたものが仏である。「世尊」とは四魔を制圧し、自在天などの6功德をともなっているので世尊である⁽¹³⁷⁾。

[87] 経に、「それによりすべての法」と言うものから「梵行を正しく示す」と言うまでには⁽¹³⁸⁾、特別な法を説いているから、最初の善は、聞のみによる歓喜である。中間の善は、修習を中断せずに二辺を捨てる行境に垢を離れることで入ることである。最後の善は、行と成就の究極の結果にとどまることである。また、最初の善は布施で、中間の善は戒で、最後の善は三昧である。また、苦を知り、集を捨てることは、最初の善で、真実の道の修習が中間の善で、滅が明らかに成立することが最後の善で、声聞と合わせられる。菩提への心を捨てず、二乗に向かわ

ずに無上の知恵を得ることが菩薩の最初と中間と最後の善である。八正道は、正しい言葉などで言葉をうまく合わせ、甚深なる意味をもつことで多くに利益をなし、外道の道と交わず、聖なる特に円満な意味と言葉はよい意味とよい文字で混じわることなく、「円満である」と言われる。「完全に白い」とは、解脱することである。梵行は、八正道と滅諦と梵行で、その道は他と混ざらないので不共である⁽¹³⁹⁾。

[88] 経に、「このように声聞たちに」と言うものから「知恵の終わりまで法を説く」と言うまでには⁽¹⁴⁰⁾、有情利益のために法を示しており、如来が世間に生まれてから三乗により法を示すことは、声聞に四諦が説かれ、独覺に十二縁起が説かれ、菩薩に六波羅蜜を示すことも根の次第の通りになっている⁽¹⁴¹⁾。

[89] 経に、「また、善男子よ、日月灯明」と言うものから「このようにバラドヴァージャの種に属する2万の如来が生じた」と言うまでには⁽¹⁴²⁾、後の特別な生まれから推測した返答である。注釈に⁽¹⁴³⁾、特別な原因は明らかに見る原因で、正しい生まれと正しい名前をもつと説かれた証因が述べられている⁽¹⁴⁴⁾。

[90] 経に、「そこで、アジタよ、それらの2万の如来は」と言うものから「王宮に住し、出家しない時に八王子がいた」と言うまでには⁽¹⁴⁵⁾、同じ意味から質問をして返答したものである。また、因にも5種あり、大きな享受の原因と、如来が法輪を廻す原因と、如来が説かれた法輪の原因と、入る原因と、念の原因である。それにも2種あり、最初の原因は、世尊の説法である。後の原因は、涅槃の行である。享受の大きな原因は、註釈より⁽¹⁴⁶⁾、世尊は、王子となられてから大きな享受を捨てて、王宮から出られたならば下品の有情たちはその夜に有を厭う心を起こさず、それが珍しいことと説かれている。享受も2種で、家にとどまっていることによる享受と、家を出てから法を享受することである。世尊が王宮からまだ出ていない時に衆生を救うために欲を享受し、子どもがいたことも説かれている⁽¹⁴⁷⁾。

[91] 経に、「すなわち、マティ（有意）」と言うものから「ダルママティ（法意）」と言うまでに⁽¹⁴⁸⁾、それらの王子は偉大な智慧と大悲と、有無を知ることと、善に入り罪過を捨てたことから名付けられた者たちである⁽¹⁴⁹⁾。

[92] 経に、「アジタよ、世尊」と言うものから「享受し、それらを支配していた」と言うまでは⁽¹⁵⁰⁾、理解しやすいので解説しない⁽¹⁵¹⁾。

[93] 経に、「彼らは世尊がその王宮から明らかに出ることを知り」と言うものから「善根が起こされた」と言うまでには⁽¹⁵²⁾、出家が説かれており、正しい所依と、助伴と、煩惱から出ることを求める正しい原因を修行し、福德と知恵の資糧が成立している⁽¹⁵³⁾。

[94] 経に、「アジタよ、その時にも」と言うものから「一切の仏が極めたものを解説してから」と言うまでには⁽¹⁵⁴⁾、同じ時に成就することが説かれている⁽¹⁵⁵⁾。

[95] 「その時に一念の瞬間に」と言うものから「心は動かない」と言うまでには⁽¹⁵⁶⁾、同じ

行道が説かれており、三昧に入ることと器世間と衆生世間で、これは最初である⁽¹⁵⁷⁾。

[96] 経に、「曼陀羅華」から「震動する」までにより⁽¹⁵⁸⁾、器世間が説かれている⁽¹⁵⁹⁾。

[97]「アジタよ、その時、その衆会に」と言うものから「希有を喜ぶ」と言うまでのこれは⁽¹⁶⁰⁾、衆生世間が説かれている⁽¹⁶¹⁾。

[98] 経に、「それからその時、世尊よ」と言うものから「普く顕現する」までには⁽¹⁶²⁾、同じ説法の原因で、光を放つことと、明らかにされるものと、護ることが説かれている⁽¹⁶³⁾。

[99] 経に、「アジタよ、すなわち」と言うものから「珍しく希有で、光景が明らかに出てい」と言うまでには⁽¹⁶⁴⁾、それも法を聞くことを喜ぶことと、以前の原因を説かれることを望んだものである⁽¹⁶⁵⁾。他は理解し易いので解説しない⁽¹⁶⁶⁾。

[100] 経に、「アジタよ、その時も、その世尊が説いたものに対して『妙光』という菩薩」と言うものから「800人いる」と言うまでには⁽¹⁶⁷⁾、それと同じことによる返答で、明らかに衆会をこの經典から述べたものと、長時のものと、衆会の喜びで、これは最初である⁽¹⁶⁸⁾。

[101] 経に、「世尊よ、さらにまた」と言うものから「身体を厭うことなく、心を厭うこともない」と言うまでのこれらは⁽¹⁶⁹⁾、この經典が述べたものと、長短の時と、四衆の歡喜と、信解が順序どおりに合わされ、他は理解し易いので解説しない⁽¹⁷⁰⁾。

[102] 経に、「それから世尊は日月灯明」と言うものから「涅槃なされた」と言うまでには⁽¹⁷¹⁾、奇瑞の同じ理趣が説かれており、仏の涅槃は二乗より特殊であると説かれているので、無余涅槃である⁽¹⁷²⁾。

[103] 経に、「それからアジタ」と言うものから「授記してから」と言うまでは⁽¹⁷³⁾、善根が熟するので授記である⁽¹⁷⁴⁾。

[104] 経に、「比丘たちよ、シュリーガルバ（徳藏）菩薩」と言うものから「仏となる」と言うまでには⁽¹⁷⁵⁾、また仏が世間に生じた意味は5種であるからで、法輪を廻すことと、父母を菩提に入れることと、不信の者たちを信じさせることと、菩提に発心しないものたちを発心させることと、授記されない者たちに授記することである⁽¹⁷⁶⁾。

[105] 経に、「比丘たちよ、徳藏は」と言うものから「阿羅漢で正等覚になる」と言うまでは⁽¹⁷⁷⁾、如来が説かれたことにより法を受持する原因である。注釈より⁽¹⁷⁸⁾、その世尊が涅槃してから無数劫の後に如来が説かれた法を受持するであろう⁽¹⁷⁹⁾。

[106] 経に、「そこで、アジタよ、その子である有意などは」と言うものから「明らかに仏になってから」と言うまでには⁽¹⁸⁰⁾、入ることができる原因が説かれており、供養と奉仕は法と財物の行による⁽¹⁸¹⁾。

[107] 経に、「それらの最後が阿羅漢で正等覚者である燃灯如来である」と言うものから「奉仕をなす」と言うまでには⁽¹⁸²⁾、念の原因と説かれた原因と清浄な原因が説かれている⁽¹⁸³⁾。

[108] 経に、「アジタよ、あなたはその時に」と言うものから「法を述べている」と言うま

で⁽¹⁸⁴⁾、同じ意味による返答と、過去の理趣からの返答で、「これが私のものである」と言うことは、証因の理由が述べられている⁽¹⁸⁵⁾。

[109] 経に、「ヤシヤスカーマ（求名）菩薩」と言うものから「と思う」と言うまでには⁽¹⁸⁶⁾、まとめて返答したものである⁽¹⁸⁷⁾。

[110] 経に、「それからマンジュシュリーよ」と言うものから「100億の無限を知る」と言うまでには⁽¹⁸⁸⁾、これ以後の43偈の意味は前のものを繰り返して、前の理趣の奇瑞が説かれている⁽¹⁸⁹⁾。

[111] 経に、「その時にその王の子となったその」と言うものから「すべてが出家した」と言うまでには⁽¹⁹⁰⁾、これ以後の38偈により意味に従う理趣が説かれており、5因と合わせられる。29偈により享受の大きな原因が説かれ、9偈により4因が説かれ、最初にも4種で、最初の20偈により同じ奇瑞が説かれ、その次の4偈により涅槃が異なることが説かれ、また2偈半により授記が説かれ、2偈により涅槃が説かれている。最初にも6種あり、円満な衆会と、円満な時と、円満な行道と、円満な原因と、円満な聞と、円満な道である。最初の2偈により在家が説かれ、その次の2偈により出家が説かれている⁽¹⁹¹⁾。

[112] 経に、「その世間主が法を解説した」と言うものから「数千億の有情に解説した」と言うまで⁽¹⁹²⁾、円満な時が説かれている⁽¹⁹³⁾。

[113] 経に、「導師は」と言うものから「入ってから禪定をなされた」と言うまでには⁽¹⁹⁴⁾、円満な行道が説かれ、そのうち1偈により禪定に入ることが説かれ、その次の2偈により器世間と衆生世間が説かれている⁽¹⁹⁵⁾。

[114] 経に、「神変の花」と言うものから「一切の国土がその直後に震動した」と言うまでのこれは⁽¹⁹⁶⁾、器世間と衆生世間が説かれており、それにも入定と花の降雨と供養が説かれることで、震動などが説かれている⁽¹⁹⁷⁾。

[115] 経に、「それは珍しく希有なるもの」と言うものから「明らかにすることですべての世間が美しい」と言うまでは⁽¹⁹⁸⁾、円満な原因で、光を放つことと、場所が明らかにされることと、仏土も明らかになることで、これが最初である⁽¹⁹⁹⁾。

[116] 経に、「衆生たちの死と生を説く」と言うものから⁽²⁰⁰⁾、彼が明らかに見たものが説かれており、最初の5偈半により六趣が説かれており、3偈により仏を見ることが説かれ、1偈により、法を聞くことが説かれ、1偈により四衆を見ることが説かれ、4偈により菩薩を見ることが説かれ、これが最初である。有情は、行為と原因により行くものである⁽²⁰¹⁾。

[117] 経に、「このように、そこであるものは、宝石で」と言うものから「導師のその光明の力により」と言うまでは⁽²⁰²⁾、仏を見ることが説かれ、国土を見ることと、供養を見ることと、仏を明らかにすることとの3つで、これが最初である。シャーキャムニの光明により金色に輝かされ、太陽と月と灯火の光明により水晶と瑠璃の光明を輝かせ、この大乘は、他のもの

と共通でないことが正しいものであると説かれているから⁽²⁰³⁾。

[118] 経に、「天と人と、同じく夜叉と龍」と言うものから「金の柱のように美しい」と言うまでは⁽²⁰⁴⁾、八衆が供養してから如来を見ることである⁽²⁰⁵⁾。

[119] 経に、「瑠璃の中央にある黄金の像のように」と言うものから「この法が明らかに説かれている」までは⁽²⁰⁶⁾、法を聞くことが説かれている⁽²⁰⁷⁾。

[120] 経に、「それぞれの国土において導く者の」と言うものから「『この如きは如何なるものか』とお互いに尋ねる」と言うまで⁽²⁰⁸⁾、四衆が説かれ、菩薩たちが法を考察し、信解が生じ、在家と出家の両者が菩提行を得ることと、波羅蜜⁽²⁰⁹⁾について説かれている⁽²¹⁰⁾。

[121] 経に、「夜叉と天と人が彼に供養することを妨げず」と言うものから「私のこの法蔵をあなたは直接知覚する」と言うまでは⁽²¹¹⁾、円満な返答で、最初の1偈により解説の原因が説かれ、後の2偈により時間の長短が説かれており、「禪定から起きた直後に衆生たちが菩提に至った」と言う意味である⁽²¹²⁾。

[122] 経に、「例えば、衆生利益のために私が説いた」と言うものから、「その時に勝者はこの法を説かれた満60中劫の間」というまでには⁽²¹³⁾、長時を説いたものと、同じ奇瑞を説いたものと、精進により生じるものを説いたものと、如来も劫の間三昧から起きないことから下品の衆生は煩惱を捨てることを努力しないのは合理ではないことを説いたものと、衆生を思って利益を意図することと、時に至った者たちに授記して涅槃の楽に入ることと、大きな享受の原因が説かれており、法を保持し、善の原因に入ることを説いている⁽²¹⁴⁾。

[123] 経に、「その弟子になったものは800で」と言うものから「彼らは数千万の仏を見て」までのこれにより⁽²¹⁵⁾、如来が説かれた法の原因が説かれており、小乗の在り方での3阿僧祇劫が流儀から退くことが説かれている。最初の劫の時にシャーキャムニ仏を見て、その次に75ニユタの仏を見る。第2の劫で宝髻仏を見て、また76ニユタの仏を見る。第3の劫で燃灯仏を見て、77ニユタの仏を見る⁽²¹⁶⁾。

[124] 経に、「それらの偉大な仙人に供養した」と言うものから「最高の菩提を1人1人に授記した」と言うまでにより⁽²¹⁷⁾、入ることになる原因が説かれており「普く大菩提を得る」と言う意味である⁽²¹⁸⁾。

[125] 経に、「それらの仏が次第に生じ」と言うものから「数千の衆生も教化した」までの6偈により⁽²¹⁹⁾念の原因が説かれており、最初の1偈により8王子に意趣が説かれ、その次の5偈により、800の衆会に意趣が説かれている⁽²²⁰⁾。

[126] 経に、「以前のその善逝の子」と言うものから「諸方に知られる」までは⁽²²¹⁾、衆会に意趣が説かれ、2偈半により煩惱の原因が説かれ、また2偈半により清浄の原因が説かれ、これが最初のものと合わされる。利益と名声と価値ある種に対する執着を聞くことを求めるそれらの執着が名声を欲することである⁽²²²⁾。

[127] 經に、「さらにまた、それらの諸善業」と言うものから「何千億の衆生を教化するであろう」と言うまでにより⁽²²³⁾浄化の原因が説かれている⁽²²⁴⁾。

[128] 經に、「その時に怠惰になった者」から、「法を説く者は私である」と言うまでは⁽²²⁵⁾、他の意味から述べたものを説いてから前の見方と合わせたものが説かれており、最初の偈により人が説かれ、その次により法が説かれ、その次によりまとめられ、これは最初である⁽²²⁶⁾。

[129] 經に、「この知の瑞相が現れるであろう」と言うものから「これに入る菩薩⁽²²⁷⁾」と言うまでは⁽²²⁸⁾、法が説かれ、瑞相が説かれてから賞讃され、甚深なる法に心を入れるために天の光により説かれ、法の雨を降らせることで善の芽が起こされ、菩提を求める者の疑惑が断じられている⁽²²⁹⁾。

『妙法蓮華註』第3卷⁽²³⁰⁾。

注

- (1) 和訳箇所は、『丹珠爾 (対勘本) : 中華大藏經』第69巻, pp. 517-555に相応するが、批判的校訂版のテキストを別に出版する予定である。なお、〈付録〉「漢文テキスト「序品」の科文(2)」は研究協力者金炳坤氏によるものである。
- (2) 同じような省略理由は、[43] と [92] においても述べられる。
- (3) その一覧については、拙稿 “Vasubandhu's Commentary on the *Lotus Sutra* in Tibetan Literature” 『印度学仏教学研究』65-3: 225-232 を参照のこと。
- (4) 前稿と同じように、『法華經』の引用箇所に対して、梵 (ケルン)、藏 (中村瑞隆)、漢 (鳩摩羅什訳、『大正新脩大藏經』) の該当箇所をあげておく。
[29] Skt. 5.7-8; Tib. 5.7-8; Chin. 2b7.
- (5) 677a5-677a24: 【40】經 爾時世尊至尊重讚歎 贊曰衆成就中文段爲二上來列衆此明佛所威儀論解衆成就中有四上已解三此爲第四四衆者古云魔梵沙門婆羅門此說色欲二天之勝人中上首故顓師云一影響衆在座默然二發教衆如鷲子與彌勒三請是三當機衆稟教悟解四結緣衆時未悟解結後因緣又有四衆謂聲聞菩薩並客舊二衆古人疏有多義然此後文又觀四衆比丘比丘尼優婆塞優婆夷爲四周迴日圍坐匝稱繞進財行爲供有攝資名養修謹曰恭崇仰曰敬敬甚曰尊尊深曰重是理談美曰讚觸事論德曰歎論解有四一衆圍繞二前後三供養恭敬四尊重讚歎論牒經同此經之中少前後義今准應言爾時世尊爲諸四衆前後圍繞供養恭敬尊重讚歎文方具足其前後者各見佛對其前爲之說法即以面向爲前所不向爲後望一人皆有前後不以方處爲前後也
- (6) [30] Skt. 5.8-9; Tib. 5.8-10; Chin. 2b7-9.
- (7) チベット語訳者は『撰大乘論』無性釈 (T. 1598, 380b5) と、後に「對法」として引用される『阿毘達磨雜集論』からの引用 (T. 1606, 743c26-744a7) を1つにまとめている。Cf. Nathmal Tatia, *Abhidharmasamuccaya-bhāṣyam*, Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, 1976, p. 96.3-11. また、『撰大乘論』とされる「亦乘亦大故大乘」の句は、『入中論釈』 (D. 3862, 'A 345a4-5)、『中辺分別論

註疏』(D. 4032, Bi 288a5)、『菩薩地註』(D. 4044, I 141b5)、『二十論註疏』(D. 4065, Shi 172a7) などにも見られる。

(8) 『法華論』の対応箇所に関しては、2つの漢訳の対応箇所を指摘しておく。

T. 1519, 3a20-21: 此十七句法門是總餘句是別

T. 1520, 12c5-6: 此十七句法門者是總餘句是別故

(9) T. 1519, 2c14-15: 功德應知何等十七云何顯示一名無量義經者成就字義故

T. 1520, 12b4-5: 一名無量義經者成就字義故以此法門說彼甚深妙境界法故

(10) T. 1519, 3a10-18: 十六名妙法蓮華經者有二種義何等二種一者出水義以不可盡出離小乘泥濁水故又復有義。如彼蓮華出於泥水喻諸聲聞得入如來大衆中坐如諸菩薩坐蓮華上聞說如來無上智慧清淨境界得證如來深密藏故二華開義以諸衆生於大乘中其心怯弱不能生信是故開示諸佛如來淨妙法身令生信心故

T. 1520, 12b25-c3: 門即是如來法身究竟住處故十六名妙法蓮華者有二種義何等二種一者出水義不可盡出離小乘泥濁水故復有義蓮華出泥水喻諸聲聞入如來大衆中坐如諸菩薩坐蓮華上聞說無上智慧清淨境界證如來密藏故二華開者衆於大乘中心怯弱不能生信故開示如來淨妙法身令生信心故

(11) 677a25-678c21: **【41】**經 爲諸菩薩至佛所護念 贊曰此即第三如來欲說法時至成就略有三義一依人先爲菩薩說大乘經名無量義後爲聲聞方說一乘二依利先以一乘利他教理化根熟菩薩後以一乘自利行果方化初根迴心聲聞三依法先談法體後談功能故未說法華已前先說無量義名爲時至大乘經者此是通句餘是別句十二門論六義名大乘一出二乘二佛最大此乘能至三佛之所乘四能滅大苦與大利樂五觀音等大士所乘六能盡諸法源底攝大乘云亦乘亦大故名大乘即萬行是或乘大性故名大乘即眞如是乘運載義無著金剛般若論說七種大名雖少別義與對法第十一同對法云即此乘性由與七種大性共相應故名爲大乘一境大性以菩薩道緣百千教爲所緣故彼名法大二行大性具二利故彼名心大三智大性了二無我故彼名信解大四精進大性三大阿僧企耶修習百千難行行故彼名淨心大五方便善巧大性由具智悲不住生死及涅槃故彼名資糧大六證得大性成就十力四無畏等諸功德故彼名果報大七業大性窮生死際建立佛事故名爲大乘彼名時大乘體根本即眞如理是無相故與勝鬘同勝鬘經云一乘即大乘大乘即佛性佛性即涅槃界末通萬行亦乘亦大七大性體通有爲故至一乘章當具顯示此爲總句名無量義等三句是所說大乘經別名正法華中唯有二句論牒經有十七名正合論文應云爲諸菩薩說大乘經名無量義最勝經典大乘方廣教菩薩法佛所護念諸佛祕法諸佛德藏諸佛密處能生諸佛諸佛道場諸佛法輪堅固舍利善方便宣說巧一乘第一義處妙法蓮華最上法門論云一無量義者成就字義故以此法門說彼甚深妙境界法故深妙境界即佛最勝之境界故能詮教法說彼義故教亦無量由此字教及所詮義皆名無量無量義經云以諸衆生性欲無量故其所說法亦無量法無量故義亦無量義無量者從一法生其一法者即是無相如是無相無相不相無相不相名爲實相菩薩摩訶薩安住如是眞實相已所發慈悲明諦不虛於衆生所眞能拔苦若既拔已復爲說法令諸衆生受於快樂善男子菩薩若能如是修一法門無量義者必得疾成無上菩提善男子譬如一種子能生百千萬百千萬中一一復生百千萬數如是展轉乃至無量此經典者亦復如是從於一法生百千義百千義中一一復生百千萬數如是展轉乃至無量無邊之義是故此經名無量義論不唯取所生教理名爲無量無量之體即眞智境體能成就就彼字義故二最勝經典此於三藏中最勝妙藏故三大乘方廣無量大乘法門隨大乘衆生根機之法此經具有住持成

就故四教菩薩法爲化根熟菩薩隨彼法器而能成就不化二乘等故五佛所護念依佛有此依餘無故六諸佛祕法此法甚深唯佛所知祕是藏義故七諸佛德藏諸佛功德禪定之藏在此經故八諸佛密處若根未熟非法器故而不與之九能生諸佛聞此法門能成報化身菩提故十諸佛道場此法門能成無上菩提非餘故能顯諸佛法身智故十一諸佛法輪破諸闇故十二堅固舍利三佛如來功德法身此經具有而不壞故十三善巧方便依此法門得成佛已復爲衆生說天人等五乘之法成佛智慧巧方便故十四宣說一乘顯示如來無上菩提究竟之體二乘非究竟故十五第一義處此法門即是如來法身究竟住處故佛之法身名第一義此法身住處名第一義處十六妙法蓮華論有二釋一出水義以所詮義名華二華開義以能詮教名華即證智甚深阿含甚深也出水有二義一出水義不可盡出離小乘濁泥水故此談華體頓悟菩薩性離泥水法體性常故不可盡此談一乘理性出二乘故名出水二復有義蓮華出泥水喻諸聲聞入如來大衆中坐如諸菩薩坐蓮華上聞說無上智慧清淨境界證如來密藏此意說言菩薩坐蓮華上聞說無上智慧境界能證如來甚深密藏聲聞迴心已去得入大衆中坐亦如菩薩坐於蓮華上聞說慧境亦證密藏前解菩薩頓悟體出此解漸悟後時用出正以教理化諸菩薩傍化二乘故作此說華開義者衆生於大乘中起懸崖想心怯弱故不能生信開示如來淨妙法身令生淨信十七最上法門攝成就故攝成就者攝取無量名句字身頻婆羅阿閼婆等偈故此爲根本攝餘一切名句字義故名爲最上此乃所詮是餘能所詮最上法之門能詮亦是餘能所詮法之門由攝一切名句字等故頻婆羅是小乘五十二數中第十八數阿閼婆是第二十數此是餘大乘經教偈頌數此皆能攝故名法門即是二十千萬億偈論云十七句中此是總句餘是別句此經但有三一無量義體用勝故二教菩薩法化根熟故三佛所護念依佛有故三義增勝故偏說之間其無量義經第十六亦名妙法蓮華今說無量義經竟入無量義處三昧從三昧起方說此經亦名妙法蓮華二名何別答有五解一云蓮華有二時得名如蓮華未出水時性能出水故亦名蓮華彼經亦爾說彼智慧之性能出於水性能開敷時猶未化二乘趣一乘故今者此經正化彼入大乘之位超出二乘如蓮華出水已亦名蓮華彼經正名無量義傍名妙法蓮華正逗菩薩傍令聲聞聞之信解不愚於法後方化入此經正名妙法蓮華亦得傍名無量義正化聲聞入一乘故時位有殊體性無二故將說此經先入無量義處三昧二云無量義經名法華與此名體無二彼時唯教菩薩未有二乘趣一乘故說教理所依眞如妙理正名無量義傍名妙法蓮華此時化彼二乘趣一乘故說能依行果正名妙法蓮華如出水故傍亦得名無量義也三云彼據智慧體名法華此約智慧功能名法華會二歸一故四云又彼以教理名爲蓮華菩薩已修一乘之因趣一乘果故不爲說行果一乘名爲法華由但不知應病與藥之教理故但說教理名爲法華今此會中二乘未能應病與藥故不爲說教理蓮華但爲彼說行果二種名爲蓮華令趣入故故下經云乘此寶乘直至道場因行華也唯以佛之知見示悟衆生等果蓮華也又開示悟入中論自解云開者無上義示者同義悟者不知義入者令入不退轉地義前三爲果後一爲因勝鬘亦爾唯說一乘因果名一乘故五云彼以教理二種名爲蓮華此經對彼二乘教理行果並名蓮華義周圓故如前已說前三義釋彼此體同後二義釋此寬彼狹由此義故彼無量義經唯以二義名爲無量一法二義論云成就字義故字者教法義者所詮彼無量義經云以衆生性欲無量故法亦無量法無量故義亦無量義無量者從一法生其一法者即是無相然今此經雖初讚理教後文多以行果名爲蓮華實體上下諸處經文亦通教理行果故後解爲善法華既爾一乘亦然准此應悉

(12) [31] Skt. 5.9-11; Tib. 5.10-11; Chin. 2b9-10.

(13) 漢文は、後者の「吉祥座」とする。

(14) T. 1519, 3a24-26: 何等法說法依三種法故一者依三昧成就三昧成就二種示現一者成就自在力身心不動

故二者離一切障隨自在力故

T. 1520, 12c7-11: 示現依何等說法依三種法故一依三昧成就故以三昧成就二種示現何等爲一者成就自在力身心不動故二者離一切諸障隨自在力故

- (15) T. 1519, 3a27-29: 此自在力復有二種一爲隨順衆生不見對治攝取覺菩提分法故二爲對治無量世來堅執煩惱故

T. 1520, 12c11-13: 在力故此自在力有二種一者爲隨順衆生示現對治攝取覺菩提分法故二者爲對治無量世來堅執煩惱故

- (16) T. 1519, 3b1-3: 入於無量義處三昧身心不動如是等故二者依器世間三者依衆生世間震動世界及知過去無量劫事如是等故

T. 1520, 12c14-16: 結跏趺坐入於無量義處三昧等二依器世間三依衆生世間震動世界及知過去無量劫事等故

- (17) 678c22-679b28: 【42】經 佛說此經已至身心不動 贊曰下文第四所依說法隨順威儀住成就住者依止安處之義此明依止安處說法所依威儀隨順說法之軌則也此正應言住說法所依隨順威儀成就說無量義經結加趺坐表智處深理方可說法如說般若先住對面念後起方說經坐有二相一降伏坐以左押右二吉祥坐以右押左今將說法作吉祥坐加者重也即交重足坐有爲跏者不知所從此明依止安處何等軌儀而說於法今依三種軌儀一依三昧成就故入於三昧身心不動是二依器世間天雨四華地六動是三依衆生世間四衆八部歡喜等是入定證真起通警物衆生喜仰故此分三不唯安坐名爲威儀梵云三摩地此云等持平等持心而至於境即是定也云三昧者訛也觀無相理定名無量義處三昧處謂處所無量義者無量義教所詮衆義因真理生故說真理名之爲處論解一依三昧成就有二義一者成就自在力身心不動故謂若不入三昧有分別動搖於此不能證說自在今入三昧身心不動離於分別動搖於法便得能證說自在故云成就自在力身心不動故二者離一切障隨自在力故謂得入三昧離諸定障隨順於法證說自在若有定障於證及說不自在故論次別釋前自在力有二一隨順衆生不見對治攝取覺菩提分法故釋初自在力謂諸衆生不能任運見無漏對治道思覺方得今佛亦爾隨順衆生不能任運見對治道今亦入定思惟攝取覺察無漏對治道菩提分故二爲對治無始世來堅執煩惱故釋隨自在力堅執煩惱謂分別動搖分別動搖故是非心起是非心起故愛悲惑生愛悲惑生故諸業起諸業起故衆苦轉今爲治此分別動搖法執之心故入三昧離堅執惑論又解云由入定故能動世界及知過去無量無邊劫事不入定者神變不起不知過去世示相故也問佛無不定心行住恒在定不起滅定而現威儀何須今入答有十義一出入隨緣動靜利物故二若不入定無由放光現諸瑞故若不入定恐非佛瑞三欲說法時示審機故四顯法殊妙故入定觀令尊重故五顯慧必由證理入定方能起之師範後學令修定慧故六示定慧滿說法示慧滿入定顯定滿故七者爲末世軌說法必先自靜心故八者示善思惟聰明之相亦令餘人審諦事故九入定現瑞發三問答故不爾便無彌勒等問十顯示三密入定意密放光等身密說法語密故頌曰隨瑞審妙師滿未思問密問將說法華何故須入無量義定何因不入法華三昧答曰即如將說般若亦先入定能斷經云端身正願住對面念後方說經此亦如是先入無量義三昧後說法華法華體即無量義故法華三昧即無量義三昧無量義經爲菩薩說法華經爲聲聞說無量義談體出生無量義法華談功能出二乘體能雖殊其實無二故將說法華先入無量義三昧下文亦有悟法華三昧不言悟無量義三昧者但是隨機濟物之要宜逐便匠生之巧用名雖有二體實

不異又教理行果異故如前又先觀察眞如法體後說因果功能法華

(18) [32] Skt. 5.11-6.1; Tib. 5.11-13; Chin. 2b10-12.

(19) 679b29-c21: 【43】經 是時天雨至及諸大衆 贊曰下明器世間有二一雨華二動地今此雨華曼陀羅者此云適意見者心悅故曼殊沙者此云柔軟華體柔軟亦令見者離諸剛照礦三業故摩訶大也新翻經云適意華大適意華柔軟華大柔軟華如次即是此之四華欲明法悅諸人心調三業也亦有云天雨爲芋音華有五德一掩蔽臭惡表聞法已障垢雲銷二嚴淨國土表聞法已衆善飾身故下經云而此世界悉皆嚴淨三敷榮見臺表佛將欲開闡一乘四華後菓結表聞經已後得菩提五香氣遠騰聞者歡悅表內德周備名滿十方衆生聞者莫不崇仰。唯雨此華非餘華者表聞此經發心歡悅離執二乘硬強心故又將開一乘教理行果爲其眞實亦開二乘四法以爲權迹故雨四華亦爲度四生興四念住修四正勤獲四神足行四法證四諦理截四流斷四繫去四軛得四妙智悟四涅槃證於四德故雨此四華不增不減散佛以申供養表佛四事已周及衆以蔭羣生顯衆當亦成四

(20) [33] Skt. 6.1-2; Tib. 6.1-2; Chin. 2b12.

(21) 679c22-680a18: 【44】經 普佛世界六種震動 贊曰釋迦所王三千大千名佛世界此皆普動故言普佛世界皆動此動處也下頌中言而此世界六種震動故知唯是動釋迦界非十方界或此普動與光照同不爾放光何故乃寬動界乃狹下文據近顯化此界捨權就實故若依初解唯此界動明捨權就實故震者動也起也六動有三長阿含說一六時動謂入胎出胎出家成道轉法輪入涅槃今時動者轉法輪時二六方動大般若經第八帙說謂東涌西沒西涌東沒南涌北沒北涌南沒中涌邊沒邊涌中沒今或是此三相相動大般若說謂動涌震擊吼爆搖颺不安爲動鱗隴凹凸爲涌或六方出沒名涌隱隱有聲爲震舊云自下昇高爲起今云有所扣打爲擊砰磕發響爲吼舊云令生覺悟爲覺今云出聲驚異爲爆此各有三名十八相動般若經云謂動等動等極動乃至爆等爆等極爆但爾小動名動諸處通動名等動遍大傾動名等極動餘皆准知今此舉總但名六動唯是十八變中一振動也勝思惟梵天經說有七因一驚怖諸魔二令時衆不起散心三令放逸者而自覺悟四令念法相五令觀說處六令成就能得解脫七令隨順問正義今亦可爾故示動相

(22) [34] Skt. 6.2-5; Tib. 6.2-6; Chin. 2b12-16.

(23) 680a19-b10: 【45】經 爾時會中至一心觀佛 贊曰此衆生世間有四一四衆二八部三二王後結歡喜梵云鄔波索迦鄔波斯迦者鄔波近也迦云事索是男聲斯是女聲以諸男女成就戒者堪可親近奉事比丘比丘尼衆故云近事男近事女古云優婆塞優婆夷名清信男清信女訛也夜叉者此云勇健飛騰空中攝地行類諸羅刹也羅刹云暴惡亦可畏彼皆訛音梵語正云藥叉邏刹娑梵云莫呼洛伽此云大腹大蟒田蛟腹行之類摩睺羅伽訛也餘如前說轉輪聖王有四仁王經頌言十善菩薩發大心長別三界苦輪海中下品善粟散王上品十善鐵輪王習種銅輪王天下銀輪王天性種性道種堅德轉輪王七寶金光四天下此與餘經三種姓別亦與十地經金輪位異應會釋之如王法念經第二瑜伽第四廣說業果等相隨其所應感得金銀銅鐵四輪七寶等物而爲化也觀神變之希奇得未曾有發勝心以冥道歡喜合掌澄情寂聽故一心冀發金言故觀佛

(24) [35] Skt. 6.6; Tib. 6.7; Chin. 2b16-17.

(25) T. 1519, 3b6-9: 依止說因成就者爲諸大衆示現異相不思議事大衆見已生希有心渴仰欲聞生如是念如來今者應爲我說故名依止說因成就

T. 1520, 12c18-13a2: 依止說因成就者彼諸大眾現見異相不可思議事如來應爲我說渴仰欲聞生希有心名依止說因成就

- (26) 680b11-c22: **【46】** 經 爾時佛放眉間白豪相光 贊曰下第五依止說因成就論有二釋一云彼諸大眾現見異相不可思議事如來應爲我說渴仰欲聞生希有心名依止說因成就就是故放大光明示現諸世界中種種事故夫佛說法必爲濟生生發希渴之心名爲說因此將說法所依止因因生希渴而爲說故放光遠照異相難知大眾觀光遂興正念佛將爲說渴仰冀聞既生希有之心次應當爲說法是故放光能生衆生渴仰心故名爲說因二云先示現外事六種震動等後示現此法門內證深密法故所以先現神通外事表佛說此法門乃是由內證深密法又由內證深密所以外現神變神變既彰表佛將說所證之法故名說因雖先雨華動地未是殊絕之能今放神光希奇更甚由內證深密故外現難思此說因獨標斯瑞此中有三一放光二照境三所見此初也眉者面首之媚表所說勝大乘完媚間謂兩中表說中道白爲衆色之本顯此法是三乘之源所以喻白蓮華白牛馳駕也豪者長毛亦有爲豪毛也觀佛三昧海經第一云太子時舒長五尺樹下長一丈四尺五寸成佛已長丈五尺有十楞現中外俱空旋之圓卷如秋滿月分明皎色映雪珂圍如三寸光有七義一令生淨信知是勝人二破暗瞶癡愚併蕩三能導明引出世故四表內發智光五濟衆苦由放光照衆苦息除六警群情由觀光明有緣皆至七令厭色境諸衆生等貪生死之境久沈生死觀佛光明遂厭生死之色故佛放光涅槃從面門而放四光上生舉佛身而縱金色今從眉間放其白光各有表矣神境智通有十八變一振動二熾然三流布四示現五轉變六往來七卷八舒九衆像入身十同類往趣十一隱十二顯十三所作自在十四制他神通十五能施辨才十六能施憶念十七能施安樂十八放大光明雨四華者自在之變振六種者振動之變此放光者流布之變見六道等示現之變下神力品當具顯示

(27) [36] Skt. 6.7-9; Tib. 6.7-9; Chin. 2b17-18.

- (28) 680c23-681a19: **【47】** 經 照於東方至阿迦尼吒天 贊曰第二照境也一世界者一三千界照萬八千佛之世界唯照東方者西域以東爲上表法華經唯被佛性大乘機根不被餘性故不照餘譬如日出先照高原佛日亦爾先照根熟故舉東方有所表矣正法華中亦照東方殊無照彼餘方之文萬者數盈滿八者數不足表此說一乘真實之盈滿顯彼二乘權迹之不足又萬表涅槃寶所萬德八表菩提牛車八正由此二體皆一乘故此經將演此經能至聞者圓成故唯照爾不增不減下照地獄者表有苦而皆拔上至天者勸有樂者而求一乘慈悲普廣有緣皆照地獄衆生雖不至會雖無容預之心亦照令其苦息梵云阿鼻至此云無間無間地獄八地獄中此最下故受苦不輟故名無間梵云捺落迦此云苦器亦云不可樂亦云非法行處造非法行處也在於處處今言地獄從本大處以爲言耳梵云阿迦尼瑟捨此云質礙究竟阿迦尼瑟義扼瑟捨究竟義阿迦尼訛也色究竟天有形之頂光可至處不照無色彼無處故靡者無也傍照一萬八千上下括於五趣無不周遍振動唯在此界偏警有緣放光遂至一萬八千顯明權實故也亦如光照五趣皆蒙緣集聞經唯在四趣

(29) [37] Skt. 6.9-10; Tib. 6.9-10; Chin. 2b18-19.

- (30) 681a20-c2: **【48】** 經 於此世界至六趣衆生 贊曰下明所照有七一六趣二佛三法四四衆五菩薩六入涅槃七起塔此七分三一觀生死沈淪二觀三寶出現三觀滅後行化欲令欣厭以發心故此生死沈淪六趣衆生以六門分別一釋名二出體三開合四處所五壽量六因果相釋名者六者數名趣謂所趣五蘊假者起煩惱業所歸趣處立以趣名帶數釋也地持云所受自然故名爲天俱舍云光潔自在神用名天涅槃經云以多思故名之爲人雜心云意寂靜故

名之爲人**雜心**云以從他求又常飢虛恐怯多思故名**餓鬼****俱舍**云以傍行故名爲傍生或名畜生畜者有畜之義人之資具人所畜養之生故名畜生梵云捺落迦此云苦器如前已釋那落迦此云惡者造惡之者生苦器中故名苦器無地獄名處所不定非唯地故**地持**云增上可厭**雜心**亦云不可樂故名爲地獄梵云阿素落此云**非天**前已解訖出體者六趣皆以第八異熟識而爲自體無覆無記性攝故**唯識**云此第八識是界趣生施設本故又云此識足爲界趣生體無勞別執有實命根又有情流轉五趣四生然趣生之體即異熟識故開合者六趣總爲一謂一期生死次開爲二謂善趣惡趣分段生死變易生死或開爲三謂三界或開爲四謂四生四有有者一生有二本有三死有四中有及四種生死謂方便生死因緣生死有有生死無有生死或開爲五謂五趣除阿素洛或開爲六如此文等說有六趣**雜心**非天鬼趣所攝**瑜伽佛地**天趣所攝**正法念經**鬼畜生攝**伽陀經**中鬼畜天攝今依大乘唯天趣攝以**瑜伽佛地**爲正行多不實諂詐爲先不同諸天直實行故名曰非天如人不仁亦名非人不言非鬼非畜生故今此離之故分爲六或開爲七謂七有五趣及業中有有或開爲九謂九有或九有情居或開爲二十五有如下當說餘門如下第二卷經火宅頌中當釋**瑜伽第四正法念經**亦具陳述此說萬八千界六趣之生於此悉見

(31) [38] Skt. 6.10-13; Tib. 6.10-11; Chin. 2b19-21.

(32) 681c3-8: 【49】經 又見彼土至修行得道者 贊曰此觀三寶出現有三一佛二法三僧僧中有二一聲聞二菩薩此聲聞中有其四衆論云修行者未得聖果得道者已得聖果四衆之中有此二類因目觀佛身耳便聞法並見彼衆隨佛修行

(33) [39] Skt. 6.13-7.1; Tib. 6.12-7.1; Chin. 2b21-23.

(34) T. 1519, 3b20-21: 塔故行菩薩道者教化衆生依四攝法方便攝取

T. 1520, 13a12-13: 教化衆生依四攝法方便攝取應知

(35) 681c9-682a19: 【50】經 復見諸菩薩至行菩薩道 贊曰此菩薩也因緣者是所以義謂爲求出生死速證佛果成就衆生爲此因緣修菩薩道或爲嚴淨佛土成就衆生修菩提分行菩薩道或爲修四攝六度行菩薩道如是等種種所以信解者信而且解住地前位未得聖果相貌者三業相儀行菩薩道儀也應爲貌字犯皆非住於十地已得道果由種種所由行菩薩道故入二位又因緣者外遇良緣值善友也善知識者是大因緣故信解相貌是內修行內修行中內心行名信解身語行名相貌心觀妙理名信解捨頭目等名爲相貌行菩薩道者論云依四攝法教化衆生方便攝取故信解相貌皆是行菩薩道四攝法者一布施如後當釋二愛語常說悅意諦實如法別義之語遠離顛癡含笑先言命進問安隨宜慰愈見有昌盛而不自知覺善法增而申慶悅說佛法教恒爲勝益於已怨仇起清淨意於極癡者誓除疑惑於真福田諂誑惡行都無嫌恨修難愛語欲除障蓋爲說先作心調善者爲說諦法多放逸者誨令出離有疑惑者談說決擇依四淨語起八聖語三者利行由愛語故先示正理隨所學處悲無染心勸導調伏安處建立能令獲得現利財位後利出家俱利離欲輕安解脫習近惡友未植善根著大財位深極放逸外道僻執邪見誹謗常起八纏十惡業者於此一切皆能開解起大悲心雖受大苦心無勞倦倍生歡喜雖處財位最勝第一而自卑屈如僕如奴如旃荼羅如孝子等無染無僞真實哀憐慈愍之心永不退轉四者同事以此義利若勸他學亦自修學教他知已所修同事善根堅固不生退轉令作是念此所教我定有利樂彼自行故不爾便言汝自不善何能教我汝且於他諮受此事故須自行菩薩利他行雖無量舉此四攝攝一切行故不論餘章義如無垢稱疏第二卷

(36) [40] Skt. 7.1-3; Tib. 7.1-4; Chin. 2b23-24.

(37) 682a20-c24: 【51】 經 復見諸佛至起七寶塔 贊曰此觀滅後行化有二一入滅二起塔梵云波利拈縛誦此云圓寂即是圓滿體寂滅義涅槃訛也涅槃以六門分別一體二名三得時四得人五能障六入意體者涅槃有四一自性清淨涅槃二有餘依涅槃三無餘依涅槃四無住處涅槃此四之體即大般涅槃有三一總四之體皆一真如真如具三方成涅槃能生圓覺名摩訶般若體覺性故在二乘身不生圓覺非爲覺性不名般若 大智度論云說智及智處皆名爲般若故 華嚴云自性清淨心亦名無師智二出所知障名爲法身 勝鬘云在纏名如來藏出纏名法身在二乘等不名法身非功德法所依止故三衆苦都盡離二死故名爲解脫在二乘等分段死盡。雖離二縛非圓解脫然二乘者亦微得此三乘同坐解脫之床由此二乘亦名得涅槃然非大涅槃義不具足故又依 涅槃經第二卷大涅槃要三事具足名入大涅槃般若能證二空之智法身即是所證二理解脫即是由智證理障盡所得假擇滅體如伊字三點涅槃亦爾由智證法身而得擇滅法身爲本依之有二故如伊字二點在上一點在下別不成者三事條然有其別體許別時得理亦不成三事涅槃不異不一要俱時得方名入故縱不成者般若爲最下品解脫爲次中品法身爲次上品三法俱時三品而得此亦不成豎上下名縱傍前後名橫若三別體前後證之理亦不成由起大智證法身理離縛解脫三事不一不異名入大涅槃非如二乘執三別體有其三品前後別得或俱時得成入涅槃餘別出體釋名等義如 唯識第十卷抄今明彼佛示入無餘非入大涅槃初得成佛彼已得故所應度者此已度訖故入涅槃其未得度者亦皆爲作得度因緣故起寶塔供養舍利梵云設利羅體也舍利者訛宰觀波云高顯言塔訛也又論本科照境已下文云依器世間者傍照萬八千堅朗下二界是衆生世間者所見六趣衆生是數種種者下云示現種種觀故即餘五所見觀見此中種種事故論開爲四一者食謂所見佛資長義任持義是食義然資長衆生殊勝善法住持衆生善根不壞故佛名食又云是示現依止住食若爾菩薩八地以上對法亦名示現住食應入此攝又受用義是食義受用法樂能食故名食二聞法如名可知三修行謂四衆修行得道及菩薩行菩薩道者四者樂謂所見入滅生滅滅已彼寂爲樂故又樂有五一自性樂二因樂三苦對治樂四受斷樂五無惱害樂此復有四一出離二遠離三寂靜四覺法此入涅槃是後四中寂靜樂也示現種種觀者此顯寶塔無數恒沙觀知此故又觀見此種種事故名種種觀量種種者解下頌中入涅槃已起七寶塔寶塔高妙五千由旬等是又重科所見七事云六趣衆生是具足煩惱差別佛下足六事具足清淨差別具足清淨差別中有佛法弟子差別示現三寶差別故弟子中復乘差別聲聞菩薩二乘別故即此清淨中有世界有佛見三寶者名爲有佛有世界無佛見入涅槃及爲起塔名爲無佛

(38) [41] Skt. 7.4-6; Tib. 7.5-7; Chin. 2b24-26.

(39) 683a5-19: 【52】 經爾時彌勒至而有此瑞 贊曰第六大段大衆現前欲聞法成就文段有三初彌勒示相懷疑次衆人實生心惑後慈氏雙申兩意發問先因彌勒道滿當主因成現世逢緣不少植業良多豈復觀豪光而不知觀等持而不了但是示有不知之相發問以警群情故名彌勒示相懷疑衆人以根地人下不測大聖之徵祥觀外相以疑生故名衆人實生心惑彌勒挾自他之兩意發問文殊一人徵先所由故爲第三段也初中有四一牒瑞徵因二舉奇詢答三推功上德四謙己方陳此初文也妙用無方曰神通轉異名變外應群物立以瑞名瑞即信也符應也此問放光有何符應所以牒說因以爲問

(40) [42] Skt. 4.6-12; Tib. 7.7-13; Chin. 2b26-29.

漢文はこのセクションを2つに分けて(2b26-27, 27-29)注釈を行っているが、チベット語訳は引用文も1つにまとめている([42] = 【53・54】)。

- (41) T. 1519, 3b23-25: 問一人者多人欲聞生希有心是故唯問文殊師利
T. 1520, 13a15-16: 自此以下示現大眾現前欲聞法成就問一人多人欲聞生希有心是故唯問文殊師利
- (42) T. 1519, 3b25-27: 如是示現世尊弟子隨順於法不相違故今佛世尊現神變相者爲何等義爲說大法故現大相以爲說因
T. 1520, 13a17-19: 如是示現世尊弟子隨順法不相違故今佛世尊現神變相者爲何等義爲現大相因故爲大相者
- (43) T. 1519, 3c5-7: 殊師利能記彼事故以文殊師利所作成就因果成就現見彼法故所作成就者此有二種一者功德成就二者智慧成就
T. 1520, 13a24-27: 以文殊師利能記彼事故以文殊師利所作成就因果成就現見彼法故所作成就者有二種一者功德成就二者智慧成就
- (44) 683a20-25: 【53】經 今佛世尊至誰能答者 贊曰此舉奇詢答牒隨順威儀住以爲問入三昧三昧理深名不可思議 動地雨華名現希有事或雨華動地放光遠照外應物機皆名神變瑞徵因所攝唯入三昧名爲希有事誰能答者詢訪答人
683a26-c1: 【54】經 復作此念至我今當問 贊曰文殊師利等推功上德我今當問者謙己方陳文殊師利道果久成示居因末紹佛法王之位獨得法王子名已曾親近得遇良緣供養諸佛深植德本進財進行名供養故文殊師利住第四依供養八恒並前三依合值二十六恒河沙佛故必應見此希有之相謙己不知我今當問論云問於一人多人欲聞生希有心是故唯問文殊師利心多未了疑出多人解在非多答唯在一論云示現佛與弟子互相隨順證說等法皆不相違爲現大相因故者大相謂所說妙法因謂神變今現瑞相爲說之因又大相者即現瑞相瑞相即因與所說法爲因故又因者所以問現神變等大相之所以也何故唯問文殊不問餘人有二法故推於文殊一現見諸法文殊證知諸法故二離諸因緣自心成就彼法故謂文殊師利離諸構畫及離比知並從他聞之因緣故所以推之示現種種瑞相者示現彼彼事非一故名爲彼彼如彼事現沒住滅所見六趣衆生現在彼生死中沒名爲現沒所見佛法四衆並諸菩薩現在彼住名爲現住見佛入涅槃並爲起塔現在入涅槃故名現滅所見七事無不攝盡或住即現在滅即沒無見入涅槃並爲起塔名滅沒所餘五事皆名現住論以文殊能記彼事是故問之文殊師利所作成就因果成就所作者謂彼所修作法此有二種一福德二智慧內德滿也因成就者謂一切智成就緣即放光雨華動地外德滿故重復釋言因者相也謂現大瑞相此因之果者謂所說大法文殊外因既滿內德復圓故能知佛亦說妙法果故今推問
- (45) [43] Skt. 7.13-8.2; Tib. 7.14-8.2; Chin. 2b29-c3.
- (46) 683c2-8: 【55】經 爾時比丘至今當問誰 贊曰衆人實生心惑也是佛光明牒說因放光神通之相牒威儀中雨華動地外相衆人共觀所以牒之生疑入定非衆所知所以不牒爲問以根人地並居下故不能測知佛之入定既不知入于何定亦依何處以生疑故不問也
- (47) [44] Skt. 8.3-5; Tib. 8.3-4; Chin. c3-5.
- (48) 683c9-11: 【56】經 爾時彌勒至文殊師利言 贊曰下第三段雙申兩意發問先因有二初長行後重頌長行有二此初雙申兩意
- (49) [45] Skt. 8.5-7; Tib. 8.4-7; Chin. 2c5-7.

(50) 683c12-684a4: 【57】經 以何因緣至國界莊嚴 贊曰此後發問先因而有此瑞總也神通相者牒威儀中雨華動地放光明等牒說因也彌勒挾自他以爲問觀外瑞而共同故雙牒瑞以生微不牒入定以爲問外人不疑入定下亦不頌入定故也悉見彼佛國界莊嚴者論總解經意云種種佛國土者示現彼國土中種種差別示現爲化四衆六趣衆生所現穢國及淨妙國土無煩惱衆生住處爲化十地菩薩所現淨國於彼國土佛爲上首者諸菩薩等依佛住故佛於二國得自在故。

(51) [46] Skt. 8.8-9; Tib. 8.8-9; Chin. om.

漢文は、經典の引用文を項目立てないが、チベット語訳では偈頌の導入部分として前項と分けて新たに項目立てている。

(52) 長牒前文所以所見之中先說佛爲上首凡說重頌有十所由一爲利鈍兩根二爲前後兩衆三爲直曲兩樂四爲難易兩解五爲眞俗兩隨六爲取捨兩分(長行取善頌文捨惡)七爲標釋兩則(長行標頌文釋)八爲智辨兩殊(長行智無盡頌中辯無盡)九爲解持兩異(長行爲解法頌中爲持法)十爲說行兩別(長行爲樂說者頌文爲樂行者)頌此十曰利鈍與前後直曲難真取捨及標釋智辨解說行長行與頌六義不同廣略或有無合離與前後文質並隱顯是曲直差別至下文中一一當顯

(53) [47] Skt. 8.10-11; Tib. 8.10-11; Chin. 2c7-10.

(54) 684a5-17: 【58】經 於是彌勒至大光普照 贊曰梵云伽陀此翻爲頌頌者美也歌也頌中文句極美麗故歌頌之故訛略云偈此祇焰頌進詮體義劣於名句退爲所依不及聲文故於百法不別建立然以聲上屈曲爲體即名句文更無別性不同小乘頌依於文及文士者此乃室盧迦三十二字處中頌也凡有六十二頌分爲二初五十四頌頌前瑞相後八頌頌正興問初中復三初一頌頌前說因中放光能照次三頌頌前威儀中雨華動地等後五十頌頌說因中照境所見此初也先頌放光後頌雨華六不同中前後不同隨文便故

(55) [48] Skt. 8.12-9.1; Tib. 8.13-9.1; Chin. 2c10-12.

(56) 684a18-23: 【59】經 雨曼陀羅至地皆嚴淨 贊曰下三頌頌威儀中三事一頌半雨華半頌動地一頌四衆歡喜此頌雨華不頌入定自知不問衆亦不疑長行四華此頌二者合離不同華爲梅檀香風似赤白檀香氣可遠聞故悅可衆心地皆嚴淨乃與長行有無不同

(57) [49] Skt. 9.1-2; Tib. 9.1-2; Chin. 2c12-14.

(58) 684a24-25: 【60】經 而此世界至得未曾有 贊曰初二句頌動地後一頌頌四衆歡喜

(59) [50] Skt. 9.3-5; Tib. 9.3-5; Chin. 2c14-16.

(60) 684a26-b4: 【61】經 眉間光明至上至有頂 贊曰下五十頌頌照境所見分齊爲二初一頌半頌照境後四十八頌半頌所見此頌器世間即照境也皆如金色顯可重放光雖白色表一乘爲本所照如金彰一乘可重或示現諸佛淨土之相令修一乘外果之因故如金色至下當知下文殊頌中亦現淨土故或豪雖白光乃金色

(61) [51] Skt. 9.5-7; Tib. 9.5-7; Chin. 2c16-18.

(62) 684b5-24: 【62】經 諸世界中至於此悉見 贊曰下四十八頌半頌所見六事前七事中不頌入滅文分爲六初一頌半頌六趣衆生次半頌頌見佛次六頌半頌聞法次一頌半頌四衆次三十一頌半頌行菩薩道後七頌頌滅後起塔此初也即衆生世間中具足煩惱差別生死是總通惑業苦所趣是別即六趣果或所趣果體即生死以業煩惱假者

- 有情爲能趣故經自釋言善惡業緣受報好醜受報好醜是所趣果善惡業緣爲能趣因由善業爲異熟因貪等爲潤緣受人天好總報人天好總報行善衆生所歸處故由惡業爲異熟因貪等爲潤緣受三惡趣醜總報三惡趣醜總報行惡衆生所歸處故名爲所趣於此悉見中有業煩惱名爲能趣外器世間名趣資具內異熟果名爲所趣如有預言獸歸林藪鳥歸虛空聖歸涅槃法歸分別即以所歸爲所趣假者有情以善惡趣爲生死所趣論明具足清淨差別即數種種
- (63) [52] Skt. 9.8-12; Tib. 9.8-12; Chin. 2c18.
- (64) 684b25-28: 【63】經 又觀諸佛聖主師子 贊曰此半頌明見佛師子即聖主聖主即諸佛以下釋上無畏自在名師子冥真洞俗名聖主衆聖之主即諸佛也
- (65) [53] Skt. 9.12; Tib. 9.12; Chin. 2c19-23.
- (66) 684b29-c10: 【64】經 演說經典至開悟衆生 贊曰下六頌半頌聞法分二初三頌半頌聞四辨後三頌頌聞三乘此即初也初半聞義無礙一頌聞法無礙一頌聞詞無礙一頌聞辨才無礙義深名微妙上乘名第一義無礙解也教離垢染名清淨善順人心名柔軟法無礙解也契理名深妙應機名樂聞妙順諸方名各於世界詞無礙解也種種因緣法之道理以無量喻諸譬況也法喻雙開略有二義一照明佛法二開悟衆生辨才無礙解也
- (67) [54] Skt. 10.1-6; Tib. 10.1-6; Chin. 2c23-3a4.
- (68) 684c11-14: 【65】經 若人遭苦至爲說淨道 贊曰此聞三乘聲聞獨覺菩薩如次配此三頌厭音於艷反厭於猶足而不欲復爲也有作厭於鹽反飽也
- (69) [55] Skt. 10.7-8; Tib. 10.7-8; Chin. 3a4-6.
- (70) 684c15-20: 【66】經 文殊師利至今當略說 贊曰此一頌半頌見四衆因結於前便明觀彼四衆修行得道相狀衆多見聞若斯結前所見及千億事明見四衆今此經中宗明一乘不能具列餘四衆行故例衆多我今略說上明聲聞下明菩薩即乘差別
- (71) [56] Skt. 10.9-10; Tib. 10.9-10; Chin. 3a6-7.
- (72) 684c21-685a16: 【67】經 我見彼土至而求佛道 贊曰下三十一頌半頌行菩薩道分三初一頌頌種種因緣次十七頌頌種種相貌後十三頌半頌種種信解前長行中以外緣內行說凡至聖階降先後今頌先依外緣後明自行自行以勝劣爲前後相貌者十地無漏有漏雜修次第修六波羅蜜行信解者唯有漏修亂修非次第勝劣既殊故前後別然修六度略有三位見道以前初劫之中於一行中唯修一行亂修有漏即此信解初地至七地滿第二劫中於一行中修一切行有漏無漏二皆雜修八地至十地滿第三劫中一切行中修一切行純無漏修後二劫修即此相貌十地經言初地行檀乃至十地而修智度於餘度中隨力隨分非不修習故此相貌即十地修有次第故行廣大故信解即是見道已前行非勝故說亂修故此頌因緣恒沙菩薩者梵云殑伽訛略云恒河神之名河從彼稱殑音其矜反去聲也經中說恒河沙爲喻無熱惱池出四大河此即一也一由沙多二由世人共爲福水入洗罪滅沒死生天三雖經劫壞名字常定四佛多近此宣說妙法五衆人共委故多爲喻仍取初出池口方四十里沙以爲喻
- (73) [57] Skt. 10.11-11.8; Tib. 10.11-11.8; Chin. 3a8-15.
- (74) 685a17-c17: 【68】經 或有行施至求佛智慧 贊曰下十七頌頌相貌中分二初十五頌頌六度次習二益圓成後之兩頌八風不動三悲接物頌六度中分六初六頌施次二戒次一忍次一勤次二定後三慧此施有三初四外財次一內外後一內財外財四中一施七寶次施八珍次施成度後施雜物七寶中一金說文金有五色黃爲其長久藝不生

百練不輕徙革不違西方之行出於土從土左右所以金字象金在土形今亦聲也二銀白金也三珊瑚紅赤色石脂似樹形四眞珠即赤眞珠佛地論云赤虫所出或珠體赤名赤眞珠五摩尼者如意神珠既無琉璃便開珠二六車璩梵云牟娑洛揭婆。青白間色七馬瑙梵云過濕摩揭婆此云杵藏或言胎藏者堅實故也色如馬腦故從彼名作馬腦字以是寶類故字從玉或如石類字或從石此七不同隨方所重如上生疏次頌八珍一金剛二諸珍帝青大青之類三奴古者罪人役官入賤爲奴或爲奴字四婢女之卑稱五車輿輪之總名夏后氏奚仲所作古音居言行所以居人今車舍也言行者所居如舍六乘駕也謂可乘者周禮乘載也謂象馬之徒七寶飾輦輓車人在前引之古卿大夫亦乘自漢已後天子乘之故今天子皇后所乘車曰輦八寶飾輿余據余居二反說文車輿也又車無輪曰輿乘也載也有作輿非也皆以珍嚴故言寶飾次一頌施成度義成唯識云具七攝受方成度相若闕便非應說頌曰安住與依止意樂及事業巧便向清淨度成由此七此中但舉一迴向菩提餘六准而可悉願得佛乘三界第一即迴向意次一雜物駟音息利反古人四馬一乘逐也可以馳逐房星四謂之天駟故人效之欄鉤欄也門遮也欄闌皆得有作蘭香草也非此義楯音食尹時名二反闌檻也縱曰檻橫曰楯音戶華反依此俗釋黃帝與蚩尤戰於涿鹿之野常有五色雲氣金枝玉葉止於帝上有花蓋之形因而作華蓋華美之蓋也據實理釋西域暑熱人多持蓋以花飾之名爲花蓋華是花音也軒音虛言反安車也曲轡轡車耳以物增嚴名爲飾也有作轡飾虛僣反布張車上禦熱名轡車四馬駕傍飾欄楯上施華蓋張轡嚴飾以爲布施上四外財次一内外身等爲內妻子爲外次一唯內施而心欣施有五相至心及信心隨時自手施如法行捨物是名施五種即七攝受中第四事業不應施亦五相不淨亂衆生惱害衆生物及壞淨心者皆不應施與即五相中如法施也施有五利親近恒樂見宗敬好名聞復作後時因是名施善利此上皆如發菩提心經說於此施中應起四智一若有財心不樂施起覺悟智二財虧關心不樂施起忍苦智三財悅意心不樂施起知倒智四欣世果而行施者起不堅智施以無貪及彼所起三業爲性如菩薩地說

(75) [58] Skt. 11.9-12; Tib. 11.9-12; Chin. 3a16-18.

(76) 685c18-686a7: 【69】經 文殊師利至而被法服 贊曰此二頌戒戒有三種一律儀戒即七衆所受二攝善法戒所修三乘一切善法三饒益有情戒即利有情三業萬行勝鬘經云波羅提木叉毘尼出家受具足爲大乘故說菩薩地言律儀戒者捨輪王位如棄草葉出家受具足等皆名律儀戒故此所說即律儀戒律儀戒爲本方有後二若破律儀三戒俱捨故四波羅夷皆律儀戒此明初出家方能受具足等故說最初律儀戒也有本言披法服披音敷羈反方言披散也今亦棹著之義今正應言而被法服被音皮義反服用被帶之義出家寬曠猶如虛空在家迫迮猶如牢獄。故說出家持戒有五利一十方佛護念二捨命時歡喜三持戒者爲親友四功德圓滿五生生常得戒成其性智度論說戒爲德瓶即此第四頌曰護念終歡喜戒友功德圓生常戒成性是名戒五種

(77) [59] Skt. 11.13-14; Tib. 11.13-14; Chin. 3a18-19.

(78) 686a8-10: 【70】經 或見菩薩至樂誦經典 贊曰此一頌忍讀誦經典思惟法義諦察法忍學難偏說攝餘二忍謂耐怨害忍安受苦忍

(79) [60] Skt. 12.1-2; Tib. 12.1-2; Chin. 3a20-21.

(80) 686a11-21: 【71】經 又見薩薩至思惟佛道 贊曰此一頌勤此通被甲攝善二種略無利樂有情精進精進有五謂被甲加行無下無退無足即經所說有勢有勤有勇堅猛不捨善輓最初發起猛利樂欲名被甲次起堅固勇悍方便名加行次爲證得不自輕蔑亦無怯懼名無下次能忍受寒熱等苦於劣等善不生喜足名無退次能證入諸諦現觀

等欣求後勝品功德名無足二乘究竟道欣大菩提故諸佛究竟道樂利樂他故初一名被甲後四名攝善此中合名勇猛精進

(81) [61] Skt. 12.3-6; Tib. 12.3-6; Chin. 3a21-23.

(82) 686a22-25: 【72】經 又見離欲至讚諸法王 贊曰此二頌定離憤鬧故常處空閑由安住靜慮故深修禪定引發靜慮故得五神通由辦事靜慮故讚諸法王此三必由離欲方得

(83) [62] Skt. 12.7-8; Tib. 12.7-8; Chin. 3a24-25.

(84) 686a26-29: 【73】經 復見菩薩至聞悉受持 贊曰下三頌頌慧此一加行智妙達實相故智深音樂不壞故志固又思慮遠故智深不休息故志固加功能問聞並能持

(85) [63] Skt. 12.9-12; Tib. 12.9-12; Chin. 3a25-27.

(86) 686b1-14: 【74】經 又見佛子至而擊法鼓 贊曰此二頌頌二智定慧具足根本後得二智滿故後得智中以喻講法講法有四意一欣樂說法二化諸菩薩不化二乘三破十魔衆四而擊法鼓擊法鼓者開權顯實至下當知魔羅云破壞號也略云魔名波卑夜云惡者波旬訛也雜藏中佛說魔軍有十今爲頌言欲憂愁飢渴愛睡眠怖畏疑毒及名利自高輕慢彼汝等軍如是一切無能破我智箭定刀摧坏瓶投水或正智擊眞如後智擊俗理說法發誓令衆得聞此六度中皆具二利然以布施唯明利他後慧通彰二利中四但說自利略無利他之說實非無也

(87) [64] Skt. 12.13-14; Tib. 12.13-14; Chin. 3a28-29.

(88) 686b15-24: 【75】經 又見菩薩至不以爲喜 贊曰下二頌八風不動三悲接物二頌如次此八風不動宴音焉見反安也息也有作晏字焉澗反亦默也八風者一利二衰三毀四譽五稱六譏七苦八樂今此但舉於四生喜得財位名利面讚爲譽背讚名稱適悅名樂於此四中菩薩不以爲喜恭敬之言義貫通故翻此四種衰毀譏苦亦不生憂。身心寂然語言宴默離八風故此如瑜伽第二秩解

(89) [65] Skt. 12.15-16; Tib. 12.15-16; Chin. 3a29-b1.

(90) 686b25-29: 【76】經 又見菩薩至令入佛道 贊曰此三悲接物悲謂拔苦有情緣悲緣有情起行有多種生亦無窮偏舉一行濟重苦生故言放光濟地獄苦餘二悲行法緣無緣准此亦成下當具顯

(91) [66] Skt. 13.1-2; Tib. 13.1-2; Chin. 3b1-2.

(92) 686c1-24: 【77】經 又見佛子至勤求佛道 贊曰下十三頌半頌地前凡夫信解行道六度亂脩卽爲六也一頌勤一頌戒一頌半忍二頌定五頌施三頌慧此勤也飲食知量減劣睡眠初夜後夜覺悟瑜伽遺教亦言初夜後夜亦勿有廢中夜誦經以自消息無以睡眠因緣令一生空過無所得也嘗試也謂暫爲之今不暫爲故言未嘗經行林中西域地濕壘塼爲道於中往來消食誦經如經布絹之來去故言經行此乃策勵脩四正斷於已生惡不善法脩律儀斷於未生惡不善法修斷斷於已生善法修防護斷於未生善法修修習斷以求佛道故華嚴云佛子善諦聽我說如實義或有速出要或有難解脫若欲求除滅無量諸過惡應當一切時勇猛大精進譬如微小火炬濕卽能滅於佛法教中懈怠者亦爾譬如人鑽火未出數休息火勢隨止滅懈怠者亦爾譬如淨火珠離緣而求火畢竟不可得懈怠者亦爾譬如明淨日閉目求見色於佛教法中懈怠者亦爾由初發心精進爲最信爲欲依欲爲精進依故此但以精進爲首十信心中信後精進故

(93) [67] Skt. 13.3-4; Tib. 13.3-4; Chin. 3b3-4.

- (94) 686c25-687a2: 【78】經 又見具戒至以求佛道 贊曰此一頌戒三業威儀常無缺減勿輕小罪以爲無殃水滄雖微漸盈大器深見怖畏及慚愧故淨如寶珠者一內外無瑕二戒德圓備三威光晃曜四衆所愛樂由此鵝珠被縛草繫捨身雁墮知事之前龍生伊蘭之樹瓶隨所欲律儀爲本故也
- (95) [68] Skt. 13.5-6; Tib. 13.5-6; Chin. 3b4-6.
- (96) 687a3-10: 【79】經 又見佛子至以求佛道 贊曰此一頌半耐怨害忍少得謂多得名增上慢恃族姓色力聰叡財富道德名譽得高勝他遂行打罵菩薩以五種觀皆悉能忍一親屬想二唯法想三有苦想四無常想五攝受想頌曰應觀彼害者親屬唯有法有苦及無常攝受故應忍上來略標並廣如幽贊恐繁不述捶音之累反擊也打音頂
- (97) [69] Skt. 13.7-10; Tib. 13.7-10; Chin. 3b6-8.
- (98) 687a11-17: 【80】經 又見菩薩至以求佛道 贊曰此二頌定所離有四一戲謂分別戲論二笑謂談謔三離自愚癡四離惡眷屬離親屬尋故不離有二一翻第四親近善緣二一心除亂翻前三種故遺教經云汝等比丘當離憒鬧獨處閑居思滅苦本若樂衆者即受衆惱廣說如經
- (99) [70] Skt. 13.11-14.2; Tib. 13.11-14.2; Chin. 3b9-15.
- (100) 687a18-b12: 【81】經 或見菩薩至求無上道 贊曰此五頌施分三初三頌四事施次一頌上妙施後一頌意樂施四事者飲食湯藥衣服臥具肴者非而食之曰肴肴菹也應作肴字食也啖也菜之類是亦云豈實膳具食也今時美物亦曰珍膳俗解肴膳肉也今則不然菩薩設以供養佛故應爲膳字有作饍膳非也旃檀者亦謂牛頭栴檀黑謂紫檀之類白謂白檀之屬上妙施中父母病法師最後身菩薩設非證聖者施果亦無量又云若有戒足雖羸劣而能辨說利多人如佛大師應供養受彼善說故相似故以清淨好園林施意樂施中有六意樂一廣大二無厭三歡喜四恩德五無染六善好此中有三一歡喜二無厭三善好即求無上道前施四事即廣大施荷彼前恩名恩德施三時無悔不爲染雜名無染施以飲食施足法食故不墮飢饉劫故以醫藥施當得法藥無諸病故以衣服施得七寶衣柔和善順具慚愧故以臥具施當具資緣入空寂舍慈悲室故以園林施當住覺苑總持園故及得無漏法林樹故以華施得七覺華故以菓施得四聖果故以浴池施當得捨垢八解池故
- (101) [71] Skt. 14.3-6; Tib. 14.3-6; Chin. 3b15-19.
- (102) 687b13-24: 【82】經 或有菩薩至求無上道 贊曰此三頌慧初一後得智法施無盡故迦葉經云若恒沙世界珍寶滿其中以施諸如來不如以法施施寶雖福多不及一法施一偈福尚勝況多難思議次一正智證無相故二相者分別也無二相者即是餘經不二法門如彼三類說不二義地前學作有相無相利他自利二智行故後一加持求正道故教音古孝反訓也示也詔音諸耀反導也謂教導之詔照也關於成事即有所犯以此示之使照然可見又有本作教招教無平音招誘進也
- (103) [72] Skt. 14.7-8; Tib. 14.7-8; Chin. 3b19-20.
- (104) 687b25-c4: 【83】經 文殊師利至供養舍利 贊曰下第六段有七頌頌起塔有二初一頌供養舍利後六頌造塔供養後文分三初三頌造塔嚴飾次一頌八部供養後二頌顯造塔殊勝又七頌分二初五頌頌長行後二頌結造塔勝初中復二初四頌菩薩供養後一頌八部供養菩薩供養復二初一頌供養舍利後三起塔准此頌文長行應言供養舍利起七寶塔此初也
- (105) [73] Skt. 14.9-15.1; Tib. 14.9-15.1; Chin. 3b21-24.

- (106) 687c5-23: 【84】 經 又見佛子至寶鈴和鳴 贊曰此三頌起塔一頌數一頌量一頌嚴菩薩地說若佛滅後造一或多佛制多等而爲供養當獲無量大福德果受大梵福無數大劫不墮惡趣亦獲無上菩提資糧梵云踰繕那限量義訛云由句俱舍頌云極微微金水免羊牛隙塵蟻虱麥指節後後增七倍二十四指肘四肘爲弓量五百俱盧舍 此八踰繕那十六里餘若依餘經乃四十里縱音即容子用二反豎也廣橫也古爲從字切韻唯有縱縱縱三字有本作從不知所出俗解南北曰縱東西曰橫露謂不覆 幔謂覆也顯所莊嚴或露或覆下寶塔品當具釋之此明報土寶塔之量上位所見不爾此洲詎安多塔有云幔幕也在傍日帷在上曰幕幕覆也露謂覆露同諸經文珠交露蓋有作縵字繪帛無文非是幔體寶鈴和鳴聲和調也
- (107) [74] Skt. 15.2-3; Tib. 15.2-4; Chin. 3b25-26.
- (108) 687c24-25: 【85】 經 諸天龍神至常以供養 贊曰此明八部供養
- (109) [75] Skt. 15.4-6; Tib. 15.3-5; Chin. 3b26-28.
- (110) 687c26-29: 【86】 經 文殊師利至其華開敷 贊曰此二頌結造塔勝因造塔故國界殊特塔迴高嚴衆寶綵飾如天帝釋圓生樹王花開之時瑞嚴絕比迴光諸樹故以爲喻
- (111) [76] Skt. 15.7-8; Tib. 15.5-8; Chin. 3b29-c2.
- (112) 688a1-5: 【87】 經 佛放一光至照無量國 贊曰下大文第二段有八頌頌請分二初四頌牒奇興問後四頌推事請答初中復二初二頌牒近遠兩立奇後二頌舉見二事問此初也初頌牒見近奇後頌牒見遠奇
- (113) [77] Skt. 15.9-10; Tib. 15.9-10; Chin. 3c2-5.
- (114) 688a6-9: 【88】 經 我等見此至放斯光明 贊曰此二頌舉見二事問初頌牒自他之兩見後頌舉此彼之被瞻疑意若斯放光何故此被瞻者欣我問故彼被瞻者希仁答故
- (115) [78] Skt. 15.11-12; Tib. 15.11-12; Chin. 3c5-6.
- (116) 688a10-14: 【89】 經 佛子時答至演斯光明 贊曰下推事請答分四初一頌推時請答次一頌推事請答次一頌舉事極大後一頌正請彼答此初也四衆欣渴冀聞勝道願決令喜今正是時凡說法者必逗機故
- (117) [79] Skt. 15.13-16.5; Tib. 15.13-16.4; Chin. 3c6-9.
- (118) 688a15-17: 【90】 經 佛坐道場至此非小緣 贊曰初頌推二事請答一妙法二授記後頌明事極大見佛及淨土此非小緣故
- (119) [80] Skt. 16.5-8; Tib. 16.3-6; Chin. 3c9-10.
- (120) 688a18-20: 【91】 經 文殊當知至爲說何等 贊曰正請彼答唯見瞻仁獨憐仁答前瞻此彼問答之者雙瞻此獨瞻仁願決衆之疑網故也
- (121) [81] Skt. 16.9-10; Tib. 16.7-8; Chin. 3c11-12.
- (122) T. 1519, 3c17-23: 文殊師利以宿命智現見過去因因果相成就十事如現在前是故能答彌勒菩薩云何現見過去因相謂文殊師利自見己身曾於彼諸國土中處處修行種種行事故云何現見過去果相謂文殊師利自見己身是過去世妙光菩薩於彼佛所聞此法門爲衆生說故
T. 1520, 13b6-11: 文殊師利菩薩以宿命智現見過去因果相成就十種事如現在前是故能答彌勒現見過去因相者自見己身於彼諸佛國土中修種種行事故現見過去果相者文殊師利自見己身是過去妙光菩薩於彼佛所聞此

法門爲衆生說故

- (123) 688a21-b4: 【92】經 爾時文殊至及諸大士 贊曰下第七文殊師利答成就論云文殊師利以宿命智現見過去因果相成就十種事如現在前是故能答非比度非構虛能答也論云因相者文殊自見已身於彼佛土修行諸行是今時之因菩提因行故果者過去所依自體論云文殊自見已身是過去妙光法師於彼佛所聞此法門爲衆生說是前前世過去之果果謂所依自體非是所見因之果也彼因者今時佛果之因彼果者乃是過去無量生因之果大分爲三初標名總告次正答所徵後有二頌語衆勸知陳佛今說此即初也
- (124) [82] Skt. 16.10-12; Tib. 16.9-10; Chin. 3c12-14.
- (125) T. 1519, 3c18: 現見過去因果相成就十事如現在前
T. 1520, 13b7: 現見過去因果相成就十種事如現在前
- (126) T. 1519, 3c24: 爲成就十事一者現見大義因成就
T. 1520, 13b12-13: 就十種事者何等爲十一者現見大義因成就
- (127) T. 1519, 4a6-9: 八者欲說大法此八句欲示現如來欲論大法等故何等名爲八種大義謂有疑者爲斷疑故已斷疑者增長淳熟彼智身故
T. 1520, 13b22-25: 八者欲說大法此八句示現如來欲說大法等故何等爲八種大義謂疑者斷疑故已斷疑者增長淳熟智身故
- (128) 688b5-689a11: 【93】經 善男子等如我惟付至演大法義 贊曰正答所徵也然依論本此答之中成就十事第一現見大義因即此文是第二諸善男子我於過去下現見世間文字章句甚深意因第三諸善男子如過去無量無邊下現見希有因第四次復有佛亦名日月燈明下現見勝妙因第五其最後佛未出家下現見受用大因第六佛滅度後妙光菩薩持妙法蓮華下現見攝取諸佛轉法輪因第七日月燈明佛八子皆師妙光下現見善堅實如來法輪因第八是諸王子供養無量下現見能進入因第九其最後成佛者名曰燃燈下現見憶念因第十彌勒當知爾時妙光菩薩下現見自身所逕事因因者所以文殊現量智見其事證其所由以答彌勒故說爲因或此十事多居往代爲今時因故名爲因此十因中總爲五對一義教對二希勝對三轉嗣對四堅進對五他自對配經十相如次應知此中總分爲四一示相籌量答二舉古成今答三指陳別事答四古今相即答初二後一如文次第自餘中間七因總爲指陳別事至文當知今此即示相籌量答惟者思也念也謀也付者度也論名現見大義因成就者義者義理成於八種大義理之所由所由因也八大義者經有五句論有八句應言欲說大法雨大法雨擊大法鼓不斷大法鼓建大法幢燃大法炬吹大法螺演大法義論中第七方說不斷大法鼓今以義推故第四說亦不相違雨大法雨二皆字音或初芋音吹有二音昌爲尺僞二反今從初反螺音落過反水蟲也或作贏字論云疑者斷疑即欲說大法欲破先疑住外凡位令進修故已斷疑者增長淳熟彼智身故即雨大法雨先住內凡而無疑者滋善萌芽令入聖位欲增善故此本論意上下相連鉤鎖相起以釋經文下皆准知論云根熟者爲說二種密境界謂聲聞菩薩二密境界二句示現即擊大法鼓不斷大法鼓以遠聞故次第配之即明今者聞往聲聞乘爲權密境界顯今所說菩薩乘爲實密境界名二密境界令根熟者捨權取實故論云入密境界者令進取上上清淨義故即建大法幢建立菩提妙智極高顯故猶如於幢由知權實有捨有取行大乘行得菩提智離障淨故論云進取上上清淨義者進取一切智現見故即然大法炬既得真智建立菩提照於真境證涅槃故如炬照物論云取一切智現見者爲一切法建立名字章句義故即吹大法蠡既得真境必須說教義教詮一切法故名

爲一切法建立名字等如俗作樂曲終滿位吹大螺吼今既得果事圓滿位爲他說法亦復如是故涅槃說吹貝知時論云建立名字章句義者令入不可說證智轉法輪故即演大法義說於教者令所應度入於證智成轉法輪摧於煩惱此八句中分爲四對一破惡進善對二開權顯實對三得智證眞對四說法利生對如是循環名爲法輪自既得果欲令有情證聖眞智破滅煩惱論既鉤鎖解經故此相乘爲對可披解意尋釋來由經有五句唯二對半有破惡進善說法利生開權一自餘顯實得智證眞文對皆闕仍不次第讀者應知

(129) [83] Skt. 16.12-17.1; Tib. 16.12; Chin. 3c14-16.

漢文はこのセクションを2つに分けて (Chin. 2c14-15, 15-16) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([83] = [94・95])。

(130) 689a12-16: 【94】經 諸善男子至即說大法 贊曰下現見世間文字章句意甚深因者此說大教故教是世間戲論名字章句故意者意況說教之所以也即是舉古成今答文中有三一舉過去二結成今三釋其意此初也

689a17: 【95】經 是故當知至亦復如是 贊曰此結成今

(131) [84] Skt. 17.1-7; Tib. 17.1-7; Chin. 3c16-17.

(132) 689a18-21: 【96】經 欲令衆生至故現斯瑞 贊曰此釋其意放光何意欲令聞知難信法故昔說二眞今談一實令捨舊極取今新極故名難信不但信難義旨亦難

(133) [85] Skt. 17.8; Tib. 17.8; Chin. 3c17-18.

(134) T. 1519, 4a21: 現見希有因成就者以無量時不可得故

T. 1520, 13c4-5: 現見希有因成就者無量時不可得故

(135) 689a22-b27: 【97】經 諸善男子至阿僧祇劫 贊曰下有八因總爲二文初長行後偈頌長行分二初七因指陳別事答後一因古今相即答初文分三初一讚揚希有答次一顯後勝妙答後五委陳同事答初讚揚希有答論名現見希有因無量時不可得故於中有四一讚時久遠希二讚佛名號希三讚法勝妙希四讚生利答希此即初也論云不可思議不可稱不可量者示現過彼阿僧祇劫不可得故梵云阿僧企耶訛云阿僧祇言無數也俱舍論說第五十二數從一積十至此數極名阿僧祇本數六十餘八傳忘華嚴經說百二十數此乃第一百一十二劫臘波略名爲劫此云分別時分分別之義不可思議者過情計之境不可稱者過言議境不可量者非喻算境今經云無量者過算分喻分無邊者過時分不思議者過情計分即同般若過四分也菩薩地說劫有二種一日夜年數二阿僧祇劫瑜伽復說或說一增減爲一劫謂飢饉疫病刀兵或有二十劫爲一劫謂梵衆天或四十爲一劫謂梵輔天或此六十爲一劫謂大梵天或此八十爲一劫謂火災劫少光天數此壽命二劫或七火方一水災劫謂極光淨天或八七火一七水災方一風災劫謂遍淨天數此至不可數爲一阿僧祇凡經此三大阿僧祇劫修因方得作佛並賢劫等合有十類劫之差別古攝論文或地前分三十地各分三合成三十三阿僧祇劫七地已前爲小八九十地爲中地前爲大雖有此等劫量不同今依本論法華一會所說諸劫多依五種一夜二晝三月四時五年今依無量無邊不可思議之阿僧祇年非餘大劫也欲顯諸佛無數大劫時一出故文殊所見極大遠故

(136) [86] Skt. 17.8-11; Tib. 17.8-12; Chin. 3c18-20.

(137) 689b28-690b6: 【98】經 爾時有佛至佛世尊 贊曰此讚佛名號希日月燈明是別名如來已下是通名日有二能一導明二成就月有二能 一除熱二清涼燈有二能一破暗二傳照顯佛能導迷至覺成器熱根除煩惱之熱得

涅槃之涼永破愚癡化生傳法表別名希有也依瑜伽八十三解十號云一如來二應三正等覺四明行圓滿五善逝六世間解七無上丈夫調御士八天人師九佛十薄伽梵如來者初總序是下九號之總序也涅槃經云如過去諸佛所說經法六波羅蜜三十七品十一空等來至菩提故言如來且今釋迦如過去諸佛依諸教法修六度等行觀十一空等理來至菩提果故言如來即報身佛般若云如來者無所從來亦無所去故名如來即法身佛成實論云乘如實道來成正覺故名如來義雖略得非此宗義論云應正等覺謂永解脫一切煩惱障及所知障故阿羅漢者此正云應成唯識云應已永害煩惱賊應無分段生應受妙供養如前本論釋經有十五義是瑜伽及此經但取害煩惱賊名阿羅漢永斷所知障名為正等覺故瑜伽云阿羅漢是共德正等覺下是不共德舊云正遍知即正覺等覺正等覺如次簡外道小乘菩薩三種明行圓滿者即明行足明謂三明一宿住隨念智明二生死智明三漏盡智明行謂遮行行行行行清淨三業現行正命又四種增上心法現法樂住是住行此二是行行攝密護根門是遮行此二行及三明皆圓滿由此如來顯示三不護無忘失法由不造過得世間靜慮遮自苦行此中由不造過者三業清淨故即三不護密護根門故無忘失法得世間靜慮現法樂住遮自苦行也故言明行圓滿善逝者謂於長夜具一切種自利利他二功德故逝者往也謂成菩提已於生死長夜具一切種二利功德善事往矣故名善逝世間解者有情及器二世間中皆善通達故由悟入有情世間依前後際宿住生死智依一切時八萬四千方差別故即知三際衆生心行差別及善了知器世間等於東方等十方世界無邊成壞善了知故又於一切世間諸法自性因緣愛味過患出離能趣行等皆善知故謂知自性果也因緣因此此為總句餘四四諦如次配之無上丈夫調御士者舊云無上士調御丈夫智無等故無過上故名無上於現法中佛身具相好是大丈夫又多分調御無量丈夫最第一故極尊勝故由此後釋舊云無上士調御丈夫天人師者以彼天人解甚深義勤修正行有力能故餘趣不能故不稱師言佛陀者謂畢竟斷一切煩惱所知並習氣現等正覺證得無上正等覺故即具二智覺自他也薄伽梵者舊云世尊坦然安坐妙菩提座任運摧滅一切魔軍大勢力故即破四魔如佛地論頌自在熾盛與端嚴名稱吉祥及尊貴具足如是諸六義應知總名為薄伽薄伽者聲也梵謂具德若有為此薄伽聲自能破四魔必具六德一自在義永不繫屬諸煩惱故二熾盛熾炎猛智火所燒練故三端嚴義三十二相等所莊嚴故四名稱義佛之勝名無不知故五吉祥義恒起方便利有情故六尊貴義世出世間咸尊重故今名世尊闕前五義

(138) [87] Skt. 17.11-13; Tib. 17.12-14; Chin. 3c20-22.

(139) 690b7-c4: 【99】經 演說正法至梵行之相 贊曰下讀法勝妙希八十三云具十德也一初善謂聽聞時生歡喜故二中善謂修行時無有艱苦遠離二邊依中道行故三後善謂極究竟離諸垢故及一切究竟離欲為後邊故法性離垢故能學之者亦離垢故修行究竟得果離垢故智度論云讚布施為初善讚持戒為中善讚二果報生天淨土名後善復說聲聞獨覺大乘亦名三善寶篋經云知苦斷集初善修正道名中善證滅名後善是名聲聞初中後善若不捨菩提心不念下乘迴向一切智是名菩薩初中後善今依瑜伽為正四文巧此云其語巧妙謂善絹綴名身等故及八語具皆圓滿故五妙義此云其義深遠謂能引發利益安樂故六純一此云純一無雜謂不與一切外道共故唯佛法有外道所無七圓滿此云具足無限量故最尊勝故義豐且勝故名圓滿八清淨謂自性解脫故依一剎那自體解脫故或法自性解脫故九鮮白謂相續解脫故設多剎那亦解脫故或學之者亦解脫故十梵行謂八聖道支滅諸名梵道諸名行與滅為因此具八道名梵行相當知此道由純一等四種妙相所顯說故是梵行相此中第六純一無雜第七具足第八清第九白餘如文可解准義配同新經所說

(140) [88] Skt. 17.13-18.1; Tib. 17.14-18.1; Chin. 3c22-26.

- (141) 690c5-14: 【100】 經 爲求聲聞者至成一切種智 贊曰下讚生利益希有佛出世唯說一法或不說法今說三乘故名希有應音於興反又於證反應當應隨其機器說法契應根法相當故衆生根性有下中上總知四謚染淨因果由最劣故名得聲聞總知生死十二因緣因果次勝名得緣覺能行二利總別俱知脩行以六度究竟作佛名爲菩薩當成種智辟支迦佛陀者此云獨覺略云辟支佛
- (142) [89] Skt. 18.2-6; Tib. 18.2-6; Chin. 3c26-4a1.
漢文はこのセクションを2つに分けて(3c26-29, 29-4a1) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている([89] = 【101・102】)。
- (143) T. 1519, 4a29-b1: 現見勝妙因成就者示現諸佛及諸菩薩自受用故
T. 1520, 13c11-12: 現見勝妙因成就者以諸佛菩薩自受用示現故
- (144) 690c15-19: 【101】 經 次復有佛至姓頗羅墮 贊曰下第二顯後勝妙答論名現見勝妙因以諸佛菩薩自示現受用勝名姓等故名勝妙文有四妙此中有二一名同妙二姓同妙頗羅墮者婆羅門十八姓中之一姓也
690c20-22: 【102】 經 彌勒當知至初中後善 贊曰此有二妙一號同妙二法同妙略說三善貫餘七德
- (145) [90] Skt. 18.6-19.2; Tib. 18.6-19.2; Chin. 4a1-2.
- (146) T. 1519, 4b3-5: 現見受用大因成就者是時王子受勝妙樂各捨出家復彼大衆於爾許時心不疲倦故
T. 1520, 13c14-16: 現見受用大因成就者是時王子受勝妙樂各捨出家復彼大衆於爾許時不生疲倦心故
- (147) 690c23-691a14: 【103】 經 其最後佛至有八王子 贊曰下第三段委陳同事答有五因一受用大因二攝取諸佛轉法輪因三善堅實如來法輪因四能進入因五憶念因於中有二初一因佛在宣揚後四因滅後行化受用大因者論云是時王子受勝妙樂各捨出家復彼大衆於爾許時不生疲倦心故此解受用因中文之大意有二受用一在家受欲樂二出家受法樂此文有四一示相同今二唱滅異即三當成佛記四現入涅槃示相同今有六無初序分成就。餘六同此序品之事此下第一同今衆成第二是時日月燈明下同今時成第三說是下同今威儀成第四爾時如來放眉間下同今說因成第五彌勒當知爾時會中有二十億菩薩下同今欲聞成第六時有菩薩名曰妙光下同今答成同衆成中有二一在俗二出家有俗有三一標有子二列八名三明王化此初也法爾諸佛必先有子後方出家爲降世間受樂者故示現欲樂不可寶故顯佛能具丈夫德故
- (148) [91] Skt. 19.2-5; Tib. 19.2-4; Chin. 4a2-4.
- (149) 691a15-17: 【104】 經 一名有意至八名法意 贊曰此列八名分爲四雙一大智大悲雙二了有了空雙三進善破惡雙四達偽知真雙如次配之
- (150) [92] Skt. 19.5-7; Tib. 19.4-6; Chin. 4a4-5.
- (151) 691a18-b1: 【105】 經 是八王子至各領四天下 贊曰此明王化無一世界有二輪王如何今言各領四天下今解八子相繼統領非一時也然以義通劫滅佛興劫增輪王方出如何彼佛有子而作輪王此乃應紹輪帝王四天下如釋迦佛應爲金輪王非正已受劫漸滅故由此增至八萬歲僊佉方出第十劫初滅彌勒方出輪王命長故見彌勒或此報佛與化佛殊報佛未必於滅劫出故可有子得作輪王妙光化八子堅固菩提得入八地故知報佛亦爲菩薩先說無量義竟爲聲聞後說法華如鼓音王經阿彌陀佛有妻子故
- (152) [93] Skt. 19.7-10; Tib. 19.6-10; Chin. 4a5-8.

漢文はこのセクションを3つに分けて(4a5-7, 7, 7-8)注釈を行っているが、チベット語訳は引用文も1つにまとめている([93] = 【106・107・108】)。

(153) 691b2-b6: 【106】 經 是諸王子至亦隨出家 贊曰下明出家有三一形隨眞侶二行出塵中三得遇良緣堅修福慧此初也捨輪王位如富者脫屣趣出家如貧人得寶寬曠無依去羈網故

691b7-10: 【107】 經 發大乘意至皆爲法師 贊曰行出塵中也既發大心恒勤持戒能宣妙理皆爲法師發心者住定梵行者持戒法師者具慧三藏備矣

691b11-12: 【108】 經 已於千萬佛所殖諸善本 贊曰得遇良緣堅修福慧也

(154) [94] Skt. 19.11-12; Tib. 19.11-13; Chin. 4a8-9.

(155) 691b13-15: 【109】 經 是時日月至佛所護念 贊曰第二同時成也夫說法華必先說無量義故名時至示爲菩薩說也

(156) [95] Skt. 19.13-20.1; Tib. 19.13-15; Chin. 4a10-11.

(157) 691b16-18: 【110】 經 說是經已至身心不動 贊曰下第三同威儀成有三一佛入定二器世間三有情世間此初也

(158) [96] Skt. 20.1-4; Tib. 20.1-4; Chin. 4a11-13.

(159) 691b19: 【111】 經 是時天雨至六種震動 贊曰器世間也

(160) [97] Skt. 20.4-7; Tib. 20.4-8; Chin. 4a14-17.

(161) 691b20-21: 【112】 經 爾時會中至一心觀佛 贊曰有情世間也

(162) [98] Skt. 20.8-10; Tib. 20.8-10; Chin. 4a18-19.

(163) 691b22-24: 【113】 經 爾時如來至是諸佛土 贊曰第四同說因成有三一放光二照境三所見如今所見是諸佛土是也

(164) [99] Skt. 20.10-14; Tib. 20.10-13; Chin. 4a19-22.

漢文はこのセクションを2つに分けて(4a19-21, 21-22)注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている([99] = 【114・115】)。また、この引用の後半「樂欲聞法」における「聞」は、羅什訳では「聽」となっている。

(165) 691b25-c5: 【114】 經 彌勒當知至樂欲聞法 贊曰第五同欲聞成有二一樂欲聞法二欲知光緣此初也問何故釋迦放光現瑞四衆生疑樂欲聞法知光緣由燈明說法乃言菩薩與今不同答此依本位總名四衆彼說發心並名菩薩又此舉劣者但言四衆彼舉勝衆故言菩薩下頌中云爾時四部衆乃至是事何因緣故知影顯如經說八子以爲衆成舉勝者故又彼實是菩薩化言四衆報身化故此實是四衆化身化故

691c6-7: 【115】 經 是諸菩薩至所爲因緣 贊曰欲知光因緣推覓答者爲音通平去皆得

(166) この句に対応する漢文はなく、チベット語の翻訳を省略した理由を訳者が述べたものである。

(167) [100] Skt. 20.15-16; Tib. 20.14-15; Chin. 4a22-23.

(168) 691c8-10: 【116】 經 時有菩薩至八百弟子 贊曰第六同答成有四一傳燈眷屬二因說此經三時節短長四大衆安樂此初也

- (169) [101] Skt. 20.16-21.5; Tib. 20.15-21.4; Chin. 4a23-28.

漢文はこのセクションを3つに分けて(4a23-25, 25-27, 27-28)注釈を行っているが、チベット語訳は引用文も1つにまとめている([101] = 【117・118・119】)。

- (170) 691c11-25: 【117】經 是時日月燈明佛至佛所護念 贊曰第二因說此經釋迦說法華因彌勒等問文殊爲答燈明說法華因大衆樂欲妙光爲答故頌中言佛從三昧起讚妙光令喜即因妙光說法華經又釋迦今化四衆樂聞因鶩子方說燈明往化菩薩樂聞因妙光方說今佛從定起正告鶩子聲聞衆中隨深智慧與佛相應彼佛從定起正告妙光菩薩衆中隨深智慧與佛相應此爲聲聞彼爲菩薩其妙法蓮華亦名教菩薩法佛所護念與無量義經名字不殊但以體義利頓漸機所望有異報化事殊不名無量義如前已解然彼示現化諸聲聞亦無有失或說化身實化聲聞說餘勝事即說報佛亦無失也

691c26-692a1: 【118】經 六十小劫至謂如食頃 贊曰第三時節短長論解既以日月年等爲劫故名爲小不可別生分別但是佛觀根熟應物時長衆樂情深亦能久聽翫法樂之心極所以謂如食頃如俗觀荖斧何便闢

692a2-5: 【119】經 是時衆中至而生懈倦 贊曰第四大衆安樂法食資持禪悅生樂盡業縛之匱重何得生於懈倦焉懈懶倦疲也有作倦無所從

- (171) [102] Skt. 21.6-10; Tib. 21.5-10; Chin. 4a28-b2.

- (172) 692a6-12: 【120】經 日月燈明至無餘涅槃 贊曰上來合是示相同今此即第二唱滅異即佛之入滅不同二乘示現同之言入無餘所應化了故尋唱滅沙門息義以得法故暫爾寧息亦息惡也正言室羅磨拏或室摩那拏此云功勞謂修道有多功勞也婆羅門淨行義

- (173) [103] Skt. 21.11-12; Tib. 21.11-13; Chin. 4b2-3.

- (174) 692a13-15: 【121】經 時有菩薩至即授其記 贊曰第三當成佛記有二一標二記此初也含持衆善故名德藏

- (175) [104] Skt. 21.13-14; Tib. 21.13-14; Chin. 4b3-7.

漢文はこのセクションを3つに分けて(4b3-5, 5-6, 6-7)注釈を行っているが、チベット語訳には混乱があり、【123・124】の翻訳を欠いている。

- (176) 692a16-24: 【122】經 告諸比丘至三佛陀 贊曰此授記也多陀如義阿伽度來義阿羅訶應義三正義藐等義又三正義佛陀覺義即是如來應正等覺十號之中初三號也增一阿含云佛告比丘諸佛出世必爲五事一轉法輪二度父母三無信之人立於信地四未發菩薩意令發菩薩意五授當佛記此中亦爾其佛三號多分依斷恩智三德如次以明故不說餘

692a25-27: 【123】經 佛授記已至入無餘涅槃 贊曰第四現入涅槃何故入滅要於中夜於生死夜證寂靜故如涅槃經

692a28-b2: 【124】經 佛滅度後至爲人演說 贊曰上來合是受用大因佛在宣揚自下四因滅後行化即分爲四此即攝取諸佛轉法輪因論云法輪不斷故

- (177) [105] Skt. 21.15-18; Tib. 21.14-15; Chin. 4b7-9.

- (178) T. 1519, 4b10-11: 佛滅度後無量時說故

T. 1520, 14a3: 佛滅度後無量時說法故

- (179) 692b3-7: 【125】經 日月燈明佛八子至三菩提 贊曰第三善堅實如來法輪因也論云佛滅度後無量時說故教化之令其堅固即入八地堅固乃是不退義故不爾如何今已成佛或入初地得不壞信名堅固故
- (180) [106] Skt. 21.18-22.3; Tib. 21.16-22.2; Chin. 4b9-10.
- (181) 692b8-11: 【126】經 是諸王子至皆成佛道 贊曰第四能進入因論云彼諸王子得大菩提故供養者修財法行諸佛者所遇良緣要遇良緣深修妙行方成佛故
- (182) [107] Skt. 22.3-8; Tib. 22.3-7; Chin. 4b10-15.
漢文はこのセクションを3つに分けて (Chin. 4b10-11, 11-13, 13-15) 注釈を行っているが、チベット語訳は引用文も1つにまとめている ([107] = 【127・128・129】)。
- (183) 692b12-16: 【127】經 其最後成佛者名曰燃燈 贊曰第五憶念因論云爲他說法利益他故文分爲二一八子成佛二八百弟子成佛此初也理應此文屬前能進入因但以別明成佛者名故合入此
692b17-21: 【128】經 八百弟子至故號求名 贊曰下八百弟子成佛有二一染因二淨因此初也內妙業不純外多貪聲譽故號求名論云汝號求名示現知過去事故不爾便成指斥他失
692b22-25: 【129】經 是人亦以至尊重讚歎 贊曰此明淨因福慧雙植得遇良緣三業修習財法供養身恭敬意尊重語讚歎論云種諸善根。復示現得彼法具足故
- (184) [108] Skt. 22.8-11; Tib. 22.7-9; Chin. 4b15-16.
- (185) 692b26-29: 【130】經 彌勒當知至汝身是也 贊曰上委陳同事答下明古今相即答自身所逕事因也論云以文殊自身受勝妙樂故此中有二一即人二即法此初也
- (186) [109] Skt. 22.11-16; Tib. 22.9-13; Chin. 4b16-18.
- (187) 692c1-2: 【131】經 今見此瑞至佛所護念 贊曰此即法總結答也
- (188) [110] Skt. 23.1-3; Tib. 23.1-2; Chin. 4b18-24.
- (189) 692c3-12: 【132】經 爾時文殊師利至令入佛智慧 贊曰下有四十三頌頌前指陳別事古今相即不頌初二因後有二頌不入答中第三語衆勸知非頌前義由此還分爲二初四十頌頌指陳別事後三頌頌古今相即長行指陳別事有七因分三今不頌次復有佛等勝妙因故頌六因但分爲二初二頌頌讚揚希有後三十八頌頌委陳同事讚揚希有中此亦有四初二句頌時次二句頌名次一句頌法後三句頌生利益
- (190) [111] Skt. 23.4-8; Tib. 23.3-7; Chin. 4b25-26.
- (191) 692c13-22: 【133】經 佛未出家時至亦隨修梵行 贊曰下三十八頌委陳同事中五因分二初二十九頌頌受用大因佛在宣揚後九頌頌餘四因滅後行化初中分四初二十頌半頌示相同今次四頌頌唱滅異即次二頌半頌當成佛記後二頌頌現入涅槃初二十半示相同今中有六初一衆成次一時成次二頌半威儀成次十頌半說因成次一頌半欲聞成後四頌答成此初也上二句頌在俗後二句頌出家
- (192) [112] Skt. 23.9-10; Tib. 23.8-9; Chin. 4b27-28.
- (193) 692c23-24: 【134】經 時佛說大乘至而爲廣分別 贊曰第二時成
- (194) [113] Skt. 23.11-12; Tib. 23.10-11; Chin. 4b29-c1.

- (195) 692c25-27: 【135】 經 佛說此經已至經名無量義 贊曰下第三有二頌半威儀成中有二一頌入定一頌半器及有情世間此初也
- (196) [114] Skt. 23.13-15; Tib. 23.12-14; Chin. 4c2-4.
- (197) 692c28-693a5: 【136】 經 天雨曼陀羅至即時大震動 贊曰器及衆生世間也此中合有五入定雨華作樂供養地動與長行前後有無廣略不同一切諸佛土即時大震動者亦唯日月燈明佛國震動非十方界前云而此世界六振動故今此燈明佛國一切皆動化身報身下位非一可言諸佛
- (198) [115] Skt. 23.15-24.2; Tib. 23.14-24.2; Chin. 4c5-6.
- (199) 693a6-8: 【137】 經 佛放眉間光至萬八千佛土 贊曰下十頌半説因成有三二句放光二句照境九頌半如今所見是諸佛土此初二也
- (200) [116] Skt. 24.2; Tib. 24.2; Chin. 4c7.
- (201) 693a9-15: 【138】 經 示一切衆生生死業報處 贊曰下九頌半如今所見中有五初半頌六趣衆生三頌見佛一頌聞法一頌見四衆四頌見菩薩不頌入滅起塔此初也處謂所趣報是業因所歸處故或處謂道理善因感善果惡因感惡果有是理故或處謂處所受善惡果之處所也
- (202) [117] Skt. 24.3-4; Tib. 24.3-4; Chin. 4c8-9.
- (203) 693a16-25: 【139】 經 有見諸佛土至斯由佛光照 贊曰下三頌見佛分三一見淨土一見供養一正見佛此初也釋迦光照皆如金色日月燈明琉璃頗梨色者欲顯大乘純一可重故唯金色衆德圓備故種種色互影彰故梵云吠琉璃略云琉璃有種種色頗胝迦云水精亦云水玉或云白珠訛云頗梨梨力私反智度論云出山石窟中過千年氷化爲頗梨西方暑熱土地無氷何物化焉此但石類處處皆有
- (204) [118] Skt. 24.5-6; Tib. 24.5-6; Chin. 4c10-13.
- (205) 693a26-27: 【140】 經 及見諸天人至端嚴甚微妙 贊曰此二頌中初見八部供養後見佛也
- (206) [119] Skt. 24.7-8; Tib. 24.7-8; Chin. 4c14-15.
- (207) 693a28-b1: 【141】 經 如淨琉璃中至敷演深法義 贊曰此聞法也佛放光自映或衆映佛此方遙見如琉璃中現金像說法也
- (208) [120] Skt. 24.9-25.2; Tib. 24.9-25.2; Chin. 4c16-28.
- 漢文このセクションを3つに分けて (Chin. 4c16-17, 18-25, 26-28) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([120] = 【142・143・144】)。
- (209) 漢文は、六波羅蜜の各項目をあげるのに対して、チベット語訳は「波羅蜜」の語でまとめている。
- (210) 693b2-3: 【142】 經 一一諸佛土至悉見彼大衆 贊曰此見四衆
- 693b4-10: 【143】 經 或有諸比丘至說法求佛道 贊曰此四頌見菩薩種種因緣信解相貌行菩薩道唯頌信解亂修行故一頌勤戒欲顯在家出家並得行菩薩行故言比丘或稱菩薩精進遍策戒是學本故初舉之一頌施忍言等者施忍非一類有多故一頌禪定一頌智慧
- 693b11-14: 【144】 經 爾時四部衆至是事何因緣 贊曰下一頌半頌第五欲聞成也長行云二十億菩薩樂欲聞法此言四部互相顯故前據發心此未發故

- (211) [121] Skt. 25.3-6; Tib. 25.3-6; Chin. 4c29-5a3.
- (212) 693b15-20: 【145】經 天人所奉尊至唯汝能證知 贊曰下四頌第六答成長行有四此文有二初二頌因說此經後二頌時節短長略無傳燈眷屬大眾安樂此初也適近也始也緣從定起能引衆生至菩提位出世智慧照達眞俗名世間眼
- (213) [122] Skt. 25.7-26.11; Tib. 25.7-26.11; Chin. 5a4-26.
漢文はこのセクションを8つに分けて (Chin. 5a4-7, 8-11, 12-13, 14-15, 16-17, 18-20, 21-24, 25-26) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([122] = 【146・147・148・149・150・151・152・153】)。
- (214) 693b21-22: 【146】經 世尊既讚歎至悉皆能受持 贊曰時節短長也
693b23-26: 【147】經 佛說是法華至當入於涅槃 贊曰上頌示相同今下四頌頌第二唱滅異即分三二頌唱滅。一頌誠勸所化一頌大眾悲惱此初也化緣既終便唱今滅
693b27-c2: 【148】經 汝一心精進至億劫時一遇 贊曰此誠勸所化精進爲出世之根放逸爲生死之本理須修斷況乎諸佛億劫方遇今既得遇而不修斷者哉故經云諸佛出現樂演說正法樂僧衆和合樂同修勇進樂
693c3-4: 【149】經 世尊諸子等至佛滅一何速 贊曰大眾悲惱也世間空虛衆生福盡故生悲惱
693c5-8: 【150】經 聖主法之王至汝等勿憂怖 贊曰下二頌半第三當成佛記有二一頌勸勿生憂有當來佛可依投故示同入滅實常樂故後一頌半正明授記此初也
693c9-10: 【151】經 是德藏菩薩至亦度無量衆 贊曰此授記也
693c11-13: 【152】經 佛此夜滅度至以求無上道 贊曰第四二頌現入涅槃中初一頌現入涅槃後一頌見失良醫精勤慕道
693c14-19: 【153】經 是妙光法師至廣宣法華經 贊曰上二十九頌頌受用大因佛在宣揚下有九頌頌餘四因滅後行化分四初一頌攝取諸佛轉法輪因次一頌善堅實如來法輪因次一頌能進入因後六頌憶念因此初也
- (215) [123] Skt. 26.13-27.1; Tib. 26.13-27.1; Chin. 5a27-28.
- (216) 693c20-694a5: 【154】經 是諸八王子至當見無數佛 贊曰此第二善堅實如來法輪因若依小乘於三無數劫逆次逢勝觀燃燈寶髻佛初釋迦牟尼初劫初逢釋迦牟尼佛更逢七萬五千佛第二劫初逢寶髻佛更逢七萬六千佛第三劫初逢燃燈佛更逢七萬七千佛第三劫滿百劫修相好業初逢勝觀佛即毘婆尸由翹足讚歎底沙超於九劫所以經中往往言過去九十一劫有毘婆尸佛若依大乘第四依菩薩供養八恒河沙諸佛始今解涅槃十六分義古來配在第十地中今亦未定只言八恒河沙何必即是第十地也眞諦釋言初劫遇五恒第二劫逢六恒第三劫逢七恒河沙佛所以今言得入八地仍言當見無數諸佛
- (217) [124] Skt. 27.1-3; Tib. 27.1-3; Chin. 5a29-b1.
- (218) 694a6-7: 【155】經 供養諸佛已至轉次而授記 贊曰此第三能進入因後得作佛故
- (219) [125] Skt. 27.4-5; Tib. 27.4-5; Chin. 5b2-3.
- (220) 694a8-10: 【156】經 最後天中天至度脫無量衆 贊曰此第四後有六頌憶念因分二初一頌憶八子後五頌憶八百弟子此初也

(221) [126] Skt. 27.6-10; Tib. 27.6-10; Chin. 5b4-8.

(222) 694a11-19: 【157】經 是妙光法師至號之爲求名 贊曰下五頌憶八百弟子分二初二頌半憶染因後二頌半憶淨因此初也寶族姓以爲貴愛利譽以爲先所習多廢故號求名具六失故如文可知解音古隘反懶也倦也怠音徒亥反亦懈也疲也或作駘亦疲也慢也墮也第二貪著已得利名第三更求未得名利族云類也周禮四閭爲族鄭玄百家也

(223) [127] Skt. 27.11-15; Tib. 27.11-15; Chin. 5b9-13.

(224) 694a20-22: 【158】經 亦行衆善業至其數無有量 贊曰頌淨因有二初五句憶淨五因後五句憶淨二果

(225) [128] Skt. 28.1-2; Tib. 28.1-2; Chin. 5b14-17.

漢文はこのセクションを2つに分けて (Chin. 5b14-15, 16-17) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([128] = 【159・160】)。

(226) 694a23-26: 【159】經 彼佛滅度後至今則我身是 贊曰上四十頌頌指陳別事下三頌頌古今相即有三初一頌即人次一頌即法後一頌結成此初也

694a27-28: 【160】經 我見燈明佛至欲說法華經 贊曰此即法

(227) Tib.: byang chub gang 'dir zhugs; SDP: byang chub sems dpa' byang chub 'dir zhugs pa.

(228) [129] Skt. 28.3-12; Tib. 28.3-12; Chin. 5b18-23.

漢文はこのセクションを3つに分けて (Chin. 5b18-19, 20-21, 22-23) 注釈を行っているが、チベット語訳は1つにまとめている ([129] = 【161・162・163】)。また、【162】の引用文の後半の「求佛道」は、羅什訳では「求道者」となっている。

(229) 694a29-b3: 【161】經 今相如本瑞至助發實相義 贊曰此結成也放光警覺有緣皆集衆見此已深生渴仰起此神變表法非虛顯證深密故名放光助實相義

694b4-8: 【162】經 諸人今當知至充足求佛道 贊曰上四十三頌頌長行下之二頌大文第三語衆勸知陳佛今說有二初一頌明佛說法雨道芽生令進善也後一頌明佛說法令求道者疑惑皆除斷滅衆惡此初也

694b9-10: 【163】經 諸求三乘人至令盡無有餘 贊曰此斷疑也此後二頌雨大法雨說大法也

(230) 694b11: 妙法蓮華經玄贊卷第二

(本研究は科学研究費補助金基盤研究 (C) (課題番号16K02161) による成果の一部である)

〈付録〉「漢文テキスト『序品』の科文〔2〕

支賛(T34)	經	妙法華(T9)	科文	名目(英数字は偈頌数)	經論章疏(重複を除く)等の引用・言及
677a5	[040]		6-F-1-5	衆成就中文段為二	
			6-F-1-5-1	上來列衆	
			6-F-1-5-2	此明仏所威儀	
677a6			6-E-2	論解衆成就中有四	[法華]論
			6-E-2-1…3	上已解三	
677a7			6-E-2-4	此為第四	[法華論](2c8f)
677a7		2b7	6-F-1-5-2-1	「四衆」	
			6-F-1-5-2-1-1	古云	法華義疏(有人言)
			6-F-1-5-2-1-2	顓師云	妙法蓮華經文句
677a13		2b13	6-F-1-5-2-1-3	「比丘,比丘尼,優婆塞,優婆夷」	此後文(法華經)
677a14-17		2b7	6-F-1-5-2-2	「圍,繞,供,養,恭,敬,尊,重,讚,歎」	
677a17			6-E-2-4-1	論解有四(衆圍繞,前後,供養恭敬,尊重讚歎)	[法華]論
677a18			6-E-2-4-1-1	前後	[法華]論,[法華]經
			[6-F-2]	[後五別序(6-E-3…-7)]	
661c15, 677a25	[041]	2b7-9	6-E-3	第三如來欲說法時至成就(略有三義)	
677a26			6-E-3-1	一依人	
			6-E-3-1-1	先為菩薩說大乘經名無量義	
			6-E-3-1-2	後為聲聞方說一乘	
677a28			6-E-3-2	二依利	
			6-E-3-2-1	先以一乘利他教理化根熟菩薩	
			6-E-3-2-2	後以一乘自利行果方化初根迴心聲聞	
677b1			6-E-3-3	三依法	
			6-E-3-3-1	先談法体	
			6-E-3-3-2	後談功能	
677b1			6-E-3-4	時至	法華[經],無量義[經]
677b2		2b8	6-E-3-A	「大乘經」(此是通句)	
677b3			6-E-3-A-1	十二門論六義名大乘	十二門論
677b6			6-E-3-A-2	摂大乘	無性摂大乘論釈
677b8			6-E-3-A-3	無著金剛般若論說七種大…義与対法第十一同…与勝鬘同	金剛般若論,対法(無性摂大乘論釈),勝鬘經
677b23		2b8-9	6-E-3-B	「名無量義」等三句(余是別句)	
677b24-25			6-E-3-B-1	正法華中唯有二句	正法華[經]
677b25			6-E-3-B-2	論牒經有十七名	[法華]論
677b25			6-E-3-B-2-0	正合論文	[法華]論
677c1			6-E-3-B-2-1	一無量義	[法華]論,無量義經
677c20			6-E-3-B-2-2	二最勝經典	
677c21			6-E-3-B-2-3	三大乘方広	
677c23			6-E-3-B-2-4	四教菩薩法	
677c24			6-E-3-B-2-5	五仏所護念	
677c25			6-E-3-B-2-6	六諸仏秘法	
677c26			6-E-3-B-2-7	七諸仏徳藏	
677c27			6-E-3-B-2-8	八諸仏密処	
677c29			6-E-3-B-2-9	九能生諸仏	
678a1			6-E-3-B-2-10	十諸仏道場	
678a2			6-E-3-B-2-11	十一諸仏法輪	
678a3			6-E-3-B-2-12	十二堅固舍利	
678a4			6-E-3-B-2-13	十三善巧方便	
678a7			6-E-3-B-2-14	十四宣說一乘	
678a8			6-E-3-B-2-15	十五第一義処	
678a10			6-E-3-B-2-16	十六妙法蓮華(論有二釈)	[法華]論
678a11			6-E-3-B-2-16-1	一出水義(出水有二義)	
678a13			6-E-3-B-2-16-1-1	一出水義	
678a16			6-E-3-B-2-16-1-2	二復有義	
678a24			6-E-3-B-2-16-2	二華開義	
678a26			6-E-3-B-2-17	十七最上法門	[法華]論
678b6		2b8-9	6-E-3-B-3	此經但有三	
			6-E-3-B-3-1	一無量義	
			6-E-3-B-3-2	二教菩薩法	
			6-E-3-B-3-3	三仏所護念	
678b8			6-E-3-C	問答(有五解)	無量義經,妙法蓮華[經]
678b11			6-E-3-C-1	一	彼經(無量義經),此經(妙法蓮華經)
678b21			6-E-3-C-2	二	無量義經,妙法蓮華[經]
678b26			6-E-3-C-3	三	法華[經]
678b28			6-E-3-C-4	四	下經(法華經譬喻品),[法華]論,勝鬘[經]
678c10			6-E-3-C-5	五	此經(法華經),無量義經,[法華]論

661c17, 678c22	[042]	2b9-10	6-E-4	第四所依說法隨順威儀住成就	無量義經, 般若[經]
678c23			6-E-4-A	住	[法華論], 無量義經, 般若[經]
678c28		2b9	6-E-4-B	「坐」有二相	
			6-E-4-B-1	一降伏坐	
			6-E-4-B-2	二吉祥坐	
679a1		2b9	6-E-4-C	「加」	
679a2			6-E-4-0	此明依止安處…今依三種軌儀	[法華論]
			6-E-4-1	一依三昧成就	
			6-E-4-2	二依器世間	
			6-E-4-3	三依衆生世間	
679a7		2b10	6-E-4-E	梵云三摩地(「三昧」)	
679a10		2b10	6-E-4-F	「處」	
679a10		2b9-10	6-E-4-G	「無量義」	
679a12			6-E-4-1	論解一依三昧成就有二義	[法華]論
679a12			6-E-4-1-1	一者成就自在力身心不動故	
679a16			6-E-4-1-2	二者離一切障礙自在力故	
679a19			6-E-4-1-1-0	論次別積前自在力有二	[法華]論
679a20			6-E-4-1-1-1	一隨順衆生不見對治損取覺菩提分法故	
679a24			6-E-4-1-1-2	二為對治無始世來堅執煩惱故	
679a25			6-E-4-1-1-2-1	堅執煩惱	[法華論]
679a29			6-E-4-1-3	論又解云	[法華]論
679b3			6-E-4-H	問答1(有十義)	
679b15			6-E-4-I	問答2(何因不入法華三昧)	般若[經], 能斷經, 法華[經], 無量義經
679b29	[043]	2b10-12	6-E-4-2	器世間(有二)	
679c1			6-E-4-2-1	一雨華	
679c1		2b11	6-E-4-2-1-1	「曼陀羅」	
679c2		2b11	6-E-4-2-1-2	「曼殊沙」	
679c4		2b11	6-E-4-2-1-3	「摩訶」	
679c4			6-E-4-2-1-4	四華	新翻經
679c6		2b10	6-E-4-2-1-5	「天雨」	有云
679c7			6-E-4-2-1-6	華有五德	
679c7			6-E-4-2-1-6-1	一掩蔽臭惡	
679c8			6-E-4-2-1-6-2	二嚴淨国土	下經(法華經序品)
679c9			6-E-4-2-1-6-3	三敷采見台	
679c10			6-E-4-2-1-6-4	四華後菓結	
679c11			6-E-4-2-1-6-5	五香氣遠勝聞者歡悅	
679c12			6-E-4-2-1-7	唯雨此華非余華者	此經(法華經)
679c14			6-E-4-2-1-8	又將開一乘…為權迹故	
679c15			6-E-4-2-1-9	雨四華…衆衆當亦成四	
679c22	[044]	2b12	6-E-4-2-2	二動地[「處」]	
679c23		2b12	6-E-4-2-2-1	「普弘世界[皆動]」	下頌(法華經序品)
679c28		2b12	6-E-4-2-2-2	「震」	
679c29			6-E-4-2-2-3	六動有三	
			6-E-4-2-2-3-1	一六時動	長阿含[經]
			6-E-4-2-2-3-2	二六方動	大般若經
			6-E-4-2-2-3-3	三六相動	大般若[經], 旧云(法華義疏)
680a9			6-E-4-2-2-3-A	此各有三名十八相動	般若經
680a14			6-E-4-2-2-4	勝思惟梵天經說有七因	勝思惟梵天經
680a19	[045]	2b12-16	6-E-4-3	衆生世間(有四)	
			6-E-4-3-1	一四衆	
			6-E-4-3-2	二八部	
			6-E-4-3-3	三二王	
			6-E-4-3-4	後結歡喜	
680a21		2b13	6-E-4-3-A	梵云鄒波索迦, 鄒波斯迦(「優婆塞, 優婆夷」)	
680a25		2b13-14	6-E-4-3-B	「夜叉」	
680a28		2b14	6-E-4-3-C	梵云莫呼洛伽(「摩睺羅伽」)	
680b1		2b15	6-E-4-3-D	「転輪聖王」有四	仁王經, 十地經, 正法念經, 瑜伽[師地論]
680b8		2b15-16	6-E-4-3-E	「得未曾有, 歡喜合掌, 一心, 觀仏」	
661c19, 680b11	[046]	2b16-17	6-E-5	第五依止說因成就	
680b12			6-E-5-A	論有二釈	[法華]論
680b12			6-E-5-A-1	一云彼諸大衆…種種事故	
680b21			6-E-5-A-2	二云先示現…深密法故	
680b28			6-E-5-0	此中有三	
680b28			6-E-5-1	一放光	
680b29		2b16	6-E-5-1-1	「眉」	
680b29		2b16	6-E-5-1-2	「間」	

680c1		2b16	6-E-5-1-3	「白」	
680c1		2b17	6-E-5-1-4	「豪」	観仏三昧海経
680c7		2b17	6-E-5-1-5	「光」有七義	涅槃[経], 上生[経]
680c14			6-E-5-1-6	神境智通有十八變	
680c19			6-E-5-1-7	變	法華経神力品
680c23	[047]	2b17-18	6-E-5-2	二照境	
680c24		2b17	6-E-5-2-1	唯「照東方」	法華経, [華嚴経], 正法華[経]
680c29		2b17	6-E-5-2-2	「萬, 八」	此経(法華経)
681a5		2b18	6-E-5-2-3	「下照地獄, 上至天」	
681a8		2b18	6-E-5-2-4	梵云阿鼻至	
681a10		2b18	6-E-5-2-5	梵云捺落迦	
681a12		2b18	6-E-5-2-6	梵云迦泥瑟締	
681a15		2b17	6-E-5-2-7	「靡」	
681a20	[048]	2b18-19	6-E-5-3	三所見[照](有七)	
			6-E-5-3-1	一六趣	
			6-E-5-3-2	二仏	
			6-E-5-3-3	三法	
			6-E-5-3-4	四四衆	
			6-E-5-3-5	五菩薩	
			6-E-5-3-6	六入涅槃	
			6-E-5-3-7	七起塔	
681a22			6-E-5-3-A	此七分三	
681a24		2b19	6-E-5-3-A-1	一觀生死沈淪([1]「六趣衆生」以六門分別)	
681a26			6-E-5-3-A-1-1	一衆名	
681a28			6-E-5-3-A-1-1-1	天	地持[経], 俱舍[論]
681a29			6-E-5-3-A-1-1-2	人	涅槃経, 雜心(雜阿毘曇心論)
681b1			6-E-5-3-A-1-1-3	餓鬼	雜心[論]
681b3			6-E-5-3-A-1-1-4	畜生	俱舍[論]
681b5			6-E-5-3-A-1-1-5	梵云捺落迦	地持[経], 雜心[論]
681b9			6-E-5-3-A-1-1-6	梵云阿素落	
681b10			6-E-5-3-A-1-2	二出体	唯識(成唯識論)
681b14			6-E-5-3-A-1-3	三開合	
			6-E-5-3-A-1-3-1	六趣總為一	
			6-E-5-3-A-1-3-2	次開為二	
			6-E-5-3-A-1-3-3	或開為三	
			6-E-5-3-A-1-3-4	或開為四	
			6-E-5-3-A-1-3-5	或開為五	
			6-E-5-3-A-1-3-6	或開為六	雜心[論], 瑜伽[師地論], 仏地[経], 正法念経, [仏説六道]伽陀経
			6-E-5-3-A-1-3-7	或開為七	
			6-E-5-3-A-1-3-8	或開為九	
			6-E-5-3-A-1-3-9	或開為二十五有	第二卷経火宅[法華経譬喻品], 瑜伽[師地論], 正法念経
			6-E-5-3-A-1-4	四処所(名目のみ)	
			6-E-5-3-A-1-5	五寿命(名目のみ)	
			6-E-5-3-A-1-6	六因果相(名目のみ)	
681c3	[049]	2b19-21	6-E-5-3-A-2	二觀三宝出現(有三)	
			6-E-5-3-A-2-1	一[2]仏	
			6-E-5-3-A-2-2	二[3]法	
			6-E-5-3-A-2-3	三僧(有二)	
			6-E-5-3-A-2-3-1	一声聞(此声聞中有其[4]四衆)	[法華]論
681c9	[050]	2b21-23	6-E-5-3-A-2-3-2	二[5]菩薩	
681c10		2b22	6-E-5-3-A-2-3-2-1	「因縁」	
681c14		2b22	6-E-5-3-A-2-3-2-2	「信解」	
681c15		2b22	6-E-5-3-A-2-3-2-3	「相貌」	
681c21		2b22-23	6-E-5-3-A-2-3-2-4	「行菩薩道」	[法華]論
681c23			6-E-5-3-A-2-3-2-5	四攝法者	[法華]論
681c24			6-E-5-3-A-2-3-2-5-1	一布施	
681c24			6-E-5-3-A-2-3-2-5-2	二愛語	
682a3			6-E-5-3-A-2-3-2-5-3	三利行	
682a12			6-E-5-3-A-2-3-2-5-4	四同事	無垢称疏(般若波羅蜜多心経幽贊の誤りか)
682a20	[051]	2b23-24	6-E-5-3-A-3	三觀滅後行化(有二)	
682a21			6-E-5-3-A-3-1	一[6]入滅	
682a21		2b23	6-E-5-3-A-3-1-A	梵云波利泥縛論(「涅槃」)	
682a23			6-E-5-3-A-3-1-B	涅槃以六門分別	
			6-E-5-3-A-3-1-B-1	一体	
			6-E-5-3-A-3-1-B-2	二名	
			6-E-5-3-A-3-1-B-3	三得時	

			6-E-5-3-A-3-1-B-4	四得人	
			6-E-5-3-A-3-1-B-5	五能障	
			6-E-5-3-A-3-1-B-6	六人意	
682a24			6-E-5-3-A-3-1-B-1-1	体者涅槃有四	
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-1-1	一自性清淨涅槃	
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-1-2	二有余依涅槃	
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-1-3	三無余依涅槃	
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-1-4	四無住處涅槃	
682a26			6-E-5-3-A-3-1-B-1-2	有三	
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-2-1	一總四之体皆一真如(般若)	大智度論, 華嚴[經]
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-2-2	二出所知障名為法身	勝鬘[經]
			6-E-5-3-A-3-1-B-1-2-3	三衆苦都尽離二死故名為解脫	涅槃經
682b9			6-E-5-3-A-3-1-B-1-3	大涅槃要三事具足	
682b12			6-E-5-3-A-3-1-B-1-4	体如伊字三点	
682b23			6-E-5-3-A-3-1-B-2-1	釈名等義	唯識第十卷抄(成唯識論述記のことか)
			6-E-5-3-A-3-2	二[7]起塔	
682b27		2b24	6-E-5-3-A-3-2-1	梵云設利羅(「舍利」)	
			6-E-5-3-A-3-2-2	摩訶波(「塔」)	
682b29			6-E-5-3-B	又論本科照境已下文	[法華]論
682b29			6-E-5-3-B-1	依器世間者傍照萬八千堅朗下二界是	
682c1			6-E-5-3-B-2	衆生世間者所見[1]六趣衆生是	
682c2			6-E-5-3-B-3	數種種者…即余五所見[2…6]…事故	
682c4			6-E-5-3-B-3-0	論開為四	[法華]論
			6-E-5-3-B-3-1	一食(謂所見[2]仏寶長義)	
			6-E-5-3-B-3-2	二[3]聞法	
			6-E-5-3-B-3-3	三修行(謂[4]四衆…及[5]菩薩…)	
			6-E-5-3-B-3-4	四衆(謂所見[6]入滅)	
682c11			6-E-5-3-B-3-4-A	又衆有五	
			6-E-5-3-B-3-4-A-1	一自性衆	
			6-E-5-3-B-3-4-A-2	二因衆	
			6-E-5-3-B-3-4-A-3	三苦對治衆	
			6-E-5-3-B-3-4-A-4	四受斷衆	
682c13			6-E-5-3-B-3-4-A-5	五無惱害衆	
			6-E-5-3-B-3-4-B	此復有四	
			6-E-5-3-B-3-4-B-1	一出離	
			6-E-5-3-B-3-4-B-2	二遠離	
			6-E-5-3-B-3-4-B-3	三寂靜	
			6-E-5-3-B-3-4-B-4	四覺法	
682c14			6-E-5-3-B-3-4	此人涅槃是後四中寂靜衆也	
682c15			6-E-5-3-B-4	示現種種觀者([7]起七宝塔)	
682c18			6-E-5-3-C	又重科所見七事	
683a3				妙法蓮華經玄贊卷第二(末)	
6 6 1 c 2 1 . 683a5	[052]	2b24-26	6-E-6	第六大段大衆現前欲聞法成就文段有三	
683a15			6-E-6-1	初弥勒示相懷疑(初中有四)	
			6-E-6-1-1	一摩竭因	
683a17		2b25-26	6-E-6-1-1-1	「神、變、瑞」	
683a20	[053]	2b26-27	6-E-6-1-2	二拏奇詢答	
683a21		2b26	6-E-6-1-2-1	「入三昧、不可思議」	
683a22		2b26-27	6-E-6-1-2-2	「現希有事」	
683a25		2b27	6-E-6-1-2-3	「誰能答者」	
683a26	[054]	2b27-29	6-E-6-1-3	三推功上德	
683a27		2b29	6-E-6-1-3-1	「我今當問」	
683a27		2b28	6-E-6-1-3-2	「文殊師利、法王子」	
683a29		2b28	6-E-6-1-3-3	「已曾親近」	
683a29		2b28-29	6-E-6-1-3-4	「供養諸仏」	
683b3			6-E-6-1-4	四謙己方陳	
683b4			6-E-6-1-4-1	論云問於一人…皆不相違	[法華]論(3b23-26)
683b8			6-E-6-1-4-2	為現大相因故者	[法華論](3b26-29)
683b11			6-E-6-1-4-3	何故唯問文殊不問余人(有二)	[法華論](3b29-c3)
683b16			6-E-6-1-4-4	示現種種瑞相者	[法華論](3c3-4)
683b17			6-E-6-1-4-5	所見六趣衆生…皆名現住	
683b23			6-E-6-1-4-6	論以文殊能記彼事…外德滿故	[法華]論(3c4-8)
683b27			6-E-6-1-4-7	重復釈言	
683c2	[055]	2b29-c3	6-E-6-2	次衆人實生心惑	
683c3		2c2	6-E-6-2-1	「是仏光明、神通之相」	
683c9	[056]	2c3-5	6-E-6-3	[第三段]後慈氏双申兩意發問先因(有二)	
			6-E-6-3-1	初長行(長行有二)	

			6-E-6-3-1-1	初及申両意	
683c12	【057】	2c5-7	6-E-6-3-1-2	後発問先因	
683c13		2c5-6	6-E-6-3-1-2-1	「而有此瑞」	
683c13		2c6	6-E-6-3-1-2-2	「神通相」	
683c14		2c6	6-E-6-3-1-2-3	「放光明」等	
683c17		2c7	6-E-6-3-1-2-4	「悉見彼仏国界莊嚴」	
683c17			6-E-6-3-1-2-4-1	論総解経意	[法華]論(3c10-16)
683 c 24			6-E-6-3-1-2-5	凡説重頌有十所由	
684a2			6-E-6-3-1-2-6	長行与頌六義不同	
			6-E-6-3-1-2-6-1	広略	
			6-E-6-3-1-2-6-2	有無	
			6-E-6-3-1-2-6-3	合離	
			6-E-6-3-1-2-6-4	前後	
			6-E-6-3-1-2-6-5	文質	
			6-E-6-3-1-2-6-6	隠顯	
684a5	【058】	2c7-10	6-E-6-3-2	後重頌(凡有六十二頌分之為二)62	
		2c8	6-E-6-3-2-A	梵云伽陀(「偈」)	
			6-E-6-3-2-1	初五十四頌前瑞相(初中復三)54	
684a13			6-E-6-3-2-1-1	初一頌前説因中放光能照(1)	
			6-E-6-3-2-1-1-1	先頌放光	
			6-E-6-3-2-1-1-2	後頌雨華	
684a18	【059】	2c10-12	6-E-6-3-2-1-2	次三頌前威儀中雨華動地等(三事)(3)	
			6-E-6-3-2-1-2-1	一頌半雨華(1.5)	
684a24	【060】	2c12-14	6-E-6-3-2-1-2-2	半頌動地(0.5)	
			6-E-6-3-2-1-2-3	一頌四衆歡喜(1)	
684a26	【061】	2c14-16	6-E-6-3-2-1-3	後五十頌頌説因中照境所見分齊為二50	
			6-E-6-3-2-1-3-1	初一頌半頌照境(此頌器世間)(1.5)	
684a29		2c15	6-E-6-3-2-1-3-1-1	「皆如金色」	
684b5	【062】	2c16-18	6-E-6-3-2-1-3-2	後四十八頌半頌所見(六事前七事中不頌入滅文分為六)(48.5)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-1	初一頌半頌六趣衆生(即衆生世間中具足煩惱差別)(1.5)	
684b10		2c17	6-E-6-3-2-1-3-2-1-1	「生死」	
684b11		2c17	6-E-6-3-2-1-3-2-1-2	「所趣」	
684b13		2c17	6-E-6-3-2-1-3-2-1-3	「受報好醜」	
684b14		2c17	6-E-6-3-2-1-3-2-1-4	「善惡業緣」	
684b19		2c18	6-E-6-3-2-1-3-2-1-5	「於此悉見」	有頌(發智論と婆沙論に同文あり), [法華]論
684b25	【063】	2c18	6-E-6-3-2-1-3-2-2	次半頌頌見仏(0.5)	
684b26		2c18	6-E-6-3-2-1-3-2-2-1	「師子、聖主、諸仏」	
684b29	【064】	2c19-23	6-E-6-3-2-1-3-2-3	次六頌半頌開法(分二)(6.5)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-3-1	初三頌半頌開四弁(3.5)	
684c4			6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-1	初半開義無礙(0.5)	
		2c19	6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-1-1	「微妙、第一」	
684c5			6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-2	一頌開法無礙(1)	
		2c19-20	6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-2-1	「清淨、柔軟」	
684c6			6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-3	一頌開詞無礙(1)	
		2c21	6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-3-1	「深妙、衆聞、各於世界」	
684c7			6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-4	一頌開弁才無礙(1)	
		2c22	6-E-6-3-2-1-3-2-3-1-4-1	「種種因緣、以無量喻」	
684c11	【065】	2c23-3a4	6-E-6-3-2-1-3-2-3-2	後三頌開三衆(3)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-3-2-1	声聞(1)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-3-2-2	独覺(1)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-3-2-3	菩薩(1)	
684c12		3a1	6-E-6-3-2-1-3-2-3-2-A	「厭」	
684c15	【066】	3a4-6	6-E-6-3-2-1-3-2-4	次一頌半頌四衆(1.5)	
		3a5	6-E-6-3-2-1-3-2-4-1	「見聞若斯、及千億事」	
684c21	【067】	3a6-7	6-E-6-3-2-1-3-2-5	次三十一頌半頌行菩薩道(分三)(31.5)	十地経
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-1	自行	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2	相貌(十地修)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3	信解(見道已前)	
685a8			6-E-6-3-2-1-3-2-5-1	初一頌頌種種因緣(1)	
685a9		3a7	6-E-6-3-2-1-3-2-5-1-1	「恒沙菩薩」	
685a17	【068】	3a8-15	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2	次十七頌頌種種相貌(分二)17	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1	初十五頌頌六度次習二益門成15	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1	頌六度中分六	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1	初六頌施(有三)(6)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1	初四外財(4)	
685a23			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-1	一施七宝(1)	

		3a8	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-1	一「金」	説文
		3a8	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2	二「銀」	
		3a8	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-3	三「珊瑚」	
		3a8	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4	四「真珠」	仏地論
		3a8	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-5	五「摩尼」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-6	六「車渠」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-7	七「馬瑙」	上生疏
685b6			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2	次施八珍(1)	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-1	一「金剛」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-2	二「諸珍」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-3	三「奴」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-4	四「婢」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-5	五「車」	
		3a9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-6	六「乘」	周礼
		3a10	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-7	七「宝飾蒙」	
		3a10	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-2-8	八「宝飾典」	説文
685b16			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-3	次施成度(1)	成唯識[論]
		3a11	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-3-1	「願得仏乘三界第一」	
685b21			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4	後施雜物(1)	
		3a12	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4-1	「驢」	古人(論語)
		3a12	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4-2	「欄」	
		3a12	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4-3	「橋」	
		3a12	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4-4	「華」	
		3a13	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4-5	「軒」	
		3a13	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-1-4-6	「飾」	
685c5			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-2	次一内外(1)	
		3a13	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-2-1	「身」等為内	
		3a14	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-2-2	「妻子」為外	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-3	後一内財[次一唯内](1)	
		3a15	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-3-1	「施」有五相(是名施五種)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-3-2	不応「施」亦五相	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-3-3	「施」有五利(是名施善利)	發菩提心經
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-1-3-4	於此「施」中起四智	菩薩地
685c18	[069]	3a16-18	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-2	次二戒(戒有三種)(2)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-2-1	一「律儀戒」	勝鬘經, 菩薩地,
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-2-2	二「持善法戒」	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-2-3	三「饒益有情戒」	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-2-4	「披法服」	有本
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-2-5	持戒有五利	智度論
686a8	[070]	3a18-19	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-3	次一忍(1)	
686a11	[071]	3a20-21	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-4	次一勤(1)	
		3a20	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-4-1	「精進」有五	[法華]經
686a22	[072]	3a21-23	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-5	次二定(2)	
		3a21	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-5-1	「常處空閑」	
		3a22	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-5-2	「深修禪定」	
		3a22	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-5-3	「得五神通」	
		3a23	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-5-4	「讚諸法王」	
686a26	[073]	3a24-25	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6	後三慧(3)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-1	此一「加行智」(1)	
		3a24	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-1-1	「智深」「志固」	
686b1	[074]	3a25-27	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2	此二「須領二智」(2)	
		3a25	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-1	「定慧具足」	
		3a26	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-2	「講法」有四意	
		3a26	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-2-1	一「欣樂說法」	
		3a27	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-2-2	二「化諸菩薩」	
		3a27	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-2-3	三「破十魔衆」	
		3a27	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-2-4	四「而擊法鼓」	
686b5			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-1-6-2-2-5	魔羅	雜藏(雜寶藏經)
686b12			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-1-2	次習二益円成[此六度中皆具二利]	
686b15	[075]	3a28-29	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-2	後之兩須八風不動三悲接物(2)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-2-1	此八風不動	
686b16		3a28	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-2-1-1	「宴」	
686b18			6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-2-1-2	八風	瑜伽
686b25	[076]	3a29-b1	6-E-6-3-2-1-3-2-5-2-2-2	此三悲接物	
686c1	[077]	3b1-2	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3	後十三須半頌種種信解[頌地前凡夫信解行通](135)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-0	六度乱脩即為六也	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-1	一須動(1)	遺教[經]
686c7		3b2	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-1-1	「嘗」	

686c8		3b2	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-1-2	「経行林中」	華嚴[経]
686c25	【078】	3b3-4	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-2	一頌戒(1)	
		3b3	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-2-1	「淨如宝珠」	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-2-1-1	一内外無瑕	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-2-1-2	二戒徳円備	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-2-1-3	三威光晃曜	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-2-1-4	四衆所愛樂	
687a3	【079】	3b4-6	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3	一頌半[耐怨害]忍(1.5)	
		3b5	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-1	「増上慢」	
		3b5	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-2	菩薩以五種觀「皆悉能忍」	幽贊(般若波羅蜜多心経幽贊)
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-2-1	一親屬想	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-2-2	二唯法想	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-2-3	三有苦想	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-2-4	四無常想	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-3-2-5	五摂受想	
687a11	【080】	3b6-8	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4	二頌定(2)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-1	所離有四	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-1-1	一戲謂分別戲論	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-1-2	二咲謂談諠	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-1-3	三離自愚痴	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-1-4	四離惡眷屬	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-2	不離有二	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-2-1	一翻第四親近善縁	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-4-2-2	二一心除乱翻前三種	遺教経
687a18	【081】	3b9-15	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5	五頌施(分三)(5)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1	初三頌四事施(3)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-1	四事	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-1-1	飲食	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-1-2	湯藥	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-1-3	衣服	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-1-4	臥具	
687a20		3b9	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-A	「肴」	
687a25		3b12	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-1-B	「脣檀」	
687a26			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-2	次一頌上妙施(1)	
		3b13	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-2-A	「清淨好園林」	
687b1			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3	後一頌意樂施(1)	
687b1			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1	意樂施中有六意樂	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1-1	一广大	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1-2	二無厭	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1-3	三歡喜	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1-4	四恩徳	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1-5	五無染	
			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-1-6	六善好	
687b3			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-2	此中有三	
		3b15	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-2-1	一「歡喜」	
		3b15	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-2-2	二「無厭」	
		3b15	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-3-2-3	三善好,即「求無上道」	
687b4			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-5-A	前施四事…八解池故	
687b13	【082】	3b15-19	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-6	三頌慈(3)	
687b14			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-6-1	初一後得智法施無尽故(1)	迦葉経(大宝積経)
687b17			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-6-2	次一正智証無相(1)	
687b17		3b17	6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-6-2-A	「二相」	
687b20			6-E-6-3-2-1-3-2-5-3-6-3	後一加行求正道故(1)	有本
687b25	【083】	3b19-20	6-E-6-3-2-1-3-2-6	[第六段]後七頌頌滅後起塔(7)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-A	有二	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-A-1	初一頌供養舍利(1)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-A-2	後六頌造塔供養(分三)(6)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-A-2-1	初三頌造塔獻飾(3)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-A-2-2	次一頌八部供養(1)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-A-2-3	後二頌造塔殊勝(2)	
687b29			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B	又七頌分二	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1	初五頌頌長行(復二)(5)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1	初四頌菩薩供養(復二)(4)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-1	初一頌供養舍利(1)	
687c5	【084】	3b21-24	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2	後三起塔(3)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-1	一頌數(1)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-2	一頌量(1)	
			6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-3	一頌嚴(1)	
687c9		3b22	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-A	梵云踰繕那(「由旬」)	菩薩地(瑜伽師地論),俱舍頌,余経

687c14		3b23	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-B	「縦、広」	
687c17		3b24	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-C	「露、輓」	宝塔品
687c22		3b24	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-1-2-D	「宝鈴和鳴」	
687c24	[085]	3b25-26	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-1-2	後一頌八部供養(1)	
687c26	[086]	3b26-28	6-E-6-3-2-1-3-2-6-B-2	後二頌結造塔勝(2)	
688a1	[087]	3b29-c2	6-E-6-3-2-2	[大文第二段]後八頌頌正興問[頌請](8)	
			6-E-6-3-2-2-1	初四頌驟奇興問(復二)(4)	
			6-E-6-3-2-2-1-1	初二頌驟近遠兩立奇(2)	
			6-E-6-3-2-2-1-1-1	初頌驟見近奇(1)	
			6-E-6-3-2-2-1-1-2	後頌驟見遠奇(1)	
688a6	[088]	3c2-5	6-E-6-3-2-2-1-2	後二頌參見二事問(2)	
			6-E-6-3-2-2-1-2-1	初頌驟自他之兩見(1)	
			6-E-6-3-2-2-1-2-2	後頌舉此彼之被瞻(1)	
688a10	[089]	3c5-6	6-E-6-3-2-2-2	後四頌推事請答(分四)(4)	
			6-E-6-3-2-2-2-1	初一頌推時請答(1)	
688a15	[090]	3c6-9	6-E-6-3-2-2-2-2	次一頌推事請答(1)	
			6-E-6-3-2-2-2-2-1	一妙法	
			6-E-6-3-2-2-2-2-2	二授記	
			6-E-6-3-2-2-2-3	次一頌舉事極大(1)	
688a18	[091]	3c9-10	6-E-6-3-2-2-2-4	後一頌正請彼答(1)	
6 6 1 c 2 3 , 688a21	[092]	3c11-12	6-E-7	第七文殊師利答成就(大分爲三)	[法華論]
			6-E-7-1	初標名終告	[法華]論(3c17-23)
688b5	[093]	3c12-14	6-E-7-2	次正答所徵(此答之中成就十事)	[法華]論(3c23-4a1)
		3c12-14	6-E-7-2-1	第一現見大義因(即此文是)	
		3c14f	6-E-7-2-2	第二現見世間文字章句甚深意因	
		3c17-18f	6-E-7-2-3	第三現見希有因	
		3c26f	6-E-7-2-4	第四現見勝妙因	
		4a1-2f	6-E-7-2-5	第五現見受用大因	
		4b6-7f	6-E-7-2-6	第六現見攝取諸仏転法輪因	
		4b7-8f	6-E-7-2-7	第七現見善堅實如來法輪因	
		4b9f	6-E-7-2-8	第八現見能進入因	
		4b10-11f	6-E-7-2-9	第九現見憶念因	
		4b15f	6-E-7-2-10	第十現見自身所運事因	
688b21			6-E-7-2-A	此十因中總爲五對	
			6-E-7-2-A-1	一義教對	
			6-E-7-2-A-2	二希勝對	
			6-E-7-2-A-3	三転嗣對	
			6-E-7-2-A-4	四堅進對	
			6-E-7-2-A-5	五他自對	
688b23			6-E-7-2-B	此中總分爲四	
			6-E-7-2-B-1	一示相壽量答(今此)	
			6-E-7-2-B-2	二舉古成今答	
			6-E-7-2-B-3	三指陳別事答(中間七因)	
			6-E-7-2-B-4	四古今相即答	
688b27	3c12		6-E-7-2-C	「惟、忖」	
688b28			6-E-7-2-1	現見大義因成就	[法華]論(4a2-6)
			6-E-7-2-1-1	八大義者	
			6-E-7-2-1-1-1	經有五句	
			6-E-7-2-1-1-2	論有八句	
			6-E-7-2-1-1-2-1	欲說大法	
			6-E-7-2-1-1-2-2	雨大法雨	
			6-E-7-2-1-1-2-3	擊大法鼓	
			6-E-7-2-1-1-2-4	不斷大法鼓	
			6-E-7-2-1-1-2-5	建大法幢	
			6-E-7-2-1-1-2-6	燃大法炬	
			6-E-7-2-1-1-2-7	吹大法螺	
			6-E-7-2-1-1-2-8	演大法義	
688c4	3c13		6-E-7-2-1-1-1-A	「大法鼓、雨大法雨、吹、螺」	
688c7			6-E-7-2-1-1-2-A-1	疑者=即欲說大法	[法華]論(4a8-9)
688c9			6-E-7-2-1-1-2-A-2	已斷疑者=即雨大法雨	[法華]論(4a9)
688c13			6-E-7-2-1-1-2-A-3	根熟者=即擊大法鼓、不斷大法鼓	[法華]論(4a9-12)
688c18			6-E-7-2-1-1-2-A-4	入密境界者=即建大法幢	[法華]論(4a12-13)
688c21			6-E-7-2-1-1-2-A-5	進取上上清淨義者=即燃大法炬	[法華]論(4a13-14)
688c25			6-E-7-2-1-1-2-A-6	取一切智現見者=即吹大法螺	[法華]論(4a14-15)、涅槃[經]
689a1			6-E-7-2-1-1-2-A-7	建立名字章句義者=即演大法義	[法華]論(4a15-17)
689a4			6-E-7-2-1-1-2-B	此八句中分爲四對	
			6-E-7-2-1-1-2-B-1	一破惡進善對	
			6-E-7-2-1-1-2-B-2	二開權顯實對	

			6-E-7-2-1-1-2-B-3	三得智証真対	
			6-E-7-2-1-1-2-B-4	四説法利生対	
689a8			6-E-7-2-1-1-1-B	經有五句唯二対半	
			6-E-7-2-1-1-1-B-1	有破惡進善, 説法利生, 開權一門	
			6-E-7-2-1-1-1-B-2	自余顕実, 得智証真, 文対皆欠	
689a12	[094]	3c14-15	6-E-7-2-2	現見世間文字章句意甚深因(文中有三)	[法華論](4a18-20)
			6-E-7-2-2-1	一挙過去	
689a17	[095]	3c15-16	6-E-7-2-2-2	二結成今	
689a18	[096]	3c16-17	6-E-7-2-2-3	三釈其意	
		3c16-17	6-E-7-2-2-3-1	「難信」	
689a22	[097]	3c17-18	6-E-7-2-[3...10=A]	下有八因[3...10]総為二文	
			6-E-7-2-A-1	初長行(分二)	
			6-E-7-2-A-1-1	初七因[3...9]指陳別事答(分三)	
			6-E-7-2-A-1-1-1	初一[3]讚揚希有答(有四)	[法華]論(4a21)
			6-E-7-2-A-1-1-1-1	一讚時久遠希	[法華]論(4a21-23)
689b2		3c18	6-E-7-2-A-1-1-1-1-1	梵云阿僧企耶(「阿僧祇」)	[法華論](4a22-23), 俱舍論, 華嚴經
689b5		3c18	6-E-7-2-A-1-1-1-1-2	劫臘度(「劫」)	[法華論](4a23)
		3c18	6-E-7-2-A-1-1-1-1-3	「不可思議」	[法華論](4a21-22)
			6-E-7-2-A-1-1-1-1-4	不可称	[法華論](4a22)
			6-E-7-2-A-1-1-1-1-5	不可量	[法華論](4a22)
689b8		3c17	6-E-7-2-A-1-1-1-1-A-1	「無量」	今[法華]經
		3c18	6-E-7-2-A-1-1-1-1-A-2	「無辺」	
		3c18	6-E-7-2-A-1-1-1-1-A-3	「不思議」	般若[經](四分)
689b10			6-E-7-2-A-1-1-1-1-B	劫	菩薩地(瑜伽師地論/二種), 瑜伽[師地論], 古撰論, 本[法華]論(五種)
689b28	[098]	3c18-20	6-E-7-2-A-1-1-1-2	二讀仏名号希	
		3c18-19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-1	「日月燈明」是別名	
		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2	「如來」已下是通名	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-1	日有二能	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-1-1	一導明	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-1-2	二成就	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-2	月有二能	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-2-1	一除熱	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-2-2	二清涼	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-3	燈有二能	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-3-1	一破暗	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-1-3-2	二伝照	
689c5			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2	十号	瑜伽[師地論]八十三
689c8		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-1	一如來(総序)	
689c9			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-1-1	報身仏	涅槃經
689c13			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-1-2	法身仏	般若[經]
689c14			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-1-3	義雖略得非此宗義	成実論
689c16		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-3	三正等覺	[瑜伽師地]論
689c17		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-2	二応[阿羅漢]	成唯識[論], 本[法華]論(十五義), 瑜伽[師地論], 此[法華]經
689c24		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-4	四明行円満	
690a4		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-5	五善逝	
690a7		3c19	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-6	六世間解	
690a15		3c20	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-7	七無上丈夫調御士	
690a20		3c20	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-8	八天人師	
690a22		3c20	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-9	九仏[陀]	
690a24		3c20	6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10	十薄伽梵(六徳)	仏地論
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10-1	一自在義	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10-2	二熾盛義	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10-3	三端嚴義	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10-4	四名称義	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10-5	五吉祥義	
			6-E-7-2-A-1-1-1-2-2-10-6	六尊貴義(今名世尊欠前五義)	
690b7	[099]	3c20-22	6-E-7-2-A-1-1-1-3	三讀法勝妙希(十徳)	八十三(瑜伽師地論)
690b8		3c21	6-E-7-2-A-1-1-1-3-1	一「初善」	
690b9		3c21	6-E-7-2-A-1-1-1-3-2	二「中善」	
690b10		3c21	6-E-7-2-A-1-1-1-3-3	三「後善」	[大]智度論, 宝篋經, 瑜伽[師地論]
690b19		3c21	6-E-7-2-A-1-1-1-3-4	四文巧(「其語巧妙」)	
690b21		3c21	6-E-7-2-A-1-1-1-3-5	五妙義(「其義深遠」)	
690b22		3c21-22	6-E-7-2-A-1-1-1-3-6	六純一(「純一無雜」)	
690b23		3c22	6-E-7-2-A-1-1-1-3-7	七円満(「具足」)	
690b25		3c22	6-E-7-2-A-1-1-1-3-8	八「清」淨	
690b27		3c22	6-E-7-2-A-1-1-1-3-9	九鮮「白」	
690b28		3c22	6-E-7-2-A-1-1-1-3-10	十「梵行」	新經

690c5	【100】	3c22-26	6-E-7-2-A-1-1-1-4	四讃生利答希	
690c7			6-E-7-2-A-1-1-1-4-1	「応」	
			6-E-7-2-A-1-1-1-4-2	声聞	
			6-E-7-2-A-1-1-1-4-3	緣覺	
			6-E-7-2-A-1-1-1-4-4	菩薩	
690c13		3c24	6-E-7-2-A-1-1-1-4-5	辟支迦仙陀(「辟支仏」)	
690c15	【101】	3c26-29	6-E-7-2-A-1-1-2	次一[4/第二]頭後勝妙答(文有四妙)	
			6-E-7-2-A-1-1-2-1	(此中有二)一名同妙	
			6-E-7-2-A-1-1-2-2	二姓同妙	
		3c28	6-E-7-2-A-1-1-2-A	「願羅墮」	
690c20	【102】	3c29-4a1	6-E-7-2-A-1-1-2-3	(此有二妙)一号同妙	
			6-E-7-2-A-1-1-2-4	二法同妙	
690c23	【103】	4a1-2	6-E-7-2-A-1-1-3	後五[5-9/第三段]委陳同事答(有五四)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1	一受用大因	
			6-E-7-2-A-1-1-3-2	二摂取諸仏転法輪因	
			6-E-7-2-A-1-1-3-3	三善堅實如來法輪因	
			6-E-7-2-A-1-1-3-4	四能進入因	
			6-E-7-2-A-1-1-3-5	五憶念因	
			6-E-7-2-A-1-1-3-[1...5=A]	於中有二	
			6-E-7-2-A-1-1-3-A-1	初一因在宣揚	
			6-E-7-2-A-1-1-3-A-2	後四因滅後行化	
			[6-E-7-2-A-1-1-3-A-1]	[初一因在宣揚]	
690c27			6-E-7-2-A-1-1-3-1	[第一]受用大因	[法華]論(4b3-5)
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-A	此解受用因中文之大意有二受用	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-A-1	一在家受欲樂	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-A-2	二出家受法樂	
691a4			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1	一示相同今(有六)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1	第一同今衆成(有二)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1	一在俗(有三)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-1	一標有子	
691a15	【104】	4a2-4	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-2	二列八名(分為四双)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-2-1	一大智大悲双	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-2-2	二了有了空双	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-2-3	三進善破惡双	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-2-4	四達偽知真双	
691a18	【105】	4a4-5	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-3	三明王化	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-3-1	如何今言各領四天下	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-1-3-2	如何彼仏有子而作輪王	無量義[經], 法華[經], 鼓音王經
691b2	【106】	4a5-7	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-2	二出家(有三)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-2-1	一形隨真侶	
691b7	【107】	4a7	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-2-2	二行出塵中	
691b11	【108】	4a7-8	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-1-2-3	三得遇良緣堅修福慧	
691b13	【109】	4a8-9	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-2	第二同今時成	法華[經], 無量義[經]
691b16	【110】	4a10-11	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-3	第三今成僞成(有三)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-3-1	一仏入定	
691b19	【111】	4a11-13	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-3-2	二器世間	
691b20	【112】	4a14-17	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-3-3	三有情世間	
691b22	【113】	4a18-19	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-4	第四同今說因成	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-4-1	一放光	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-4-2	二照境	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-4-3	三所見	
		4a19	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-4-A	「如今所見是諸仏土」	
691b25	【114】	4a19-21	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-5	第五同今欲聞成(有二)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-5-1	一衆欲聞法	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-5-2	二欲知光緣	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-5-A	問答	[法華]經
691c6	【115】	4a21-22	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-5-2	欲知光因緣推覓答	
		4a22	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-5-2-A	「為」	
691c8	【116】	4a22-23	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-6	第六同今答成	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-6-1	一燈燈眷屬	法華經, 無量義經
691c11	【117】	4a23-25	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-6-2	二因說此經	
691c26	【118】	4a25-27	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-6-3	三時節短長	[法華]論
692a2	【119】	4a27-28	6-E-7-2-A-1-1-3-1-1-6-4	四大衆安樂	
692a6	【120】	4a28-b2	6-E-7-2-A-1-1-3-1-2	二唱滅異即	
692a9		4a29	6-E-7-2-A-1-1-3-1-2-A-1	「沙門」	
692a11		4a29	6-E-7-2-A-1-1-3-1-2-A-2	「婆羅門」	
692a13	【121】	4b2-3	6-E-7-2-A-1-1-3-1-3	三当成仏記(有二)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-1-3-1	一標	

692a16	[122]	4b3-5	6-E-7-2-A-1-1-3-1-3-2	二[授]記	
		4b4-5	6-E-7-2-A-1-1-3-1-3-2-A	「多陀,阿伽度,阿羅訶,三,藐,三,仏陀」	増一阿含
692a25	[123]	4b5-6	6-E-7-2-A-1-1-3-1-4	四現入涅槃	涅槃經
692a28	[124]	4b6-7	6-E-7-2-A-1-1-3-A-2	下四因滅後行化	
			6-E-7-2-A-1-1-3-2	〔第二〕二撰取諸仏転法輪因	[法華]論
692b3	[125]	4b7-9	6-E-7-2-A-1-1-3-3	第三善堅実如来法輪因	[法華]論
		4b8	6-E-7-2-A-1-1-3-3-A	「堅固」	
692b8	[126]	4b9-10	6-E-7-2-A-1-1-3-4	第四能進入因	[法華]論
		4b9	6-E-7-2-A-1-1-3-4-A-1	「供養」	
			6-E-7-2-A-1-1-3-4-A-2	諸仏	
692b12	[127]	4b10-11	6-E-7-2-A-1-1-3-5	第五憶念因(文分為二)	[法華]論
			6-E-7-2-A-1-1-3-5-1	一八子成仏	
692b17	[128]	4b11-13	6-E-7-2-A-1-1-3-5-2	二八百弟子成仏(有二)	
			6-E-7-2-A-1-1-3-5-2-1	一染因	[法華]論
692b22	[129]	4b13-15	6-E-7-2-A-1-1-3-5-2-2	二淨因	
		4b14-15	6-E-7-2-A-1-1-3-5-2-2-A	「供養,恭敬,尊重,讃歎」	[法華]論
692b26	[130]	4b15-16	6-E-7-2-A-1-2	後一因[10]古今相即答(有二)	[法華]論
			6-E-7-2-A-1-2-1	一即人	
692c1	[131]	4b16-18	6-E-7-2-A-1-2-2	二即法	
692c3	[132]	4b18-24	6-E-7-2-A-2	後偈頌(由此還分為二)43	
			6-E-7-2-A-2-A	頌前指陳別事古今相即	
			6-E-7-2-A-2-B	不頌初二因[1, 2]	
			6-E-7-2-A-2-C	後有二頌…非頌前義	
			6-E-7-2-A-2-1	初四十頌頌指陳別事40	
692c7			6-E-7-2-A-2-1-0	長行…七因…今不頌…[4]勝妙因…頌六因[3, 5…9](但分為二)	
			6-E-7-2-A-2-1-1	初二頌頌[3]讚揚希有(有四)(2)	
			6-E-7-2-A-2-1-1-1	初二句頌時(0.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-1-2	次二句頌名(0.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-1-3	次一句頌法(0.25)	
			6-E-7-2-A-2-1-1-4	後三句頌生利益(0.75)	
692c13	[133]	4b25-26	6-E-7-2-A-2-1-2	後三十八頌頌[5…9]委陳同事(五因分二)38	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1	初二十九頌頌受用大因仏在宣揚(分四)29	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1	初二十頌頌示相同今(有六)(20.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-1	初一衆成(1)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-1-1	上二句頌在俗(0.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-1-2	後二句頌出家(0.5)	
692c23	[134]	4b27-28	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-2	次一時成(1)	
692c25	[135]	4b29-c1	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3	次二頌半咸儀成(有二)(2.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-1	一頌入定(1)	
692c28	[136]	4c2-4	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-2	一頌半器及有情世間(有五)(1.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-2-1	入定	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-2-2	雨華	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-2-3	作樂	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-2-4	供養	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-3-2-5	地動	
693a6	[137]	4c5-6	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4	次十頌半説因成(有)(三)(10.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-1	二句放光(0.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-2	二句照境(0.5)	
693a9	[138]	4c7	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3	九頌半如今所見是諸仏士(9.5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-1	初半頌六趣衆生(0.5)	
693a16	[139]	4c8-9	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-2	三頌見仏(分三)(3)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-2-1	一見淨土(1)	
693a20		4c9	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-2-1-A	梵云吹琉璃(「琉璃」)	
693a21		4c9	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-2-1-B	願厭離(「願樂」)	智度論
693a26	[140]	4c10-13	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-2-2	一見供養(1)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-2-3	一正見(1)	
693a28	[141]	4c14-15	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-3	一頌聞法(1)	
693b2	[142]	4c16-17	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-4	一頌見四衆(1)	
693b4	[143]	4c18-25	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-5	四頌見菩薩(4)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-5-1	一頌動・寂(1)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-5-2	一頌施・忍(1)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-5-3	一頌禪定(1)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-4-3-5-4	一頌智慧(1)	
693b11	[144]	4c26-28	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-5	次一頌半欲聞成(1.5)	
693b15	[145]	4c29-5a3	6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-6	後四頌答成(有)(二)(4)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-1-6-1	初二頌因説此經(2)	此[法華]經

693b21	[146]	5a4-7	6-E-7-2-A-2-1-2-1-6-2	後二頌時節短長(2)	
693b23	[147]	5a8-11	6-E-7-2-A-2-1-2-1-2	次四頌頌唱減異即(分三)(4)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-2-1	二頌唱減(2)	
693b27	[148]	5a12-13	6-E-7-2-A-2-1-2-1-2-2	一頌誠勸所化(1)	[法華]經
693c3	[149]	5a14-15	6-E-7-2-A-2-1-2-1-2-3	一頌大衆悲愴(1)	
693c5	[150]	5a16-17	6-E-7-2-A-2-1-2-1-3	次二頌半頌当成仏記(有二)(25)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-3-1	一頌勸勿生憂(1)	
693c9	[151]	5a18-20	6-E-7-2-A-2-1-2-1-3-2	後一頌半正明授記(15)	
693c11	[152]	5a21-24	6-E-7-2-A-2-1-2-1-4	後二頌頌現入涅槃(2)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-4-1	初一頌現入涅槃(1)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-1-4-2	後一頌見失良匠精勤慕道(1)	
693c14	[153]	5a25-26	6-E-7-2-A-2-1-2-2	後九頌頌余四因減後行化(分四)(9)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-2-1	初一頌撰取諸仏転法輪因(1)	
693c20	[154]	5a27-28	6-E-7-2-A-2-1-2-2-2	次一頌善堅實如來法輪因(1)	真諦釈
694a6	[155]	5a29-b1	6-E-7-2-A-2-1-2-2-3	次一頌能進入因(1)	
694a8	[156]	5b2-3	6-E-7-2-A-2-1-2-2-4	後六頌憶念因(分二)(6)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-2-4-1	初一頌憶八子(1)	
694a11	[157]	5b4-8	6-E-7-2-A-2-1-2-2-4-2	後五頌憶八百弟子(分二)(5)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-2-4-2-1	初二頌半憶樂因(25)	周札、鄭玄
694a20	[158]	5b9-13	6-E-7-2-A-2-1-2-2-4-2-2	後二頌半憶淨因(25)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-2-4-2-2-1	初五句憶淨五因(125)	
			6-E-7-2-A-2-1-2-2-4-2-2-2	後五句憶淨二果(125)	
694a23	[159]	5b14-15	6-E-7-2-A-2-2	後三頌頌古今相即(有三)(3)	
			6-E-7-2-A-2-2-1	初一頌即人(1)	
694a27	[160]	5b16-17	6-E-7-2-A-2-2-2	次一頌即法(1)	
694a29	[161]	5b18-19	6-E-7-2-A-2-2-3	後一頌結成(1)	
6 8 8 b 3 . 6 9 2 c 5 . 694b4	[162]	5b20-21	6-E-7-3	後有二頌語衆勸知陳仏今説(有二)(2)	
			6-E-7-3-1	初一頌明仏説法雨道芽生令進善也(1)	
694b9	[163]	5b22-23	6-E-7-3-2	後一頌明仏説法令求道者疑惑皆除斷滅衆惡(1)	
			6-E-7-2-A-2-C	此後二頌雨大法雨(2)	

〈キーワード〉

『妙法蓮華經玄賛』、『法華経』、「序品」、基、慈恩大師